

飛散セシ鐵片ニ因スルモノ……………三四名
 自砲發射ノ激動及瓦斯ノ動力ニ因スルモノ……………一六名
 砲彈全體ノ打撃ニ因スルモノ……………一二名
 砲彈爆發ノ激動ニ觸レ身體跳子飛サレシカ顛仆セシニ因スル者一二名
 敵彈ノ爲メ氣罐ヲ破碎セラレ其蒸氣及熱湯ニ觸ル、ニ因スルモノ八名
 彈片ニ因セシカ鐵片ニ因セシカ不明ノモノ……………三名
 飛散セシ塗具ノ剝離片ニ因スルモノ……………三名
 小銃丸ニ因スルモノ……………二名
 鐵片ニ因セシカ木片ニ因セシカ不明ノモノ……………二名
 箝壓ニ因スルモノ……………二名
 顛落ニ因スルモノ……………一名
 衝突ニ因スルモノ……………一名
 飛散セシ蕎麥殼ニ因スルモノ……………一名
 合計……………三六六名
 外ニ溺死若クハ凍死凍傷セルモノ……………五名
 右ハ死傷者ニ就キ其重モナル一創傷ノ原因ヲ探テ表別セシモノナレ死傷者ハ實際唯一創傷ヲ負フニ止マラス一身ニ數創傷ヲ兼子負フモノ甚タ多ク

從テ一人ニシテ數原因ニ觸レタルモノ少カラストス故ニ各原因ト創傷ノ種類及其多寡トノ關係如何ヲ知ラント欲スルニハ先ツ其創傷ヲ個々獨立ノモノト看做シテ表別スルヲ要ス即チ死傷者數ニ關係セス其創傷數ニ就テ原因及創類ヲ表別スレハ左表ノ如シ

第二表

原因	創名	傷擦過創	溝狀創	失肉創	創	盲孔創	貫通創	挫斷創	粉壘創	火傷	湯傷	鼓破	膜裂	合	計
砲彈	砲丸	一	四	一	九	一	一	一〇							二
小銃	彈片	一	七	三	七	一	一	七							二
彈片	金屬片	一	〇	三	七	一	一	七							二
木片	砲彈爆發	一	三	二	五	一	三	五							六〇
砲彈爆發	砲彈爆發ノ激動	一	四	五	〇	二	三	八	三〇						五九
火藥ノ發火	彈片カ鐵片カ不明ナルモノ	一	一	一	一	一	一	一	一	七					一九
鐵片カ木片カ不明ナルモノ	塗具ノ剝離片	一	一	一	一	一	一	一	一	一					七九
塗具ノ剝離片		三	一	一	一	一	一	一	一	一	四				六
															一三
															三

合	蒸	衝	顛	箝	發砲ノ瓦斯	蕎麥殼
計	氣	突	落	壓		
五九	:	:	二	一	:	:
七五	:	:	:	:	:	:
六	:	:	:	:	:	:
四	:	:	:	:	:	:
一八四	:	一	:	一	:	:
七九	:	:	:	:	:	一
三八	:	:	:	:	:	:
五三	:	:	:	一	:	:
三〇	:	:	:	:	:	:
七八	:	:	:	:	:	三
八	八	:	:	:	:	:
一五	:	:	:	:	:	一
六二九	八	一	二	三	四	一

前表ニ據ルニ諸創傷數合シテ六百二十九ニシテ其原因トナリシコト最モ多キハ砲彈ノ破裂片及破砕片ニシテ之カ爲メニ生セシ創傷數ハ總創傷數ノ四五九五「ベルセント」ヲ占メ其次ハ砲彈爆發ノ爲メニ生セシ火藥ノ發火ニシテ之ニ因スル創傷數ハ前者ニ比シ遙ニ下リテ一二五六「ベルセント」ヲ占メ其次ハ砲彈ニ破砕サレタル金屬介達彈ニシテ之ニ因スル創傷數ハ九五五四「ベルセント」ヲ占メ其次ハ砲彈ノ爆發ニシテ砲彈ノ破裂片ハ固トヨリ炸藥ノ瓦斯及火氣其他鐵木ノ介達彈ヲ同時ニ受クルニ因スル創傷數ハ九三八「ベルセント」ヲ占メ其次ハ砲彈ニ破砕サレタル木材ノ介達彈ニシテ之ニ因スル創傷數ハ九二二「ベルセント」ヲ占メ其次ハ砲彈爆發ノ激動ニシテ身體跳子飛サレシカ

或ハ顛仆セシニ因スル創傷數ハ三〇三「ベルセント」ヲ占メ其次ハ自砲發射ノ火藥瓦斯及激動ニシテ之ニ因スル創傷數ハ二二三「ベルセント」ヲ占メ其次ハ鐵片ニ因セルカ木片ニ因セルカ不明ノモノニシテ其創傷數ハ二〇七「ベルセント」ヲ占メ其次ハ砲彈全體ノ打撃ニ因スルモノニシテ其創傷數ハ一九一「ベルセント」ヲ占メ其次ハ蒸氣及熱湯ニ因スルモノニシテ其創傷數ハ一二七「ベルセント」ヲ占メ其次ハ彈片ニ因セルカ鐵片ニ因セルカ不明ノモノニシテ其創傷數ハ〇九五「ベルセント」ヲ占メ其次ハ箝壓ニ因スルモノト塗具片ノ擦撃ニ因スルモノニシテ其創傷數ハ各〇四八「ベルセント」ヲ占メ其次ハ小銃丸若クハ之ニ類スル彈丸ニ因スルモノト顛仆ニ因スルモノニシテ其創傷數ハ各〇三二「ベルセント」ヲ占メ最モ少キモノヲ衝突ニ因スルモノト蕎麥殼ニ因スルモノトシ其創傷數ハ各〇一六「ベルセント」ヲ占ムル割合ナリ此ノ外ニ溺死及凍死セシモノ四名凍傷セルモノ一名アリトス

創傷種類ノ多寡ヲ論スルトキハ最モ多キモノヲ擣創トシ其次ヲ盲孔創若クハ穿入創トシ其次ヲ火傷トシ其次ヲ擦過創トシ其次ヲ擣傷トシ其次ヲ挫斷創トシ其次ヲ貫通創トシ其次ヲ粉齏創トシ其次ヲ鼓膜破裂トシ其次ヲ湯潑

傷トシ其次ヲ溝狀創トシ最モ少キヲ失肉創トス左ニ尙ホ原因物ト創類ノ關係ヲ演釋スヘシ

第一 擣傷

(一) 砲彈破裂片ノ打撃ニ因スル擣傷十九傷アリ然レ一人ニシテ二三ヶ所ニ同傷ヲ存セシモノアルヲ以テ負傷者數ハ十四名トス多クハ血斑若クハ小血腫ヲ生セシニ止マル輕度ノモノナリシモ其内少ク異趣アルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

第一例胸部ノ擣傷ニシテ左第三肋軟骨ノ折傷ヲ兼ネシモ内臟損傷ノ徵候ナク餘害ナクシテ治癒セリ(病歴二二五號)

第二例右上膊上部ニ擣傷ヲ蒙リ表皮剝離シ血腫ノ爲メ大ニ腫脹ヲ來シ且ツ肩胛關節組織ヲ損傷シテ其運動ヲ障礙シ全治ニ至ル迄三ヶ月餘ノ日子ヲ要セリ(病歴一九七號)

第三例邊縁ノ徑二・五珊米基底ノ徑三珊米厚サ一珊米ノ彈片ニ右鼠蹊部ヲ撃タレシモ上衣ノ「ボツケツト」内ニ革製烟草袋ト洋銀製ノ烟管トヲ藏セシ爲メ該彈片ハ上衣ト烟草袋トヲ破リ烟管ヲク字狀ニ彎屈セシメテ停止シ僥倖ニモ鼠蹊部ニハ單ニ皮下溢血ノ擣傷ヲ來セシニ止マレリ若シ該烟管ナカリセバ重篤ノ腹部穿入創若クハ腹部貫通創ヲ生セシコト明カナリ(病歴一三五號)

第四例右胸前面第三第四肋骨部ニ擣傷ヲ蒙リ手掌大ノ皮下溢血ヲ生シ甚シク腫脹シテ爾來咯血

咳嗽アリ深吸息時ニハ急痛ヲ訴ヘ其近部ニ捻髮音ヲ聽取セシモ肋骨若クハ肋軟骨ニ損傷ノ徵候ナク受傷後十日ヲ經テ入院ノ當時ニハ已ニ咯血止ミ胸部ノ理學的診斷上心肺及肋膜ニ異狀ヲ認メスシテ間モナク治癒セリ是骨傷ナカリシト雖モ肺ニ幾クカ擣傷ヲ及ホセシモノナラン(病歴二五七號)

近來ノ武器ヲ以テ戰フハ彈片ノ如キ艦内ニ飛散スル者バ其數意想外ニ多シ黃海々戰後比叻一艦内ニ飛散セシ彈片ノミヲ拾集セシニ殆ト大櫃ヲ充タスニ至レリスノ如ク多數ナル彈片艦内ニ飛散スルニ於テハ人體ヲ撃ツニ當リ已ニ其勢力ヲ失スルモノアリ或ハ否ラサルモ其鈍圓面ヲ以テ皮面ニ衝突シ擣傷ノ如キヲ生スルコト多カルベキハ自然ナリ然レモ砲彈ノ破片ニ因スル諸創傷數ハ第二表ニ明カナルガ如ク合計二百八十九傷ニ其内本傷ハ十九傷ナリ之ヲ百分比例スルハ六・五七「ベルセント」ニ過キサレハ彈片ノ爲ニ生スル本傷ハ多シト謂ハンヨリ寧ロ比例的少キモノト謂フベシ是レ蓋シ海戰ニ於テハ砲彈ノ遠方ヨリ破裂シテ飛來スルモノ尠ク多クハ艦體ニ命中ノ後チ爆裂若クハ破碎スルモノニ且ツ艦内ニハ堅牢ナル障壁及ヒ他ノ障礙物多ケレハ彈片ノ入ヲ傷クルハ概テ其破裂點若クハ破碎點ヨリ近距離内ニ在リテ縱令其勢力ハ本來猛劇ナラサルモ尙ホ大抵ハ他ノ創傷ヲ生スルニ足レ

ルモノニシテ夫ノ種々ノ障碍物ニ衝突シ其勢力ヲ失シタル後チ始メテ人體ヲ撃ツハ偶少レニ之アルノミナルト又彈片ノ形狀ハ不整ニシテ尖角銳縁アリ此ノ尖角銳縁ヲ以テ人體ヲ撃ツトキハ皮膚ヲ破リ易キヲ以テ擣傷ヲ生スルコト少キモノナラン

(二) 金屬片ノ打撃ニ因スル擣傷五傷ニシテ五名ニ存シ砲楯ノ破碎片ニ因スルモノ三傷他ノ鐵片ニ因スルモノ一傷眞鍮「レール」ノ破片ニ因スルモノ一傷ニシテ孰レモ皮下溢血ヲ生セシニ止マル單純ノ症ニシテ特記スベキ異例ナシ
敵彈命中ノ爲メ鐵材及ヒ他ノ金屬材ヲ破摧シ其斷片飛散スルコト少カラサルハ海戰ニ於テ當ニ然ルベキ所トス其斷片ノ勢力ハ同大同形ノ彈片殊ニ爆裂彈片ニ比スレハ遙ニ劣レルコト勿論ナリ是レ彈丸ハ初メ金屬材ヲ破壊スルニ當リテ其抵抗ノ強弱ニ從ヒ勢力ノ多少ヲ消費スベキモノニシテ多少勢力ヲ消費シタル彈丸ヨリ其ノ幾部分ノ勢力ヲ賦與セラレテ以テ金屬斷片ハ始メテ動力ヲ有スルモノナレハナリ然レハ金屬介達彈ハ大小各同シカラサルベキモ概シテ其勢力弱キカ爲メ擣傷ヲ生スルコト彈片ニ比スレハ遙カニ

多カルベキナレ其其實例ハ僅ニ五症アルノミニシテ之レヲ同因ノ諸創傷總數六十症ニ對シ百分比例スルハ八・三三ニ當リ彈片ニ因スルモノト比シ唯比例的僅ニ多キノミ是レ蓋シ偶然ニシテ然リシニ非スシテ金屬片ノ勢力ハ彈片ニ比スルニ固トヨリ弱キモ遠方ニ飛散セルハ殆ト無クシテ其人ヲ傷クルハ彈片ニ比スルニ尙ホ更ニ近距離ニ限レル事實アリシカ爲メ其勢力多クハ他ノ創傷ヲ生スルニ足りシト其形狀彈片ト同シク不整ニシテ尖角銳縁ヲ有シ皮膚ヲ破ルニ利アリシトニ緣由スルナラン

(三) 木片ノ打撃ニ因スル擣傷十七傷ニシテ十四名ニ存シ多クハ溢血腫脹ヲ來セシニ止マリ數日ニシテ全癒セシモノナレ其内少ク異趣アルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一例破摧木片ノ爲メ右側ノ前膊ト手部ヲ打撃セラレ後チ四日ヲ經テ入院シタル當時ハ前膊一般ニ腫脹シ其中部三分ノ一ト下部三分ノ一トノ接際ニ於テ尺骨ニ折傷アルヲ認メ且ツ同側ノ環指及小指ノ背面ニ擣傷アリ環指第一指骨ノ骨折ヲ認メタリ依テギプス繃帶ヲ以テ保定シ凡ソ一ケ月ヲ經テ斷骨部癒着セシモ環指小指ノ屈伸障礙セラレ遂ニ復舊セスシテ免役セラレタリ(病歴二二三號)

第二例木片ニ右側ノ前膊手部及下腿ノ外側ヲ打撃セラレ溢血腫脹ヲ來シ腓骨頭ノ折斷ヲ認メ副

木ヲ貼セシニ凡ソ一ヶ月ヲ經テ全治セリ(病歴二八四號)

第三例木片ニ右上眼瞼ヲ擦過セラレ眼球ニ擣傷ヲ負ヒ結膜充血シ前房内ニ溢血アリ視力衰乏ス後チ數日ニシテ前房ノ溢血吸收セラレ結膜充血消散セルモ物體ヲ凝視スルキハ雲絮様物眼前ヲ遮リ朦朧トシテ明白ナラス遂ニ輕度ノ外斜視症ヲ遺セリ(病歴一〇八號)

木材モ亦鐵材ト同シク介達彈トナルコト多カリキ而シテ木片ヲ鐵片ニ比スルニ其比重ノ輕キコト數倍ナレハ同大ニシテ同一ノ動力ヲ賦與セラル、モノトスルトキハ木片ハ鐵片ニ比シ比重ノ少キニ準シ其勢力數倍弱カルベキ數ニシテ縱令彈丸ノ木材ヲ破擢スルハ鐵材ヲ破擢スルヨリ容易ニシテ從テ其勢力ヲ減殺スルコト少ケレハ木片ニ賦與スル動力ハ鐵片ニ賦與スルモノヨリ常ニ幾クカ多シトスルモ木片ト鐵片トノ比重ニ大差アルカ爲メ木片ノ勢力ハ鐵片ヨリ常ニ大ニ弱シトス然レハ木片ハ擣傷ノ如キヲ生スル「彈片及鐵片ヨリ當然多カルヘキモノニシテ木片ニ因スル諸創傷數ノ合計五十八傷中本傷ハ十七症ヲ占メ之ヲ百分比例スルハ二九・三一「ペルセント」ニ當リ彈片及鐵片ノ擣傷ニ於ケル比例數ヨリ遙ニ多キヲ示セルハ即チ其理ナリ

(四) 砲彈爆發ノ激動ニ因スル擣傷十四傷ニシテ十名ニ存ス

第一例軍艦松島ニ於テ敵彈爆裂ト同時ニ多數ノ藥莢爆發シ其激動ノ爲メ身體ヲ後方ニ跳ネ飛サ

レ顛頂後部右側肩頭及右肘關節ヲ打撲シ一時失神セシモ須臾ニシテ自覺シ火災ノ鎮滅ニ從事セリ而シテ肘關節ノ擣傷ハ重クシテ大ニ腫脹ヲ來シ入院治療ヲ要セリ(病歴二一一號)

第二例同時激動ノ爲メ體ヲ簸揚セラレ兩踝關節ノ拉傷ト脊髓震盪症トヲ起シ踝關節部及足背部ハ大ニ腫起變色シ且ツ兩下肢ノ麻痺ヲ起シ腰椎下部ヲ壓スレハ疼痛アリテ入院三ヶ月餘ニ及ヒ漸ク輕快退院セリ(病歴一六〇號)

第三例前症ト同時同一ノ原因ニ由リ兩踝關節及足部ノ關節ニ拉傷ヲ受ケ入院受療凡ソ九ヶ月ニ及フモ歩行力充分ニ復セサルカ爲メ永久兵役ヲ免セラレタリ(病歴二九三號)

第四例軍艦比叡ニ於テ敵彈爆發ノ爲メ劇シキ激動ニ觸レ顛倒シテ右踝關節部ヲ捻挫シ外踝部ノ骨折ト踝關節ノ不全脱臼ヲ來シ入院三ヶ月ニシテ輕快退院セリ(病歴二九六號)

第五例前者ト同時ニ激動ノ爲メ艦橋上ヨリ跳ネ飛サレ「レ」ニ衝突シ右鎖骨部ニ擣傷ヲ受ケ鎖骨々折ヲ來セシモ一ヶ月餘ニシテ治癒セリ(病歴一八八號)

第六例鹿角砲砲臺ニ於テ敵彈二米突ノ距離ニ破裂シ其瓦斯力ノ爲メ砲塙壁ヨリ衝キ落サレ右踝關節ニ拉傷ヲ負ヒ入院一ヶ月餘ニシテ全治セリ此ノ他ハ松島比叡及葛城ニ於テ同様ノ原因ニ由リ右側肩頭部右側胸部ニ擣傷ヲ負ヒ又足部關節ノ拉傷ヲ受ケシモノ等ニシテ爰ニ特記スヘキ趣味アルモノニ非ス

砲彈ノ爆發スルヤ之カ爲ニ生スル激動ハ極メテ急劇ナルモノニシテ夫ノ松嶋ノ前部下甲板ニ三十珊半彈ノ爆發シテ且ツ多數ノ藥莢ニ發火セシメタルヤ上甲板前部ハ劇シク跳子擧ケラレタルノミナラス穹窿狀ニ彎屈シ且ツ廣

ク裂開セラレタリ又夫ノ比叡ノ下甲板士官室ニ於テ三十珊半彈ノ爆發シタルヤ上甲板上ノ艦橋ニ至ル迄四五寸間上方ニ跳子擧ケラレタルハ歴然トシテ其證據ヲ「スタンション」ニ留メタリ斯ノ如ク不意ノ激震ヲ起スニ於テハ爲ニ身體跳子飛サル、カ若クハ顛仆墜落シテ他物ニ衝突シ負傷スルモノ少カラサルハ怪ムニ足ラス而シテ其創傷ノ多ク擣傷ニ屬スヘキハ自然ニシテ此ノ原因ノ爲メ生セル創傷ノ合計數十九症中十四症ハ擣傷ナリ之ヲ百分比例スルトキハ七三・六八「ベルセント」ニ當ル但シ此ノ原因ヨリ來ル擣傷ニハ足部關節重度ノ拉傷ノ如キ將々脊髓震盪症ノ如キ治癒ニ頗ル困難ナル症少カラストス

(五) 鉋壓及顛落ニ因スル擣傷三傷アリ一ハ自艦發砲ノ激動ノ爲メ機關室内ヘ顛落シ胸部ヲ打撲シ失神セシモノニシテ即時蘇生法ヲ施セシニ由リ恢復シ骨折若クハ内臟損傷ノ徵候ナカリシモノナリ一ハ自艦發砲ノ激動ノ爲メ砲後ノ輾輪轉シ左足ヲ壓シテ足背ニ溢血ヲ生セシニ止マリ一ハ水雷運搬ノ際滑轉シテ右手ヲ甲板面ニ突キ右拇指第一指骨ヲ折傷セシモノナリ

(六) 原因不明ノ擣傷一症アリ軍艦赤城ノ砲員ニシテ黃海々戰ノ際艦橋右舷

側ノ速射砲發射ニ從事中敵ノ十五珊砲彈艦尾ノ方ヨリ射來シ眼前一尺許ノ所ヲ飛過シ該砲ノ支柱ニ中リ破碎シ飛散セル破碎彈片ノ爲メ左鎖骨ノ外端部及兩下肢ノ數ヶ所ニ擦過創及擣創ヲ負ヒ且ツ此ノ際ヨリ兩眼失明セリ而シテ眼瞼部鼻部其他顔面ニ於テハ更ニ擣傷等ヲ受ケタル徵候ナク唯眼球結膜充血シ殊ニ右眼ニ甚シキヲ認メタルノミニシテ異物等ノ竄入シタル痕跡ナシ後チ四日ヲ經テ入院ノ當時ハ兩眼結膜發炎シ右眼ノ角膜ハ溷濁シ視力全失シテ明暗ヲ辨セス且ツ兩眼内疼痛甚シ後チ二三日ヲ經テ眼内ヲ細檢スルニ右眼結膜ノ發炎依然トシテ角膜圍ニハ充血甚シク角膜ハ微濁シ虹彩ハ其上緣ニ於テ後癒着ヲ起シテ鋸齒狀ヲナシ水晶體ハ鼻側ニ向ヒ半バ脫位シ少ク溷濁シ淡灰白色ヲ呈シ視力失シ左眼ハ外見上著シキ變狀ヲ認メサリシモ眼底検査上網膜剝離シ出血アルヲ認メ視力全ク失乏セリ而シテ入院受療數ヶ月ニ及ヒ諸部ノ創傷ハ早ク已ニ治癒シ眼球外部ノ炎症等ハ消散セシト雖モ視力更ニ復セスシテ遂ニ免役セラル(病歴一〇七號)

抑此眼球擣傷ハ何カ爲ニ發生セルヤ理解シ難キモノニシテ砲彈ハ眼前一尺ノ所ヲ飛過シ砲ノ支柱ニ中リテ破碎セシモノナリ其破碎片ニ兩眼球ヲ打撲

セラレシモノトセンカ眼瞼及鼻梁等ニ毫モ外傷ノ痕跡ヲ留メサルハ如何彈片ノ如キ物體ノ飛來シテ兩眼ヲ打ツニ當リテ其中間ナル鼻梁等ニ微擣傷ダモ生セサルコトアリ得ヘシトハ信シ難シ又該彈ハ單ニ破碎シタルニ非スシテ炸藥爆發ノ爲メ爆裂シタルモノトセンカ爆發瓦斯ノ飛動力ニ顔部ヲ擊タレ皮面ニハ敢テ損傷ヲ來サ、ルモ眼球ノ如キハ之レカ爲メ内部ノ擣傷ヲ起スコトアルヘキハ理會シ易シトス然レモ該彈ハ爆裂シタルニ非スシテ單ニ破碎シタルノ事實タルハ調査上疑ヲ容レサル所ナリト云フ果ノ然ルハ到底此症ノ原因ヲ知ルノ途ナキガ如シ又往時唱道セラレタル風丸傷即チ砲丸ノ飛行スルヤ頗ル急劇ニ空氣ヲ排開スルニ由リ其周圍ニハ空氣ノ遠心性劇波動ヲ起スカ或ハ砲丸ノ飛行スルヤ其直後ニ淡氣部ヲ生スルニ由リ周圍ノ空氣ハ其淡氣部ヲ充タサンカ爲メ近心性劇波動ヲ起スカ孰レニスルモ此空氣ノ劇波動ニ觸ル、ハ敢テ皮面ニ損傷ヲ來サ、ルモ壓迫ノ爲メ内臓ノ損傷ヲ起シ得ルト云ヘル説ヲシテ果シテ眞正ノ事實ナラシメバ本症ノ如キ其因ヲ之ニ皈スルニ恰當ノ症ナレトモ今ヤ風丸傷ノ架空說ナルハ實驗的及試驗的ニ證表セラレテ之ニ信ヲ措クノ餘地殆ト之ナケレハ所謂風丸傷ノ一例

トハ認メ難シ且ツ今回ノ戰爭ニ於テモ亦砲丸身邊ヲ飛過シタルモ之カ爲メ毫モ傷害ヲ受ケスシテ風丸說ノ反證トナルヘキモノハ其例少カラスルトス故ニ本症ハ其原因明確ナラサルモ受傷ノ當時ヲ案スルニ同人ト同一所ニ在リテ同速射砲ノ發射ニ從事中ノ者四名ニシテ孰レモ同時ニ重傷ヲ受ケタリ即チ一名ハ兩大腿ヲ殆ト全ク挫斷セラレテ僅カニ皮膚ノ一片ヲ留メ以テ下部トノ連絡ヲ保チ且ツ激動ノ爲メ跳子飛サレテ「ハンモツク子ツチング」内ニ墜落シ即死シアリ他ノ一名ハ骨盤部及右大腿ヲ挫斷セラレテ即死シ他ノ一名ハ左肩胛部ニ貫通創及頸部ニ穿入創ヲ負ヒタルモノニシテ此者ト前記即死者ノ一名ト本負傷者ハ同處ニ横倒シ呻吟シアリタルヲ認メラレタルモノナルヲ以テ觀レハ受傷轉倒ノ際他ノ死傷者ト互ニ強ク衝突シタルカ或ハ初メ相重リテ轉倒シ面部ヲ他ノ死傷者ノ肢體ニ打撲セラレタルニ原因スルモノナランカ本負傷者ハ受傷當時ノ狀況如何ヲ記憶セサリシヲ以テ之レヲ證明スルニ由ナキモ顔部頭部ニ於テ毫モ受傷ノ痕跡ヲ認メサルヲ以テ觀レハ兎ニ角軟體ノ重壓若クハ劇打ヲ受ケシモノト推考スルノ外ナカラシカ此ノ他比叡松嶋等ノ即死者中ニハ重大ノ擣傷ヲ蒙リ皮膚ハ其連絡ヲ失セサリ

カリシ而シテ其創面ノ稍深キモノニ至リテハ銳刃ヲ以テ刮去セシ如ク創面清楚ナルモノナクシテ太抵其創面ノ組織ハ不整ニ擣挫セラレ周圍組織ニハ多少ノ溢血ヲ存セリ而シテ同因ヨリ生セシ諸創傷ノ合計數二百八十九ニ對シ本傷ヲ百分比例スルトキハ一六・二六「ベルセント」ニ當レリ

(二) 鐵片ニ因スル擦過創合計十傷ニシテ九名ニ存シ孰レモ輕症ニシテ特記スヘキモノナシ而シテ之ヲ同因ノ諸創傷合計數六十傷ニ對シ百分比例スルトキハ一六・六七「ベルセント」ニ當リ彈片ニ因スルモノト殆ト同様ナリ

(三) 木片ニ因スル擦過創合計十三傷ニシテ八名ニ存シ孰レモ輕症ナリシ而シテ同因ノ諸創傷合計數五十八傷ニ對シ百分比例スルトキハ二二・四一「ベルセント」ニ當リ彈片及鐵片ニ因スルモノヨリ比例的稍多シ是レ木片ハ重力甚タ少クシテ勢力ナキカ爲メ物ヲ擊ツニ方リテ其方向ヲ轉シ易キニ由リ彈片若クハ鐵片ナルニ於テハ擣創ノ如キ他ノ創傷ヲ生スヘキ角度ヲ以テ皮面ヲ擊チシモノモ僅ニ本創ヲ生スルモノアルニ因ルナラン

(四) 以上ノ他擦過創ハ彈片ノ擦擊ニ因スルカ鐵片ノ擦擊ニ因スルカ事情詳カナラサルモノ一傷鐵片ノ擦擊ニ因スルカ木片ノ擦擊ニ因スルカ不明ナル

モノ一傷及飛散セル塗具剝片ノ擦擊ニ因シ面部ノ表皮剝脫傷ヲ起セシモノ三傷アリ

擦過創ハ前記ノ如クニシテ合計七十五傷アリ之ヲ擣傷ノ傷數ニ比較シ且ツ擦過創ヲ生スル原因ハ擣傷ヲ生スル原因ノ如ク物體ノ皮面ト直角ニ衝突スルニ非スシテ物體ノ皮面ヲ輕ク擦去スルニアルモノニシテ物體ノ皮面ニ衝突スルハ自ラ多カルヘキモ物體ノ皮面ト平行ニ擦去スルハ自ラ少カルヘキ數ナルヲ以テ觀レハ本創ノ七十五傷ハ稍多數ニ過キササルヤノ感ナキニアラス然レモ本創ト原因ノ事情ヲ同ウスル溝狀創及失肉創ヲ合算シテ八十五傷アルニ過キサシテ物體ノ皮面ト直角若クハ鈍角ニ衝突シテ以テ生スル諸種ノ創傷即チ擣傷擣創盲孔創貫通創及挫斷創等ヲ合算スルハ四百十三傷アリテ其比例ハ殆ト五ニ對スル一ニ過キサレハ強チ過多ナリトハ爲スヘカラス又彈片其他鐵片ハ上方ヨリ落下シ來ルカ如キ傾斜ノ方向ヲ取ルモノ多ケレハ皮面ヲ擦去スルモノ自ラ少カラサルヘシ又戰時急忙ノ際ニ當リテハ深ク創性ヲ考究スルノ暇ナクシテ名稱ヲ下シ其實際ハ擣傷若クハ擣創ニ屬スベカリシモノモ擦過創トナセシモノ一二之ナキニシモアラサルヘシ其創況

シモ内部ノ軟組織ハ廣ク肉泥ニ化シ骨ハ甚シク粉碎シ其部ヲ按摸スレハ恰モ氷囊ニ觸ル、カ如キ状態アリシモノ數名アリシハ當該軍醫官ノ認知セシ所ナレトモ當時負傷者ノ治療ニ忙ハシクシテ即死者ノ如キハ仔細ニ其創況ヲ記載スルノ暇ナク僅ニ其死ノ主因ト認メシ創名ノミヲ摘録セルハ事情ノ已ム能ハサルモノニシテ主要ノ創傷外ニ併存セル創傷ハ報告ニ漏レタルモノ多クシテ第二號ノ表中ニ掲入スルヲ得ス但シ斯ノ如キ大擣傷ハ重モニ大腿部ニアリシモノニシテ大ナル彈片若クハ大ナル鐵木片ノ鈍圓面ニ打撃セラル、ニ因スルモノナルヘク海戰ニハ敢テ珍シカラサル創傷ナルヘキモ生存負傷者中ニ其一例タモ之ナカリシハ蓋シ偶然ナラン

擣傷ハ前記ノ如クニシテ總計五十九傷アリ内砲丸破裂片ノ打撃ニ因スルモノ十九傷金屬破斷片ノ打撃ニ因スルモノ五傷木材破斷片ノ打撃ニ因スルモノ十七傷砲丸爆發ノ激動ニ跳子飛サレ打撲ヲ受ケタルニ因スルモノ十四傷自砲發射ノ激動ノ爲メ顛仆シタルト箝壓ヲ受ケタルトニ因スルモノ三傷及原因不明ノモノ一症アリ

抑海戰ニ於テハ前記種々ノ原因ヲ以テ此種ノ創傷ヲ生スルコト少カラサル

ハ當然ノ數ト謂フヘキモノニシテ且ツ其傷數五十九ヲ諸創傷數六百二十九ニ對シ百分比例スルトキハ九・三八「ベルセント」ニ當ルニ過キスシテ案外却テ少キノ感ナキニアラス最モ已ニ記セル如ク即死者ニ併存セル大擣傷ノ如キハ報告ニ漏レタルモノアリ又輕微ノ擣傷ハ治療ヲ乞ハスシテ經過シ去リシモノアルナラン

第二 擦過創 溝狀創 失肉創

擦過創ハ彈片ノ飛來セル方向被撃面ト殆ト平行ニシテ皮面ヲ擦撃シ去リタルカ爲メ淺キハ表皮ノ剝脫深キハ皮膚ノ一片ヲ奪去シタル創傷ヲ總稱セシナリ又間創面稍深クシテ皮下組織若クハ筋ヲ曝露セルモノアリシモ縱橫徑殆ト同様ニシテ其形狀溝狀創等ニ類セサルモノハ本傷ニ算入セリ溝狀創ハ同様ノ原因ニ由リ組織ノ奪去セラレタル部分ノ長クシテ狭ク且ツ深クシテ創形溝狀ヲナスモノ、ミヲ稱セシナリ又失肉創ハ同様ノ原因ニ由リ皮膚若クハ其他ノ組織モ共ニ廣大ナル部分ヲ奪去シタル創傷ヲ稱セシナリ

(一) 砲丸破裂片ニ因スル擦過創合計四十七傷ニシテ此ノ負傷者數ハ三十名ナリ孰レモ數日若クハ數十日ニシテ治癒シ特記スヘキ趣味アルモノ之レナ

カリシ而シテ其創面ノ稍深キモノニ至リテハ銳刃ヲ以テ刮去セシ如ク創面清楚ナルモノナクシテ大抵其創面ノ組織ハ不整ニ擣挫セラレ周圍組織ニハ多少ノ溢血ヲ存セリ而シテ同因ヨリ生セシ諸創傷ノ合計數二百八十九ニ對シ本傷ヲ百分比例スルトキハ一六・二六「ベルセント」ニ當レリ

(二) 鐵片ニ因スル擦過創合計十傷ニシテ九名ニ存シ孰レモ輕症ニシテ特記スヘキモノナシ而シテ之ヲ同因ノ諸創傷合計數六十傷ニ對シ百分比例スルトキハ一六・六七「ベルセント」ニ當リ彈片ニ因スルモノト殆ト同様ナリ

(三) 木片ニ因スル擦過創合計十三傷ニシテ八名ニ存シ孰レモ輕症ナリシ而シテ同因ノ諸創傷合計數五十八傷ニ對シ百分比例スルトキハ二二・四一「ベルセント」ニ當リ彈片及鐵片ニ因スルモノヨリ比例的稍多シ是レ木片ハ重力甚タ少クシテ勢力ナキカ爲メ物ヲ擊ツニ方リテ其方向ヲ轉シ易キニ由リ彈片若クハ鐵片ナルニ於テハ擣創ノ如キ他ノ創傷ヲ生スヘキ角度ヲ以テ皮面ヲ擊チシモノモ僅ニ本創ヲ生スルモノアルニ因ルナラン

(四) 以上ノ他擦過創ハ彈片ノ擦擊ニ因スルカ鐵片ノ擦擊ニ因スルカ事情詳カナラサルモノ一傷鐵片ノ擦擊ニ因スルカ木片ノ擦擊ニ因スルカ不明ナル

モ一傷及飛散セル塗具剝片ノ擦擊ニ因シ面部ノ表皮剝脫傷ヲ起セシモノ三傷アリ

擦過創ハ前記ノ如クニシテ合計七十五傷アリ之ヲ擣傷ノ傷數ニ比較シ且ツ擦過創ヲ生スル原因ハ擣傷ヲ生スル原因ノ如ク物體ノ皮面ト直角ニ衝突スルニ非スシテ物體ノ皮面ヲ輕ク擦去スルニアルモノニシテ物體ノ皮面ニ衝突スルハ自ラ多カルヘキモ物體ノ皮面ト平行ニ擦去スルハ自ラ少カルヘキ數ナルヲ以テ觀レハ本創ノ七十五傷ハ稍多數ニ過キサレヤノ感ナキニアラス然レモ本創ト原因ノ事情ヲ同ウスル溝狀創及失肉創ヲ合算シテ八十五傷アルニ過キスシテ物體ノ皮面ト直角若クハ鈍角ニ衝突シテ以テ生スル諸種ノ創傷即チ擣傷擣創盲孔創貫通創及挫斷創等ヲ合算スルハ四百十三傷アリテ其比例ハ殆ト五ニ對スル一ニ過キサレハ強チ過多ナリトハ爲スヘカラス又彈片其他鐵片ハ上方ヨリ落下シ來ルカ如キ傾斜ノ方向ヲ取ルモノ多クレハ皮面ヲ擦去スルモノ自ラ少カラサルヘシ又戰時急忙ノ際ニ當リテハ深ク創性ヲ考究スルノ暇ナクシテ名稱ヲ下シ其實際ハ擣傷若クハ擣創ニ屬スベカリシモノモ擦過創トナセシモノ一二之ナキニシモアラサルヘシ其創況

ノ記載簡略ニシテ今ニ於テハ之ヲ判別スルニ難キモノ往々是レアリ

(五) 溝狀創 合計六傷ニシテ六名ニ存シ孰レモ彈片ノ擦撃ニ因スルモノナ

第一例ハ左大腿膝蓋骨ノ上外方ニ於テ内下方ニ向ヒ斜走スル長三珊米幅五密米深サ皮下蜂巢織ニ達スル創傷ヲ負ヒ創縁擗傷ヲ蒙レリ(病歴二五三號)

第二例ハ左前脚下部ノ背側ニ長徑六珊米幅徑四珊米深サ一・五珊米ノ創傷ヲ負ヒ創圍組織ハ著シク擗傷ヲ蒙リ創面不齊ニシテ處々溢血アリ入院治療四ヶ月餘ニ及ンテ全治セリ(病歴二一九號)

第三例ハ左顛頂部ニ於テ左前方ヨリ右後方ニ走ル長徑三珊米幅徑一珊米深サ一珊米ノ創傷ヲ負ヒ創縁ハ挫裂シテ繼續狀ヲナシ創面ノ一角ニ不齊多稜形ノ大豆大彈片ヲ留存シ受療三週日ニシテ全治セリ(病歴四三號)

第四例ハ右前膊上三分ノ一部ノ尺骨側ニ於テ長徑三珊米幅徑一・五珊米深サ皮下組織ニ達スル創傷ヲ負ヒ創縁不齊ニシテ擗傷ヲ蒙レリ受療三週日ニシテ全治ス(病歴二一八號)

第五例ハ右肩胛棘上部ニ横走スル長徑八珊米深サ三珊米ノ創傷ヲ負ヒ創縁銳利ナリ縫合ヲ試ミシモ化膿ニ陥リ七十餘日ヲ經テ全治セリ(病歴一九一號)

第六例ハ右上膊下三分ノ一部ノ前側ニ於テ外上方ヨリ内下方ニ走レル長徑四珊米幅徑一・五珊米深サ一・二珊米ノ創傷ヲ負ヒ創縁銳利ニシテ創底不正ニ擗挫セラレ受療一ヶ月ニシテ治癒セリ(病歴二〇三號)

前記六症ノ溝狀創ハ孰レモ創面不正ニ挫裂セラレタルモノニシテ周圍組織

ハ擗傷ヲ蒙リ小銃創ニ於テ見ルコトアルカ如キ創面正シクシテ恰モ利刃ニ刮去セラレタルカ如キ觀アルモノ一モ之レナカリシ故ニ孰レモ出血ハ多カラス癒合機能ハ緩慢ニシテ比例的多數ノ受療日數ヲ要セリ

(六) 失肉創 合計四傷ニシテ一ハ砲彈ノ擦撃ニ因シ三ハ砲彈片ノ擦撃ニ因セシモノナリ

砲彈ニ因セシモノハ二月七日右腰部即チ腸骨楯ト季肋トノ中間部ヲ横徑十五珊米縱徑九珊米間橢圓形ニ皮膚及皮下組織ヲ奪去セラレ創縁ハ不齊ニシテ著シク擗傷ヲ蒙リ且ツ上縁ノ後半部ヨリ縱徑六珊米横徑五珊米ノ皮瓣垂下シ其皮瓣ハ擗傷ヲ蒙リ生活機能亡失セシ觀アリ創面モ亦不齊ニシテ處々ニ黑色ノ火藥殘渣ヲ附着シ出血少クシテ疼痛著シカラス又内臟ノ損傷セラレタル徵候ナシ後チ三四日ニシテ上縁ヨリ垂下セル皮瓣ハ全ク脱疽ニ陥リ且ツ創縁ノ皮膚モ處々脱疽狀ヲナシ創面化膿ス而シテ二月二十日佐世保鎮守府病院ニ入院ノ當時創面ノ大サヲ計ルニ受傷時ヨリモ増大セルヲ示シ爾後加療スルニ從ヒ創面漸次ニ改善シ肉芽ノ發生漸ク健全トナリ邊緣ヨリ次第ニ癒合スルノ傾向ナリシカ六月十日ニ至リ體温俄然三十八度四分ニ昇リ惡寒ヲ覺エ創面ハ從來一般ニ鮮紅色ノ良肉芽面ナリシニ約二錢銅貨大ノ部ニ於テ黃色ニ變シ且ツ黃色部中處々黑色ヲ呈セリ依テ變色部ノ肉芽ヲ搔去シ鏡檢セシニ多數ノ連鎖菌存在スルヲ認メタルヲ以テ變色部及其周圍ニ十倍ノ石炭酸水ヲ塗附シ三十倍ノ石炭酸水濕布綑帶ヲ施セリ翌十一日體温常度ニ復シ創面ノ變色稍減褪セリ尙ホ前日ノ如ク處置セシニ二十四日ニ至リ肉芽面全ク健康ニ復シ一ノ連鎖菌ヲ檢出セス然ルニ四月十九日再ヒ前記同様ノ變色ヲ呈シ排膿ヲ來シ體温昇リ連鎖菌

ヲ生セシヲ以テ更ニ十倍ノ石炭酸水塗附ヲ行ヒシニ同二十四日ニハ肉芽健全ニ復シ爾後癒合機能活潑トナレリ七月十二日四個ノ皮片ヲ移植シ八月二十三日全治ス(病歴一五九號)

砲彈ノ破片ニ因スル症ノ第一例ハ九月十七日右下腿腓骨部ニ於テ縱徑十八厘米幅徑十二厘米ノ間皮膚及筋肉ヲ奪去セラレ創底ニハ深層筋ヲ露ハシ後脛動脈ハ幸ニシテ損傷ヲ免レ出血少ク且ツ骨傷ナクシテ左大腿下部前面ニ貫通創ヲ兼子負ヒシモノナリ同月二十日佐世保鎮守府病院ニ入院ノ際ハ創面化膿ニ陥リ皮膚及筋ノ斷裂端脫疽狀ヲナシ疼痛劇甚ナリシ同月二十八日脫疽部ハ全ク脫離シ創面清潔トナリ爾後ノ經過順良ニシテ翌年一月十五日創面癒痕組織ヲ結テ全ク治癒セシモ股關節及膝關節ハ約百五十度ノ角度ニ於テ強直シ足部浮腫シ知覺麻痺ヲ遺セリ依テ局所溫浴按摩及強制伸展法等ヲ行ヒ次第ニ輕快セルモ歩行極メテ弱クシテ兵役ニ堪ヘサルヲ以テ四月十九日免役セラレ(病歴二七九號)

同第二例ハ九月十七日右大腿中央内部ニ方十厘米ノ創傷ヲ負ヒ皮膚ノ全層奪去セラレテ蜂窠織ヲ露ハシ創面創縁不正ニ挫裂セラレテ擣傷ヲ蒙リ後チ化膿シ且ツ同大腿上部ニ盲孔創ヲ兼ネ負ヒシモノナリシカ經過順良ニシテ十月二十八日治癒セリ(病歴二五四號)

同第三例ハ左下腿外側ノ中央部ニ於テ約六厘米方ノ部ヲ皮膚及筋肉ト共ニ奪去セラレ且ツ腹部ニ大貫通創ヲ兼子負ヒシヲ以テ受傷後七時間餘ヲ經テ死亡セシモノナリ(病一七三號)

以上四症ノ失肉創ハ畢竟擦過創及溝狀創ト同一種ノモノナレト之ヲ生セシ彈片ノ大ナリシガ爲メ創面從テ廣濶ニシテ擦過創及溝狀創トハ輕重ニ於テ大ニ差アリ殊ニ第一例ノ如キ砲丸全體ニ因セシモノハ創性自ラ重大ナリ蓋

シ此ノ症ハ砲丸ノ鈍圓ナル側面ニ皮膚ヲ壓擦セラレシヨリ生セシモノニシテ砲丸側面ノ如キ大ナル鈍圓面ハ組織ヲ裂開スルニ最モ不利ナルモノナレト砲丸ノ重力ハ多ク從テ其勢力即チ壓擦力ノ強大ナリシカ爲メ組織ヲ裂開破壞スルニ至リタルモノニシテ其損傷ハ裂開部ノミニ限局セス周圍組織ニ廣ク擣傷ヲ及ホセルヲ以テ其經過緩慢ニシテ癒合機能容易ニ振ハス治癒ニ至ル迄比例的多數ノ受療日數ヲ要セリ第二例ハ砲丸ノ斷片ニ因スルモノニシテ其創面ノ廣大ナルト且ツ深キトヲ以テ觀レハ之ヲ生セシ彈片ノ頗ル大ナルモノナリシニハ相違ナシ然レト之ヲ第一例ノ砲丸全體ニ比スレハ形體自ラ小ニシテ重力少カリシモノト看做シテ過ナカルベシ然レハ其組織ヲ擊ツヤ勢力ハ第一例ノモノニ比シテ弱カリシモノトスヘシ又斷片ナルガ故其形狀ハ不正ニシテ尖角銳縁ヲ有スヘケレハ其組織ヲ破壞スルニハ單ニ壓壞作用ノミニ由ルニアラスシテ幾分カ尖角銳縁ヲ以テ組織ヲ截離スルカ如キ作用ヲ兼子シナラン故ニ此ノ第二例ノ創圍組織ハ擣傷ヲ蒙レリト雖ト第一例ニ比スレハ其度ニ差アリテ以テ其創傷面ノ深大ナルニ拘ハラズ癒合スルニ至ル迄ノ受療日數ハ却テ少カリシ

第三 擣創

(一) 砲丸ノ破裂片ニ因スル擣創 合計九十七傷ニシテ此ノ負傷者數ハ五十人ナリ其内趣味アル數例ヲ舉ケレハ左ノ如シ

第一例砲丸爆裂ノ際其破裂彈片ニ撃タレテ左大腿下三分ノ一部ノ外面ニ擣裂創ヲ蒙リ皮面ニハ壹錢銅貨大ナル三個ノ裂孔ヲ生シ且ツ大腿骨ヲ破碎セリ加之火藥發火ノ爲メ全身大部ニ火傷ヲ負ヒシヲ以テ受傷ノ翌日遂ニ死亡セリ(病歴三二三號)

第二例前症ト同時ニ彈片ニ由リ左示指第二指骨部ヲ挫壞セラレ軟組織ハ大ニ荒蕪セラレ骨ハ粉碎セラレタリ且ツ肢體大部ニ火傷ヲ負ヒ入院ノ後チ指ハ第一指骨間關節ヨリ離斷術ヲ行ヒ後チ其一部化膿ニ陥リ二ヶ月ヲ經テ治療セシモ一指ヲ失セルヲ以テ免役セラレタリ(病歴二四一號)
第三例前症ト同時ニ彈片ニ由リ左顳顬骨鱗狀部ヲ擊破セラレ骨折ヲ來シ且ツ肢體大部ニ火傷ヲ蒙リ其當時ハ失神狀ナリシモ時ヲ經テ知覺復シ疼痛ノ爲メ苦悶煩躁シ其翌日死亡セリ是レ初メ震盪症ヲ起セルモノニシテ死因ハ重モニ火傷ナラン(病歴三二四號)

第四例九月十七日左肩胛骨棘狀突起下六珊米ノ部ニ約五珊米徑ノ不整方形ニシテ星芒狀ニ裂開スル擣創ト右足踳趾ノ内側及左足小趾ノ外側ニ小ナル擣裂創トヲ負フモノニシテ肩胛骨部ノ擣創ハ深ク組織ヲ破壞シ指探スルニ直チニ骨ニ達スルモ骨傷ヲ存セス且ツ創孔ハ上外方ニ向ヒ四珊米ヲ深サスル彎入部ヲ存セリ後チ創部ハ化膿シ來リ膿ハ創部ノ下方ニ滯溜スルヲ以テ該部ニ對孔ヲ穿チ排膿ニ利セリ然レレ創部ノ肉芽發生不良ニシテ癒合機能緩慢ナリシカ十月十二日突

然體温昇騰シ創部ノ排膿少量ナルモ周圍潮紅シテ丹毒症ヲ併發セル徵アリ爾後體温四十度ニ昇リ局部ノ炎症ハ蔓延セシモ甚シキニ至ラス同月二十六日ニ至リ全ク消散セリ爾來創面モ次第ニ改良シ十一月十四日全治ス(病歴一九〇號)

第五例ハ右上膊中部左大腿下端及左下腿ニ各骨折ヲ兼ヌル大擣裂創ヲ負ヒ且ツ腹部ニ穿入創ヲ負ヒタルヲ以テ即死セリ(病歴一六五號)

第六例ハ頭蓋左顳頂骨ノ後方ニ長徑三珊米ノ擣裂創ヲ蒙リ創縁不齊ニ挫裂セラレ深サ骨ニ達シ骨膜ヲ剝離シ骨ノ外板破碎セラレ然レレ腦壓迫若クハ腦質毀損ノ徵候ナシ爾後創底一ノ小骨片ノ遊離スルヲ以テ之ヲ除却セリ爾來經過順良ニシテ十二月十日全治ス(病歴四八號)

第七例ハ右大腿下三分ノ一部ノ内側ニ擣裂創ヲ蒙リ股動脈ヲ損傷セラレ出血多カリシヲ以テ即時負傷者運搬手ハ壓抵綑帶ヲ施シ止血シタル後チ治療所ニ當テタル下甲板後部ノ士官室ニ運送シタルヲ以テ軍醫ハ其治療ニ着手中不幸ニシテ敵彈同室内ニ來リ爆發セルヲ以テ胸腹部ヲ挫斷セラレテ即死ス(病歴一五四號)

第八例ハ負傷者ヲ前記ノ治療室ニ運搬シ來リ起立ノ際偶敵彈ノ來リテ爆發スルニ遇ヒ其彈片ニ撃タレ顔面ノ硬軟組織ヲ甚タシク破壊セラレ且ツ頭蓋底ノ粉碎骨折ヲ來シテ即死セリ(病歴五三號)

第九例ハ右顳額部ノ上際ニ拇指頭大ノ擣創ヲ負ヒ深サ骨面ニ及フモ骨傷ヲ認メス然ルニ左手指ノ麻痺ヲ來シ三週間ニシテ創面癒合セルモ手指ノ知覺ハ尙ホ其後ニ至ル迄幾クカ損害セラレタリ(病歴四一號)

第十例ハ敵彈來テ自砲發射用ニ準備セル十二珊米通常榴彈二個ニ衝突シ之ト共ニ爆發シタルカ

爲メ多數ノ彈片ニ擊タレ前頭骨ノ左側ヨリ冠狀縫隙部ニ至ル迄長サ六珊米幅三珊米ノ擣裂創ヲ負ヒ骨ヲ破碎シ腦質ヲ破傷スルノ外左下腿外側ニ長サ二十四珊米幅九珊米ノ擣裂創ト顔面部部及上下肢ニ多數ノ擣裂創ヲ蒙リ且ツ火傷ヲ負フテ即死セリ(病歴五一號)

第十一例ハ前症ト同一ノ原因ニ由リ前頭中央ヨリ顛頂ニ互リ長サ十五珊米幅六珊米ノ擣裂創ヲ負ヒ骨ヲ破碎シ腦質ヲ毀傷シ且ツ右上膊中央ト同肘關節後面トニ擣裂創ヲ負ヒ骨傷ヲ兼子シモノニシテ人事不省ナリシカ一時間ヲ出スシテ死亡セリ(病歴四九號)

第十二例ハ九月十七日左眼ノ下方ニ一珊米徑ノ不正圓形失肉擣裂創ヲ負ヒ骨ヲ破碎シテ上顎竇内ニ通シ出血甚クシテ上下眼險部ハ甚ク擣傷ヲ蒙リ變色腫脹シ來リ眼球結膜ニハ二三ノ小鐵片竄入スルヲ認メ上顎竇内ヲ檢スルニ破碎骨片ト凝血トヲ有セシノミニシテ異物ヲ存セス且ツ竇ノ他壁ニ損傷ナシ次テ創面ハ化膿ニ陥リ眼險ハ大ニ腫脹シ來リシモ日ヲ經テ漸ク減消シ左眼視力ヲ檢スルニ百分ノ二十ニ減力シ眼底ヲ檢スルニ網膜出血アルヲ認ム又左頰部及口唇ノ知覺麻痺ヲ來セリ而シテ十二月十八日ニ至リ創部ハ全ク癒合セルモ視力ハ依然トシテ復セス頰部及口唇ノ麻痺モ亦然リ依テ翌年二月九日免役セラル但シ本負傷者ハ前記ノ創傷ノ外左上膊上部ノ貫通創及左前膊上部ニ二個ノ擣裂創ヲ兼ネ負ヒ骨傷ヲ存セシモノナリ(病歴一〇三號)

第十三例ハ左前頭眉部外端ノ約三珊米上方ヨリ上内方ニ走ル長サ六珊米ノ半月形擣裂創ヲ負ヒ其末端ハ前額ノ髮際ニ迫ヒ創底ハ骨ニ達シ骨膜剝離スルヲ認ム然レモ骨傷ヲ認メス創圍ノ軟組織ハ不整ニ挫裂セラレテ腫脹シ全側眼下ノ皮膚ハ紫黑色ヲ呈ス後暫時ヲ經テ衄血ヲ來シ二回吐血シ左眼險ニ皮下溢血ヲ現ハシ來ル精神ハ受傷當時明確ナリシモ後腦刺戟ノ徵ヲ現ハシ來リ肢體ヲ屈シテ軀轉反側シ時々嗜眠狀トナリ間々譫語ヲ發シ尿ヲ自利シ次テ腦壓迫ノ症狀ヲ現ハ

シ二日ヲ經テ創面ハ化膿シ腦症依然トシテ人事不省瞳孔ハ收縮シテ光線ノ反應遲鈍ナリ體温ハ三十八度内外ニ昇騰ス後チ膿ハ頭蓋腱膜下ニ流注セルヲ以テ對孔ヲ作り排膿ニ利セシカ十數日ヲ經テ精神稍明亮トナリ頭痛ヲ訴ヘ受傷後三週日ニシテ腦症全ク去リ頭痛止ミ受療殆ト四ヶ月ニシテ再ヒ兵役ニ服セリ蓋シ本症ハ頭蓋底斷骨ヲ起セシモノナラン(病歴五二號)

第十四例ハ敵彈來テ近部ニ破裂シタルニ由リ多數ノ彈片ニ擊タレテ顛頂中央ニ長サ六珊米幅一珊米深サ骨膜ニ及フ擣裂創ト上唇右側ヲ横走スル長サ三珊米幅一珊米ノ擣裂創ト左大腿上部ノ内側ヨリ後側ニ亘ル長サ十二珊米幅七珊米ノ擣裂創ト左足第一第二第三趾ノ各節ヲ骨ト共ニ挫壞スル擣裂創ヲ負フモノニシテ數日ヲ經テ左足前端ハ全ク脱疽ニ陥リリスフランク氏ノ離斷術ヲ施シ五ヶ月餘ニシテ諸創面癒合セシモ已ニ足部ノ前半ヲ失ヒシヲ以テ後チ免役セラル(病歴三〇四號)

前記外ノ症ハ其創傷ニ大小ノ差アレモ多クハ軟組織ノ破壞ニ止マリ記スヘキ合併症ナクシテ治癒シ又二三ノ症ニハ骨折ヲ兼ネシモノアレモ手指ニ於ケルカ如キ小創ニシテ適當ニ治癒シ特ニ記スヘキ趣味ナキモノナルヲ以テ皆ナ畧ス

彈片ニ因スル擣裂創ハ以上九十七傷ニシテ之ヲ同因ヨリ來ル諸種ノ創傷總數二百八十九傷ニ對シ百分比例スルトキハ三三・五六「ベルセント」ニ當リ彈片創傷中最モ多數ヲ占ム然レモ後チニ記スルカ如ク鐵片及木片ニ比スレハ彈片ハ本創ヲ生スルコト比例的少キヲ見ル是レ彈片ハ鐵片及木片ヨリ概シテ勢力強ケレハ其小ナルモノハ穿入創若クハ貫通創其大ナルモノハ挫斷創ノ如

キ他ノ創傷ヲ生スルコト亦少カラサルカ故ナリ而シテ彈片擣創ノ大小輕重ハ之ヲ生スル彈片ノ大小及其勢力ノ強弱ニ從ヒ大差アルノミナラス且ツ彈片ノ平面ヲ以テ皮面ヲ擊チシト縁角ヲ以テ皮面ヲ擊チシトニ從ヒ差異アリ即チ前ニ引例セシカ如ク皮膚ヲ破開シ他ノ軟組織ヲ肉泥トナシ大腿骨ノ如キ深位ノ骨ヲ粉碎スルモノアリ即チ第一例第五例是レナリ或ハ損傷軟組織ニ止マルモ大サ數十珊米ニ及フモノアリ第十例ノ如キ其著シキモノニシテ恰モ小彈片ノ溝狀創ヲ生スルカ如ク大彈片ノ受傷肢縱軸ト稍平行ニ來リシニ因スルモノナラン或ハ淺小ニシテ皮膚及皮下組織ヲ破ルニ止マルモノアルカ如キ其輕重著シキ差アリトス而シテ孰レモ創面ハ不正ニシテ創圍組織ハ著シク擣傷ヲ蒙リ生機ヲ失スルヲ見ル又夫ノ小彈片ノ縁角ヲ以テ皮下軟組織ニ乏シキ部ヲ擊チタルモノハ最モ輕少ノ擣創ヲ來スコト多シ蓋シ斯ノ如キ際ハ實際彈片ノ一部分組織内ニ侵入セルモ忽チ骨ノ如キ抵抗アル組織ニ觸レテ停止シ其全部侵入セザリシカ爲メ自然ニ脱落シ去ルモノアルヘクシテ其創性盲孔創ニ屬スヘキモノアルヘキナレト創部ニ彈片ヲ留メサレハ其判別甚々難シトス又頭部ニ於テ擣創ノ最モ危險ナルハ自然ニシテ第八

例ノ如キ將々第十例ノ如キハ骨ヲ廣ク破碎シ腦質ヲ傷害セシヲ以テ即死ヲ來セリ第十三例ハ前頭部ニ長サ六珊米ノ擣裂創ヲ負ヒ創底骨ニ達シ其部ニ於テハ検査上骨傷ヲ認メザリシモ其後ノ發症ニ依レハ頭蓋底眼窠板部及篩骨部ノ骨傷ヲ來セシコト明カニシテ後チ幸ニ治癒セシモノナリ抑、銃創ニ於テ斯ノ如キ介達斷骨ヲ來スコトアルハ極メテ稀有ニ屬シ今尙其有無ヲ疑フ程ナレト砲創ニ於テハ敢テ然ラストス即チ彈片ノ重力アルモ速力著シカラサルモノ其鈍圓面ヲ以テ頭部ヲ擊ツニ於テハ壓迫面ノ廣キカ爲メ骨質稍堅牢ナル部ハ破碎ヲ免ル、モ其壓力ハ諸方ニ傳ハリ最モ脆弱ナル部ニ至テ破裂ヲ來シ得ヘキハ理ノ觀易キ所ナリ第三例ハ顛顛部ノ骨折ヲ兼子シモ之レカ爲メ腦質ヲ毀傷セシニアラス且ツ著シキ頭蓋内出血アリシニアラサルモノナラン其初メ人事不省ナリシハ恐ラクハ震盪症ヨリ來ルモノニシテ後チ感覺復シ疼痛ヲ訴ヘ苦悶煩躁セシハ主トシテ全身火傷ノ感作ニ由ルモノナラン大火傷患者ハ多クハ同様ノ症狀ヲ來シ間外傷性譫妄症ヲ發スルモノアリシハ當該軍醫ノ認メシ所ナリ第六例ハ左顛頂骨ノ後方ニ於テ長サ三珊米ノ擣創ヲ生シ骨ノ外板ヲ破碎セシモノナリ而シテ内板ニハ毫モ異狀ナ

カリシヤ否之ヲ證明シ難シト雖也當時検査セシ所ニ據レハ骨傷ハ外板ニ局セルモノ、如クニシテ且ツ毫モ腦症ヲ現ハサ、リシヲ以テ見レハ縱令内板ニ骨傷アリシトスルモ外板ニ於ケルガ如ク數片ニ破碎セラレタルニ非サルヘシ抑内板ハ外板ヨリ廣ク破碎スルヲ通例トスルモノニシテ從テ外板ニ破綻ナキモ内板ニ之レアルハ敢テ珍シカラストスルモ之ニ反シテ外板ノミ破碎セラレ内板ニ及ハサルハ軍陣外科學上絶エテナクシテ僅ニ之レアルモノ故ニ其有無ニ就テハ今尙ホ一疑問タルヲ免レス然レ此海戰ニ徴スルニ頭蓋外ノ骨ナルモ其表層ノミニ淺ク限局スルカ或ハ外壁ノミニ限局スル破碎ヲ來シテ是ニ類スル例少カラサルヲ以テ見レハ勢力少キ彈片ノ銳縁若クハ銳角ヲ以テ骨面ヲ撃チタル際ニハ頭蓋骨ノ如キモ其外板ニ止マル骨傷ヲ生シ得ヘキモノナラン第九例ハ右顛顛部ノ上際ニ小擣傷ヲ負ヒ骨傷アルヲ發見セサリシモ左手指尖ノ麻痺ヲ來セシモノニシテ是レ骨ノ内板ニ罅裂ヲ生シ小溢血ヲ來シテ腦面ローランド氏破裂ノ後方ニ位スル手指ノ中樞點ヲ壓迫セシモノナルヤ或ハ内板ノ小破碎ヲ來シ破碎骨端ノ腦面ヲ毀傷セシモノナルヤ或ハ骨及膜ニ損傷ナキモ腦質表面ニ小擣傷ヲ來セシモノナルヤ詳カ

ナラスシテ受傷當時ニ腦刺戟症アリシヤ否將タ腦壓迫症アリシヤ否此ノ艦ノ軍醫ハ盡ク戰死シタルヲ以テ病歴甚タ不完全ナレハ之ヲ推考スルニ由ナシ但シ孰レニスルモ麻痺ノ手指ニ限局スルヲ以テ見レハ頭蓋内ノ損傷ハ微少ナルモノナリシナラン

(二)鐵片ニ因スル擣創 合計二十五傷ニシテ此ノ負傷者數ハ十四人ナリ其創傷ニハ自ラ大小アリ各同シカラサルモ左ニ列記スルモノ、外ハ故障ナクシテ治癒シ特ニ記スベキ趣味ナキヲ以テ略ス

第一例敵彈烟突ノ下部ヲ貫通シ之ヲ破碎飛散セシメタルガ爲メ其烟突ノ斷片ニ下顎部ヲ撃タレ下顎骨右角ノ少シク前方ヨリ下縁ニ沿フテ前走スル長サ四珊米幅二珊米ノ擣創ヲ負ヒ創縁ハ甚シク荒蕪セラレテ縊縷狀ヲナシ下顎骨ノ外板ハ數片ニ破碎セラレ骨片游離スルモノアルモ破裂ハ骨ノ内板ニ及ハス又顔面動脈ヲ毀傷セス次テ創面ハ化膿ニ陥リシモ爾後ノ經過順良ニシテ二ケ月餘ノ受療ヲ以テ全治セリ(病歴一〇四號)

第二例九月十七日前症ト同一ノ原因ニ由リ左膝關節ノ前面ヲ打撃セラレ皮膚ハ廣ク壞裂シ膝蓋骨及大腿骨下端ハ甚シク破碎セラレ、モ出血ハ多カラスシテ膝關節動脈ヲ破開セサルモノ、如シ此ノ他左肩胛骨ノ内下方ニ深サ十二三珊米ノ盲孔創ヲ負ヘリ而シテ精神ハ正確ニシテ毫モ震盪症狀ナシ翌十八日左膝關節ノ截除術ヲ行ヒ二十一日佐世保鎮守府病院ニ入院ス當時左膝關節以下ハ知覺鈍麻シ皮膚厥冷シ足端ハ已ニ紫黑色ニ變シテ壞疽ニ陥レリ依テ大腿下部ノ截斷術ヲ行ヒ

翌年一月ニ治愈セリ(病歴二七〇號)

第三例鐵片ノ爲メ左上膊下端ノ外側ニ方二珊米ノ擣裂創ヲ負ヒ組織ハ不整ニ挫裂セラレ深サ骨ニ達シ骨面少ク陷凹シテ淺小破碎アレモ唯其部ニ限局セリ創内異物ヲ存セス後チ三四日ヲ經テ創縁ノ皮膚ハ壞疽ニ陥リ灰白黑色ニ變シ一週日ノ後チ壞死皮片脫離シ爾後ノ經過順良ニシテ速ニ治愈セリ(病歴二〇六號)

第四例鐵片ニ由リ右下腿上部ノ内側ヲ擊タレ長サ三珊米ノ縱裂擣創ヲ負ヒ創縁ハ挫壞セラレテ哆開シ創底骨膜ヲ剝離シ脛骨内面ニ長サ二珊米許ノ擣裂線數條ヲ生ス此ノ他同側大腿中央ノ内側ト左臀部ニ擦過創ヲ負ヘリ後チ日ヲ經テ右下腿ノ創底ニ骨片游離スルヲ認メタルヲ以テ創口ヲ開大シ二個ノ薄骨片ヲ摘出ス爾後異狀ナク二ヶ月餘ニシテ治愈セリ(病歴二八六號)

第五例敵彈砲楯ヲ破碎シ其斷片ノ爲メ前頭部ヲ擊タレ前頭骨ノ後半部ヲ粉碎シ腦質ヲ破壞セラレ且ツ左前膊ノ挫斷創ヲ兼ネ負フテ即死ス(病歴四六號)

第六例前症ト同一ノ原因ニ由リ前頭部ヲ擊タレ皮膚及前頭骨ヲ破壞セラレテ即死ス(病歴五〇號)

第七例右上膊骨内靨ノ直上部ニ拇指頭大ノ擣創ヲ負ヒ創縁不整ニ挫裂シ少量ノ出血アリ深サハ約一・五珊米ニシテ創圍ノ皮膚ハ約三珊米ノ間筋鞘ヨリ剝離シ囊狀ヲナシ骨ニ折傷ナク又尺骨神經ニ異狀ヲ認メサルモ爾後其分布部ニ麻痺ヲ來シ即チ右環指掌面及尺骨側小指掌面及兩側ト手掌内緣ニ麻痺アリ受傷後約五週間ニシテ創傷ハ全ク治愈セシモ麻痺恢復セス全治スルニ至ル迄尙ホ三週日餘ノ受療ヲ要セリ是レ尺骨神經ノ擣傷ヲ蒙リシモノナラン(病歴二〇〇號)

鐵片ニ因スル擣創ハ二十五傷ニシテ之ヲ同因ヨリ來ル諸種ノ創傷總數六十

傷ニ對シ百分比例スルトキハ四一・六七「ベルセント」ニ當リ鐵片創傷中最モ多數ヲ占ム而シテ彈片ノ擣創三三・五六「ベルセント」ニ比スルニ鐵片ノ擣創ハ比例的多キヲ見ル其然ル所以ハ已ニ述ヘシ所アルカ如ク鐵片中ニハ粗大ニシテ重力アリ形狀大ニ不整ナルモノ多キモ速度ニ至テハ概シテ彈片ヨリ劣レルヲ以テ擣創若クハ擣傷ヲ生スルニ恰適スルモノナラン而シテ創圍組織ノ擣傷ヲ蒙リ創面ノ不整ナルハ彈片ニ因スルモノト同様ニシテ前ニ記セル第一例ハ下顎骨ノ外板ヲ破碎シ二三ノ游離骨片ヲ生セシモ破裂ハ内板ニ及ハサリシナリ第三例ハ上膊骨下端ノ外側ニ小凹陷面ヲ生シ且ツ淺表ニシテ小部ニ局スル破碎ヲ來タシ第四例ハ右脛骨ノ上部内面ニ長サ二珊米許ノ罅裂線二三縷ヲ生セシナリ斯ノ如ク骨面ニ小罅裂ヲ生スルニ止マルハ孰レモ鐵片ノ縁角ヲ以テ直接ニ骨面ヲ擊チタルニ因スルモノナラン若シ軟組織ニ富ム部ナランニハ必ス盲孔創ヲ生シタルモノナルヘシ其鐵片ハ大ナラスシテ勢力少カリシ爲メ單ニ右ノ如キ骨ノ小破損ヲ來シテ止ミシモノナラン蓋シ小銃丸ノ如キ速度強大ニシテ形狀鈍圓ナルモノ骨ヲ擊ツニ於テハ斯ノ如ク一小部ニ限局スル骨傷ヲ生スルコト甚タ少カラシモ鐵片ノ如キ勢力弱クシ

テ縁角アルモノ骨ヲ撃ツニ於テハ此種ノ骨傷ヲ生スルコト敢テ少カラサルヲ知ルヘシ第二例ハ膝關節部ノ前面ニ大擣裂創ヲ負ヒ膝蓋骨及大腿骨下端ヲ破碎セラレタルヲ以テ截除術ヲ行ヒ出血ハ受傷當時僅微ニシテ膝關動脈ニ損傷アルヲ認メサリシト雖モ其速ニ脱疽ヲ來セシヲ以テ見レハ動脈ノ損傷即恐クハ擣傷アリシモノナラン此ノ症ニ就テハ尙ホ後ニ記スル所アルヘシ第七例ハ右上膊骨内髁ノ直上部ニ擣創ヲ負ヒ外見上尺骨神經ニハ損傷ヲ認メサリシモ其分布部ニ麻痺ヲ來セシヲ以テ見レハ神經ノ擣傷ヲ負フタルヤ明カナリ第五例及第六例ハ共ニ頭部ノ擣創ニシテ骨ヲ破碎シ腦ヲ壓潰シ即死ヲ來セシモノニシテ重力アル大鐵片ノ打撃ニ於テハ斯ノ如キ危篤ノ創傷ヲ生スルコトアルハ當然ト云フヘシ

(三) 木片ニ因スル擣創 合計二十三傷アリ負傷者數ハ二十一名ナリ多クハ輕症ニシテ此ノ内稍趣味アルモノヲ引例スレハ左ノ如シ

第一例飛散木片ノ爲メ左顛頂隆起下左耳ヨリ四五厘米ノ部ヲ擊タレ五厘銅貨大ノ擣創ヲ負ヒ皮膚挫裂セルモ創孔ハ淺クシテ帽狀腱膜ヲ穿ツニ至ラスシテ骨傷ノ景况ナカリシモ顔面右側ニ運動麻痺ヲ來シ閉目セシムルニ右眼瞼ノ閉鎖充分ナラス舌ヲ挺出セシムルニ右方ニ偏斜シ言語作用障礙セラレ且ツ右側上下肢ニモ輕度ノ麻痺アリ頭部ノ創傷ハ數日ニシテ治セシモ麻痺ハ急ニ

治セスニケ月餘ヲ經テ漸ク恢復セリ(病歴三八號)

第二例飛散木片ノ爲メ前頭左眉弓ノ上部ヨリ斜メニ上方ニ走ル長サ九厘米S字狀ノ擣裂創ヲ負ヒ深サ骨ニ達シ之ヲ破碎シ且ツ顔面右側ニ火傷ヲ蒙リ而シテ左眼ノ視力大ニ衰乏ス腦症ハナシ依テ檢眼スルニ網膜出血アルヲ認ム後チ四十日ヲ經テ創部癒合スルモ視力復セス視野減少ス爾來種々ニ加療スルモ視力ハ到底復舊セサルヲ以テ免役セラレ(病歴四七號)

第三例飛散木片ノ爲メ左前額隆起下ヨリ眉部ノ中央ヲ通シ上眼瞼ニ至ル長サ四・五厘米幅一厘米深サ骨膜ニ達スル擣創ヲ負ヒ創縁不正ニ挫裂セラレテ微ニ出血アリ上下眼瞼ハ大ニ腫脹シテ溢血ヲ來シ眼球結膜下及前房内ニ出血アリ角膜混濁シ視力全ク失ス又左額骨弓下ニ方三厘米ノ皮膚剝脱傷ヲ負ヒ小木片ノ處々ニ刺入スルヲ見ル爾後創部ハ次第ニ癒合機能ヲ呈シ來ルモ眼瞼ノ腫脹去ラスシテ自ラ開眼スルヲ得ス眼球結膜ハ發炎シ堤坊狀ニ腫起シテ角膜ヲ覆ヒ角膜ハ灰白色ニ潤濁シ右眼モ亦結膜充血ヲ來ス受傷後一ケ月餘ヲ經テ創面ハ全ク癒合セルモ左眼角膜ノ濁濁依然トシテ視力復セス結膜ノ尖症ハ輕減セルモ尙ホ眼内疼痛アリ左眼モ尙ホ充血ス爾後日ヲ經テ炎症狀減消スルモ左眼ハ次第ニ萎縮シテ變硬シ右眼モ時アリ炎症ヲ發起スルノ傾キアリ左眼ハ到底視器ノ用ヲナサ、ルヲ以テ剔出シ義眼ヲ裝用セリ但シ左眼球ハ萎縮變質シテ諸組織共ニ變硬セリ後チ右眼ハ常態ニ復シ受傷後四ケ月ニシテ退院ス(病歴一〇九號)

木片ニ因スル擣創ハ二十三傷ニシテ之ヲ同因ヨリ來ル諸創傷ノ總數五十八傷ニ對シ百分比例スルトキハ三九・六六ニ當リ木片創傷中最多數ヲ占ム而シテ彈片擣創ノ比例數ヨリ多クシテ鐵片擣創ノ比例數トハ殆ト相當ルヲ見ル

是レ木片ハ鐵片ヨリ勢力尙ホ更ニ少キヲ以テ其多クハ擣創ヲ生スルニ非サ
 レハ擣傷ヲ生スルニ止マルモノニシテ即チ木片ニ因スル擣傷ト擣創トノ數
 ヲ合シテ木片諸創傷ノ總數ニ對シテ百分比例スルトキハ六八・九七「ベルセン
 ト」ニ當リ彈片ノ同一比例數四〇・一四「ベルセント」及鐵片ノ同一比例數五〇・〇
 「ベルセント」ニ比シテ頗ル多シトス木片ニシテ其擣傷ヲ生スルト擣創ヲ生
 スルトノ差別ハ木片ノ勢力本來弱シトスルモ其大小ニ從ヒ自ラ強弱ノ差ア
 ルハ明カニシテ其勢力ノ強弱ニ關スルハ勿論其形狀ニ稜角アルト否ラサル
 トニ關シ且ツ被擊部ノ位置如何ニ關スルモノナリ即チ被擊部皮下軟組織ニ
 乏シキ部ナルトキハ其擊壓セラル、ニ際シ皮膚ノ伸展ヲ容サ、ルニ由リ軟
 組織ニ富ム部ノ壓力ニ應シテ皮膚ノ伸展ヲ容シ破開ヲ免ル、カ如クナルヲ
 得スシテ往々其破開ヲ來シテ擣創ヲ生ス即チ爰ニ記セル二十三傷中十七傷
 ハ頭部、顔部、手指、脛前部及足背ノ如キ皮下軟組織ニ乏シキ部ニ生セシモノナリ
 又十七傷ノ中十二傷ハ頭部、顔部ニ在ルモノナレモ彈片及鐵片ニ於ケルカ如
 ク死因トナルヘキ重大ノ創傷一例モ之ナキハ木片ノ勢力概シテ少キヲ證ス
 木片擣創ニ引例セル第一例ハ木片ノ打擊ニ因リ左顱頂結節ノ下部左耳ヨリ

四・五 珊瑚米上方ニ當ル部ニ擣創ヲ負ヒ、創底淺クノ帽狀臃膜ヲ穿ツニ至ラザリ

シモ右側ノ顔面、舌及上下肢ニ麻痺ヲ來シ言語作用ハ唇及舌ノ半側麻痺スル
 カ爲メ障礙セラル、ノミナラズ兼テ著シキ失語症ヲ存セシモノナリ是レ
 ローランド氏破裂ノ周圍ニ於ケル腦皮質ニ傷害ヲ蒙ムルヨリ來ル發症ニ相
 違ナキモ其傷害ノ性質ハ如何ナルモノナリシヤ明カナラス頭皮ノ擣創ハ帽
 狀臃膜ヲ破ルニ至ラズ骨傷アルヲ發見シ得ザリシモノナリ然レモ其創傷
 ハ木片ノ打擊ニ因スルモノナレハ其木片稍大ニシテ重力アルモノナリシニ於
 テハ敢テ帽狀臃膜ヲ破ラサルモ在下ノ顱頂骨ヲ單ニ罅裂セシムルカ如キ
 ハアリ得ヘキ理ナリ而シテ若シ斯ノ如キ罅裂ヲ生セシモノトスルハ外方ヨ
 リ之ヲ發見シ得ザリシモ無理ナラス且ツ骨内面ノ溝中ヲ走ル中腦膜動脈
 前枝ノ一部モ共ニ破斷セシヲ推測シ得ヘク而シテ骨ト硬腦膜ノ間ニ溢血ヲ來
 タシローランド氏破裂ノ近傍ヲ稍廣ク壓迫シテ以テ對側ノ半身麻痺ヲ來タ
 シ運動性失語症ヲ發セシモノト説明スルヲ得ヘシ頭皮創傷ノ位置ヨリ論ス
 ルモ以上ノ傷害ヲ來セシモノトスルニ恰當ス然レモ凡ソ二ヶ月ヲ經テ徵候
 次第ニ緩解シ來リ遂ニハ全治セル如キハ通常中腦膜動脈ノ出血症ニ於ケル

經過ト一致セサル所アリ抑中腦膜動脈ノ出血ハ本來重篤ノ症ニシテ次第ニ腦
 厭迫ノ徵候ヲ發シ來リ死ニ終ルモノ多キノミナラス縱令死ニ至ラサルモ對
 側ノ半身麻痺症狀ノ如キ容易ニ恢復セサルモノナリ然レハ該動脈ノ出血ニ
 因スルモノトスレハ唯其一小分枝ノ破斷セルニ由來スル少量ノ出血ニ因ス
 ルモノトスルノ外ナキモ彈片擣創第九例ト同シク同艦軍醫ハ盡ク戰死シ當
 初ヨリノ病歴甚々不完全ニシテ受傷當時ニ腦震盪症ノ有無次テ腦壓迫症ノ有
 無及麻痺側ニ痙攣ノ有無等記載スル所ナクシテ果シテ動脈出血ノ壓迫ニ因
 スルモノナルヤ或ハ腦質ノ擣傷ヲ蒙リシニ因スルモノナルヤ將タ頭蓋内ノ被擊部
 ノ破碎陷没シ腦面ヲ壓迫毀傷セルニ因スルモノナルヤ將タ頭蓋内ノ被擊部
 ニ腐敗性炎症ヲ起セシニ因スルモノナルヤ判定シ難キモ其記載ノ症狀及經
 過ヨリ推スニ陷没性骨折及腐敗性炎ニハ因セシモノニアラサルカ如シ、
 (四) 砲彈爆發ノ近部ニ在リ其破裂彈片飛散セルノミナラス鐵木船材ヲ破壞
 シ其碎片及諸他ノ器械ヲ飛散セシメタル際負傷シ其孰レニ原因セシヤ不明
 ノ擣創左例ノ如シ

第一例負傷者ヲ下甲板士官室ナル治療所ニ運搬シ來リシ際敵ノ三十珊半彈來テ該室内ノミズン

マストニ中リ爆發シ爲ニ頭部、顔面、軀幹及四肢ニ重大ノ擣裂創ヲ蒙リ且ツ全身ニ火傷ヲ負フテ即
 死ス(病歴二九號)

第二例前症ト同時ニ彈片及介達彈ニ撃タレ顔面ヨリ頭蓋底ノ複雜骨折ヲ起シ且ツ上下肢ニ骨折
 ヲ兼ヌル大擣裂創ヲ負フテ即死ス(病歴五四號)

第三例前症ト同時ニ同一原因ニ由リ右大腿中央ニ大擣裂創ヲ負ヒ軟組織ハ甚シク崩壞シ骨ハ廣
 ク粉碎シ且ツ右上膊及右胸側ニ重劇ナル擣裂創ヲ負ヒ震盪ニ因リ即死ス(病歴二五八號)

第四例前症ト同一原因ニ觸レ右大腿中央ニ骨ヲ粉碎スル大擣裂創ヲ負ヒ加フルニ腹部ヨリ腰椎
 ニ亘ル貫通創ヲ負フテ即死ス(病歴一七四號)

第五例前症ト同一ノ原因ニ由リ顛頂中央ニ長サ五珊米深サ骨膜ニ達スル擣裂創ト後頭左乳頭突
 起下ニ一錢銅貨大ニシテ深サ骨膜ニ及フ擣創ト右下腿上三分ノ一部ニ於テ脛腓兩骨ヲ破碎スル
 大擣裂創ト右大腿下三分ノ一部ニ數個ノ失肉擣創ト左膝蓋骨直上部ニ深大ノ失肉擣創トヲ負ヒ
 且ツ左顛顛部ニ擣傷ト全顔面ニ火傷トヲ兼子負ヒシカ二三日ニシテ外傷性譫妄症ヲ起シ精神錯
 亂シテ煩躁シ體温三十九度ニ昇リ右下腿ハ血行廢絶シテ壞疽ニ陷レルヲ以テ同大腿下部ヨリ切
 斷ヲ行ヘリ譫妄症ハ尙ホ依然トシテ持續シ其翌日即チ受傷後四日目ニ死亡ス(病歴二八八號)

砲丸ノ爆發セル近部ニ於テ負傷シ其創傷ノ果シテ何ニ因セルヤ不明ニ屬ス
 ルモノハ前ニ記セシカ如クニシテ此ノ負傷ハ皆ナ軍艦比叻ノ下甲板士官室
 ナル治療所ニ敵ノ三十珊米半彈ノ爆裂シタル際ニ生セシモノニシテ該彈ハ
 鐵製ノ「マスト」ヲ破壞シ卓子其他治療用ニ供ヘタル器具物品ヲ破碎飛散セシ

メタルヲ以テ其創傷中孰レカ彈片ニ因セシヤ將タ鐵木片ニ因セシヤ實際不明ナリ其傷數ハ二十傷ナルモ人員ハ五名ニシテ其五名中四名ハ即死シ一名ハ受傷後四日ヲ經テ死亡シ孰レモ一身ニ多數ノ擣裂創ヲ兼テ負ヒタルナリ其内重大ナル創傷ハ彈片ニ因スルモノナルヘシト察セラル、モ飛散セル鐵木片モ亦巨大ニシテ勢力アルモノアリシナレハ判然其區別ヲナスヲ得ヌ又斯ノ如ク砲丸ノ爆發部ニ近接シテ負傷セルモノハ彈片及鐵木片ノ打撃ヲ受クルノミニ止マラス爆發ノ爲ニ生セル瓦斯體ノ飛動力及火氣ニ觸レテ他ノ創傷ヲ兼ヌルコト多キモノニシテ或ハ之ヲ爆發創ト稱シ一種特別ノ創傷トシテ論セラル、コトアルモノナレハ同一ノ原因ヨリ來ル挫斷創及粉壘創ト共ニ後ニ至テ尙ホ記述スル所アルヘシ

(五) 飛散セル鐵片及木片ニ並ヒ撃タレ其孰レニ原因セシヤ分明ナラサル擣創アリ左例ノ如クニシテ傷數ハ十二トス

第一例敵彈上甲板ヲ破壊シ下甲板ニ來リ厨房ヲ貫通セシ爲メ破摧サレタル鐵片及木片ニ撃タレ上唇ニ長サ三珊米幅一珊米ノ擣創右耳下ヨリ右頸部ニ五リ長サ十珊米幅一珊米ノ擣裂創ト右眉毛部及右頰部ニ各小指頭大ノ擣創ト左示指ニ小豆大ノ擣創三個ト右大腿中央ノ外側ニ方二珊米ノ擣創及右肘關節後面ニ方四珊米ノ擣創トヲ負ヒ就レモ創縁不整ニ挫裂ノ紫色ヲ呈シ腫脹シ來

リシモ創面化膿スルニ至ラス十二三日ニシテ皆治癒セリ(病歴九八號)

第二例敵彈艦橋上右舷側ノ「ネツチング」ニ中リ鐵片及木片ヲ飛散セシメ爲ニ右上膊中央ノ外側ニ長サ三珊米深サ一珊米ノ擣裂創ヲ蒙リ創縁大ニ擣挫セラレテ紫色ヲ呈シ創底ニ絨毛ノ衣服片ヲ藏シ且ツ該創ノ下方ニ徑五珊米ノ淺擣創ヲ負フ後チ創面ハ化膿ニ陥リ六週間ヲ經テ治癒ス但シ本症ハ木片ニ因スル擣傷ノ第三例ニ兼存セシモノナリ

(六) 激動ノ爲メ身體ヲ跳子飛サレシニ因スル擣創ヲ例スルニ

敵彈飛來シ面前數尺ノ處ニ在ル鐵壁ヲ擊破スルニ際シ激動ヲ起シ身體ヲ跳子飛サレ左季肋部ニ二錢銅貨大不正形ノ擣裂創ト左肺腸中央部ニ長サ六珊米幅三珊米ノ擣裂創ヲ負ヒ一時失神セシモ暫時ニシテ醒覺シ創部ノ治療ヲ受ケテ再戰闘ニ從事セシカ後チ敵ノ巨彈前部下甲板ニ爆發シ且ツ多量ノ火藥ヲ發火セシメタルニ由リ再ヒ轉倒スルト同時ニ彈片ニ顛頂後部ヲ撃タレ小擣裂創ヲ負フ此ノ創傷ハ數日ニシテ治癒セシモ季肋部及肺腸部ノ創面ハ化膿シ七週間餘ニシテ治癒セリ(病歴一三八號)

此ノ他ハ砲彈爆發ノ激動ニ因リ跳子飛サレテ腰部ト薦骨部ト小擣創ヲ負ヒシモノト右耳前部ニ擣創ヲ負ヒシモノトアリ

激動ノ爲メ身體ヲ跳子飛サレシニ因スル擣創ハ五傷ニシテ此ノ原因ヨリ生セシ創傷ハ本創ト擣傷アリシノミナリ就中擣傷ハ多クシテ其百分比例數ハ已ニ記セシ如ク七三・六八「ベルセント」ニ當リ本創ハ残り二六・三二「ベルセント」

ヲ占ムル割合ナリ斯ノ如ク其擣傷ノ多キハ自然ニシテ間其本創ヲ生スルハ顛倒ノ際偶銳角アル物體ニ觸レシニ由ルナリ

(七) 箝壓及衝突ニ因スル擣創 一ハ自砲發射ノ激動ニ由リ滑倒シテ右手指ヲ機械間ニ箝壓シ復雜骨折ヲ負ヒ一ハ手指ヲ舷側ノ砲彈穿孔ノ銳緣ニ衝突シテ負傷セシモノナリ

擣創ハ前記ノ如クニシテ總計百八十四傷アリ之ヲ諸創傷ノ總數六百二十九傷ニ對シ百分比例スルトキハ二九・二五「ペルセント」ニ當リ創傷ノ種別中最多傷ヲ占ムルモノニシテ其内砲彈ノ破片ニ因スルモノ九十七傷金屬片ニ因スルモノ二十五傷木片ニ因スルモノ二十三傷砲彈ノ爆發ニ觸レ其創傷ハ彈片ニ因スルヤ將々鐵木片ニ因スルヤ不明ナルモノ二十傷砲彈爆發ノ激動ニ因リ身體跳子飛サレシニ因スルモノ五傷鐵片木片併ヒ飛散シ其孰レニ因スルヤ不明ノモノ十二傷ト箝壓及衝突ニ因スルモノ各一傷アリ而シテ此ノ擣創ノ最も多數ヲ占ムルハ海戰ニ於テ當ニ然ルベキ所ナラン抑モ擣創ハ擣傷ニ兼ヌルニ皮膚ノ破壊ヲ以テスルモノナレハ之ヲ生スル原因物ハ第一皮膚及其他ノ組織ヲ壓潰スルニ足ル勢力即チ速力若ハ重力ヲ有セサルヘカラス而

シテ海戰ニ於テハ砲丸ノ破裂片ト云ヒ鐵木材ノ破碎片ト云ヒ其形體粗大ニシテ重力アルモノ多キノミナラス已ニ論セシガ如ク遠距離ニ飛行シテ人ヲ撃ツ場合少ケレハ其速力ハ本來猛劇ナラサルモノトスルモ亦甚々弱カラスシテ之ニ其重力ヲ合スルトキハ其勢力本創ヲ生スルニ餘リアルモノ多シトス第二皮膚及他ノ組織ヲ壓潰スルモ組織内ノ侵徹ニ適ハサルモノナラサルベカラス而シテ海戰ニ於テ見ル所ノ彈片ハ形體大ナルモノ多キノミナラス形狀極メテ不整ニシテ粗糲ナル平面ヲ有スレハ其勢力ハ皮膚及他ノ組織ヲ壓潰スルニ餘リアルモノ其組織内ニ穿入スルカ若クハ之ヲ貫通シ去ルニハ甚タ不利ナルモノ多シトス加之砲丸ノ破裂片及鐵木材ノ破碎片ハ形狀不整ナルガ爲メ粗糲ノ平面ヲ有スルト同時ニ尖角銳緣ヲ有スレハ其形體小ニシテ重力少ク且ツ速力衰ヘタルモノト雖モ其尖角銳緣ヲ以テ皮面ヲ撃ツトキハ組織内ニ侵徹スルノ力ナキモ尙ホ往々皮膚ヲ破開シテ擣創ヲ生スルコトアリ殊ニ頭部脛前部ノ如キ皮上軟組織ニ乏シキ部ヲ撃チタル際ニ然リ此ノ他砲丸爆發等ノ激動ニ因リ身體跳子飛サレ種々ノ物體ニ衝突シテ擣創ヲ生スルコトアレバ此ノ種ノ創傷甚々多キハ怪ムヲ須非ス

第四 盲孔創及穿入創

(一) 彈片ニ因スル盲孔創及穿入創 合計五十七傷アリ此ノ負傷人員ハ四十一名ナリ其内趣味アル數例ヲ摘舉スレハ左ノ如シ

第一例敵彈ノ破裂片ニ由リ頭部ニ穿入創ヲ負ヒ即死セシモノ七名受傷ノ當日内ニ死亡セシモノ一名アリ(病歴四五號五五號五六號五七號五八號六一號六二號六三號)

第二例下腹臍部ノ左下方ニ當リ一圓銀貨大ノ失肉創ヲ負ヒ其創底斜メニ裂開シテ彈片腹内ニ穿入セルヲ示シ劇シキ腹痛ヲ訴ヘ且ツ顔面及手足背ニ火傷ヲ負ヘリ四日ヲ經テ入院ノ當時ハ已ニ汎發性腹膜炎ノ徵候著シクシテ腹部緊滿シ惡心嘔吐アリテ黑色液ヲ吐逆シ腹痛甚クシ依テ腹内ヲ洗淨シ鎮靜劑ヲ與ヘ靜保セシニ數日ヲ經テ症狀次第ニ緩解シ來ルヲ以テ對症療法ヲ行ヒシニ體力日ヲ經ルニ從ヒ衰弱シ創孔ヨリ糞樣液ヲ漏出シ一ヶ月ノ後チ遂ニ死亡ス(病歴一六三號)

第三例彈片右腸骨前上棘部ヲ破碎シ腹腔ニ穿入シ腸管創口ヨリ脱出シテ即死ス(病歴一六六號)

第四例腹壁臍部ニ穿入創ヲ負ヒ其創口ハ徑三珊米ノ圓形孔ニシテ之ヨリ小腸ヲ脱出シ且ツ左大腿ニ小盲孔創ヲ負ヒ即死ス(病歴一六四號)

第五例下腹臍下ニ五十錢銀貨大ノ穿入創ヲ負ヒ腸管之ヨリ脱出シ且ツ右上膊左大腿及下腿ニ骨ヲ破碎スル大擗裂創ヲ負ヒ震盪ノ爲メ即死ス(病歴一六五號)

第六例右下腿上三分ノ一部ト中三分ノ一部ノ接際ニ方リ外後方ニ縱徑三珊米橫徑之ニ半バスル盲孔創ヲ負ヒ創孔ノ深サ九珊米アリ入院ノ後チ長徑二・七珊米橫徑一・七珊米厚サ一・五珊米ノ彈片

ヲ抽出シ五週間ヲ經テ創孔治愈セリ(病歴二八〇號)

第七例左上膊上部三分ノ一部ト中部三分ノ一部ノ接際ニ於ケル前外側ニ拇指頭大ノ盲孔創ヲ負ヒ深サ骨ニ及フモ骨傷ヲ認メス且ツ左前膊尺骨側ノ稍、後方ニシテ肘關節ヨリ下ルコト約六珊米ノ部ニ長徑三珊米ノ橢圓形盲孔創ヲ負ヒ創孔ハ上方ニ向ヒ尺骨ノ上部ヲ破碎シ創底ニ彈片停止シ(彈片ノ大サ不明)上膊動脈ノ分岐部ヲ破斷セルモ出血多カラズ橈骨動脈及尺骨動脈ノ搏動ハ消失スルヲ認メ橈骨ニハ異狀ヲ見ス後チ四日ヲ經テ佐世保鎮守府病院ニ入院ノ當時ハ左前膊肘部以下已ニ厥冷シテ紫藍色ヲ呈シ脱疽ニ陷レルヲ示セリ依テ上膊中部ヨリ截斷ヲ行ヒ凡十二週間ノ後チ癒合シ遂ニ免役セラル(病歴二二四號)

第八例右大腿上部ニ盲孔創ヲ負ヒ且ツ兼ネテ右肩胛部ノ骨折貫通創ト左下腿内側ニ擦過創ヲ負フ而シテ右大腿ノ盲孔創ハフーバルト韌帶ノ直下部ニアリシモノニシテ創管内下方ニ向ヒ六珊米ヲ深サシ創口ノ大サ拇指頭ヲ入ル、ニ足ラサル破裂狀ノモノナリシカ創底ノ彈片ヲ抽出セシニ大サ拇指頭大ニシテ不整楔子形ノモノナリシ而シテ其創孔ハ六週間ニシテ癒合ス(病歴一九三號)

第九例頸前部ニ盲孔創ヲ負ヒ氣管及食道ヲ裂開シ且ツ右總頸動脈ヲ毀損シ出血ノ爲メ即死ス(病歴一二七號)

第十例右大腿フーバルト韌帶外部ノ直下ニ長徑四・五珊米ノ橫行破裂狀創ヲ負ヒ深サ後方ニ向ヒ十珊米アリ創底ニ彈片ヲ藏ス之ヲ抽出スルニ長徑五珊米最廣徑二・五珊米厚サ一・五珊米ノモノニシテ其一面ニ固ク衣片ヲ附着セリ而シテ其創孔ハ化膿セシカ四ヶ月餘ニシテ全治ス(病歴二五四號)

第十一例左胸背第十肋骨部ニ内上方ヨリ内下方ニ斜走スル長サ十五珊米幅五珊米ノ破裂狀創アリ創ノ下方ニ當リ肋骨ヲ破碎シ且ツ肺臟ヲ傷ケタルカ爲メ創圍ニ氣腫ヲ生セリ此ノ他兩上膊ノ骨折貫通創及肢體諸部ニ數ヶ所ノ擣裂創ヲ兼テ負フ而シテ後チ背部ノ皮下氣腫ハ次第ニ蔓延シテ下腹部及陰囊ニ及ヒシモ著シキ障礙ナク十數日ヲ經テ肉芽發生ノ爲メ創孔充填セララル、ニ至リ消失シ受傷後八週日ニシテ該創ハ全ク治癒セリ(病歴二〇九號)

第十二例右大腿中三分ノ一部ト下三分ノ一部ノ接際ニ於テ前内側ヨリ後外下方ニ向フ盲孔創ヲ負ヒ大腿骨ハ斜メニ破碎セラレ對側ノ皮下ニ彈片ノ伏在スルヲ認ム依テ該部ノ皮膚ヲ切開シ彈片ヲ抽出セシニ其長徑二・三珊米幅一・八珊米厚サ一・五珊米アリテ不整ノ骰子形ヲナスモノニ其一面ニ衣片ヲ附着セリ而シテ創孔ハ化膿シ後チ破碎骨片游離シタルヲ以テ其三個ヲ抽出セシガ爾來變ナク受傷後七週間ニシテ癒合セリ(病歴二五九號)

第十三例敵彈來テ砲塔内ニ破裂シ左前膊前面腕關節部ヨリ五珊米上方ニ當テ二個ノ長サ各一・五珊米許ノ破裂狀創ヲ負ヒ橈骨ヲ破碎シ創底ニ異物ヲ存スルヲ以テ創孔ヲ少シク截開シ徑一・五珊米ノ骰子形彈片ヲ抽出セリ此ノ他右顳額部ニ火傷ヲ負ヒ多數ノ細小彈片及火藥殘渣ノ竄入スルアリ右耳鼓膜ノ破裂ヲ來シ且ツ左第三肋軟骨ノ折傷ヲ兼ヌル擣傷ヲ負ヘリ後チ前膊ノ創内ヨリ骨片數個ヲ出シ化膿シテ荏苒治セス六ヶ月餘ヲ經テ始メテ癒合セリ(病歴二二五號)

第十四例左大腿中央後面ニ長徑一・五珊米許ノ破裂狀ニシテ十珊米ヲ深サスル盲孔創ヲ負ヒ入院ノ後チ創底ノ彈片ヲ抽出セシニ長サ三珊米幅二珊米厚サ一珊米ノ不正長圓形ノモノニシテ之ト共ニ衣服ノ小片ヲ出セリ爾後創管ハ化膿シ癭管狀トナリ排膿不良ナルヲ以テ屢々切開シ肉芽ヲ刷去スル等ノ處置ヲ要シ荏苒日ヲ經テ十一月ノ後チ漸ク癒合セリ且ツ此ノ他ニ右手指ノ挫斷

創ヲ兼テ負ヒタリ(病歴二五五號)

第十五例彈片ノ爲メ右上膊上部前面ニ徑二・五珊米ノ不正圓形ヲナス盲孔創ト同側前膊下部ノ後面ニ拇指頭大ノ盲孔創ヲ負フ上膊ノ創底ハ骨ニ達シ指探スルニ彈片骨ノ外科的頸部ニ楔入シ周圍ニ氷裂骨折アリシモ全斷スルニ至ラス前膊ノ創孔ハ拇指頭大ノ破裂狀ヲナスモノニシテ深サ三珊米アリ橈骨ヲ折傷シ異物ノ有無不明ナリシモ入院ノ後チ創孔ヲ截開シ探檢シテ長サ二珊米幅一・五珊米厚サ六密米ノ不正形彈片ヲ抽出スルヲ得タリ爾後創孔ハ孰レモ化膿セシモ別ニ故障ナク前膊ノモノハ七週間ニシテ治癒シ上膊ノモノハ五ヶ月ニシテ治癒セリ(病歴二〇八號)

第十六例上甲板後部砲ノ發射ニ從事中下甲板ニ於テ爆發セル彈片天窗間ヨリ飛揚シ來リ右足内踝ノ直前部ヲ撃タレ彈片ノ一部分組織内ニ楔入シ餘部ハ皮外ニ露出セルヲ以テ負傷者自ラ拔出セリ後チ創内ヲ檢スルニ深サ五珊米ニシテ骨ニ達スルモノ之ヲ破碎スルニ至ラス五週間ニシテ治癒セリ(病歴三〇二號)

第十七例彈片ノ爲メ右膝蓋骨ノ直上部ニ横走スル五珊米許ノ破裂狀創ヲ負ヒ創縁ハ挫裂セラレテ鋸齒狀ヲナシ四頭伸筋腱半ハ裂斷セラレ膝關節腔ニ通シ膝蓋骨ハ一部破碎セラレテ下方ニ轉位ス然レモ大腿骨及脛骨ノ關節端ニ骨傷ナシ而シテ創内ニ一彈片(大サ不明)ト數個ノ膝蓋骨破碎片トヲ藏セシヲ以テ之ヲ抽出セリ且ツ此ノ負傷者ハ頭部顔部及上肢等ニ數個ノ擣裂創ヲ兼テ負ヒシモノナリ爾後膝部ノ創孔ハ化膿ニ陥リシモ其經過ニ故障ナク五ヶ月ニシテ勁直ヲ貽シ治癒シ遂ニ免役セララル(病歴二七一號)

第十八例砲丸爆發ノ爲メ左眼内眥部ヨリ眼球内ニ小彈片竄入シ小裂創ヲ生シ面部ニ火傷ヲ負ヒ兩眼トモニ未燃火藥ノ殘渣處々ニ糝入スルアリ且ツ左下腿上三分ノ一部ノ内側ニ拇指頭ヲ入ル

、ニ足ラサル小裂創アリ七珊米ヲ深サシ加之左手指ニ擣創及挫斷創ヲ負フ後チ左眼結膜ハ大ニ發炎腫脹シテ堤防狀ヲナシ前房内ニハ溢血滯溜シテ暗赤色ヲ呈シ瞳孔領部ハ黃色ヲ呈シ全ク失明シ右眼結膜モ亦充血シテ視力少ク害セラル左下腿ノ創底ニハ異物アルヲ以テ對側ヲ截開シ拇指頭大ノ金屬片ヲ抽出セリ後三ヶ月餘ニシテ此ノ創孔ハ癒合セシモ左眼ノ視力ハ更ニ復セズシテ刺戟性ノ充血去ラス次第ニ萎縮スル傾キアリ右眼ノ視力ハ少ク復スルモ物ヲ凝視スルキハ忽チ飛蚊様物ヲ視ル後日ヲ經ルモ左眼ハ到底恢復ノ望ミナキヲ以テ剔出シ義眼ヲ裝用セリ但シ該眼球後方ノ脈絡膜ト鞏膜トノ間ニ重量〇九五瓦蘭謨ノ小彈片ヲ藏セリ斯ノ如ク本負傷者ハ一眼ヲ失シタルヲ以テ遂ニ免役セラル(病歴一一一號)

第十九例背部第六背椎棘狀突起ノ右側ヨリ左上方ニ向ヒ走ル長サ五珊米幅之ニ半バサル破裂狀創アリ創孔ハ左肩胛骨下ニ入り肋骨ヲ破碎シ呼吸及體動ニ際シ左季肋部ニ劇痛ヲ感シ呼吸困難ヲ來シ創圍ヲ指觸スルニ恰モ雪塊ヲ壓スルカ如キ軟性糜軋ヲ感シ氣腫症アルヲ知リ且ツ創孔ヨリ氣泡ヲ交ユル血液ヲ出ヌ又左大腿上部ノ後外側ニ縱裂創アリ深サ三珊米許ニシテ彈片ノ留存スルヲ以テ之ヲ抽出セリ此ノ夜心窩苦悶呼吸困難アリ胸部ノ疼痛甚クシテ安眠ヲ得ス體温三十八度ニ昇ル且ツ尿通ナキヲ以テカテーテルヲ用ユ四日後入院ノ當時ハ咳嗽頻發シテ稍ハ血色ヲ帶フル痰ヲ咯出シ胸痛甚クシテ左肩胛部ヨリ腋窩ニ掛ケ皮下氣腫ヲ起シ同胸下部ニ輕濁音アリ左大腿ノ創口ハ血痂ヲ以テ癒着セリ爾後經過順良ニシテ咳嗽氣腫次第ニ減少シ咯痰中ノ血色漸ク去リ疼痛モ輕減シ來リ二ヶ月ヲ經テ全治ス(病歴一四四號)

第二十例右大腿下三分ノ一部ノ後外側ニ示指頭大ノ盲孔創ヲ負ヒ深サ五珊米ニシテ創底一彈片ヲ留ム之ヲ抽出セシニ拇指頭大ニシテ不正形ノモノナリシト云フ又右足第三第四趾間ノ背面ニ

長サ二珊米ノ破裂狀創アリ創線不正ニ裂開シ深サ五珊米ニシテ後内方ニ進ミ第一第二蹠骨ヲ破碎ス入院後第一第二蹠骨ノ截除術ヲ行ヒシニ創底ヨリ三個ノ小彈片ヲ出セリ後チ凡ソ七週間ニシテ大腿部ノ創孔ハ癒合シ足部ノモノハ三ヶ月ニシテ癒合セシモ步行力健全ナラサルヲ以テ免役セラル(病歴三〇五號)

第二十一例眉間ノ中央ヨリ鼻梁ノ中央ニ至ル哆開創ヲ負ヒ前頭骨ノ鼻棘、鼻骨、上顎骨、鼻突起及篩骨鉛直板ノ一部ヲ破碎シ創孔洞穴狀ヲナシ内ニ破碎骨片及彈片ヲ留メ右眼窩内溢血アリ眼險甚シク腫脹シ暗紫色ヲ呈シ開眼スルヲ得ヌ又右下眼窠緣ノ下部及右頰部ニ各一個ノ盲孔創アリ口角部ノモノハ創孔小ナルモ拇指頭大ノ彈片ヲ留ム又右踝關節内髁上三珊米ノ部ニ一創口アリ且ツ顔面ニハ處々ニ火傷ヲ負フ入院當時ハ顔面右半側甚シク腫脹シ右眼ハ開クヲ得ヌ左眼險ハ少ク腫脹スルモ開眼ニ妨ケナク結膜少ク充血スルノミ顳骨下部ノ創底ニ異物存スルヲ以テ截開シ小彈片ヲ抽出ス又右下顎ノ智齒ハ頰部ニ入りシ彈片ノ爲メ一部破折シ動搖スルヲ以テ拔去ス右眼ヲ檢スルニ瞳孔散大シ視力大ニ減少スルヲ以テ眼底ヲ檢セシニ網膜剝離ヲ認ム又前額右側右顳額部及右頰ノ知覺鈍麻スルヲ認ム右踝關節ノ創内ニモ亦小彈片存セルヲ以テ之ヲ抽出セリ爾後加療ニ依リ諸創孔次第ニ癒縮シ右眼視力モ亦幾クカ復セシモ外斜視トナリ複視症ヲ來ヌ又鼻部ノ創口ハ成形術ヲ施シ之ヲ癒合セシメタリ頰部顳額部ノ知覺不仁ハ依然トシテ存シ右眼視力大ニ衰耗スルヲ以テ免役セラル(病歴一〇六號)

第二十二例右上膊下端ノ外側ニ長サ五珊米幅三珊米ノ橢圓形裂開創アリ創底上膊骨ノ骨膜ヲ剝離シ骨壁星芒狀ニ罅裂スルヲ認ム然レモ彈片ノ遺存スルモノナシ此ノ他頭部顔面及上下肢ニ多數ノ擣裂創ヲ負ヒ二ヶ月餘ニシテ創傷治癒セシモ右肘關節ニ不全勁直ヲ貽セルヲ以テ免役セラ

ル(病歴二〇七號)

第二十三例背面右肩胛骨下部ニ長サ一珊米幅之ヨリ小ナル小盲孔創ヲ負ヒ創縁挫裂シ外方ニ向ヒ深サ二珊米ノ處ニ斷裂衣片ノ阻塞スルヲ認メ之ヲ抽出セリ爾後肉芽ノ發生佳良ニシテ二週間ノ後チニハ創孔閉鎖スルニ至リシモ之ヨリ上方三珊米ノ部ニ硬固物ヲ觸ル、ヲ以テ截開セシニ六密米徑ノ立方小彈片ヲ得タリ(病歴一四一號)

第二十四例右上膊上部ノ内側大胸筋附着部ニ方リ一珊米ノ方形創アリ又左前膊中央部ノ後側及左腕關節背面ノ尺骨側ニ各一五珊米ノ不正形創アリ創縁銳利ニシテ不整ナラス創底深カラスシテ彈片存セリ此ノ他肢體諸部ニ貫通創及擣裂創ヲ負フ後チ右上膊ノ創内ヨリ徑一五珊米ノ不正方形彈片ヲ抽出セシニ創孔ハ日ヲ經テ治癒セシモ他部ノ創傷ノ爲メ手指ノ用ヲ失シ遂ニ免役セラル(病歴二二九號)

第二十五例左下腿後面ノ中央ニ上外方ヨリ内下方ニ斜走スル長サ三珊米幅一五珊米ノ破裂狀創ヲ負ヒ其創縁ハ削去セルカ如ク銳利ニシテ出血多カラス且ツ背部ニ擦過創ヲ兼ネ負ヘリ而シテ下腿ノ創孔ハ後チ化膿シ荏苒治セサルヲ以テ受傷後四週ニシテ創底ヲ精密ニ探檢セシニ前下方ニ向ヒ六珊米ヲ深サシ硬固物ノ存スルヲ認メタルニ由リ之ヲ抽出セシニ徑二珊米ノ骰子形彈片ナリシ而シテ該彈片ハ脛腓兩骨間ニ籍人セシモノニ兩骨共ニ其部ハ數條ノ小罅裂ヲ生シ小骨片ノ遊離スルモノアリ兩骨共全折スルニ至ラス其經過順良ニシテ五週間ヲ經テ治癒セリ(病歴二一八七號)

第二十六例左胸前面乳頭下六珊米ノ部ニシテ第七肋骨端ノ上方ニ長サ一珊米幅六密米ノ創ヲ負ヒ深サ一珊米ニシテ肋骨ニ達シ出血微少ナルモ震盪ノ爲メ眩暈ス入院ノ後チ創内ニ異物アルヲ認メタルヲ以テ創孔ヲ切開シ豌豆大ニシテ粗糙不正ノ稜角アル彈片ヲ抽出セリ創底肋骨々膜ノ

剝離スルノミ骨傷ナシ而シテ截開部ハ縫合シ餘部ニハ排膿管ヲ裝用セシニ肉芽ノ發生不良ニシテ少量ノ排膿アリ癒合機能振ハス依テ銳匙ヲ以テ肉芽ヲ抓去スル等ノ法ヲ行ヒシモ創部ハ瘻管狀ヲナシテ荏苒治セズ本負傷者ハ曾テ梅毒ニ罹リシコトアリシモノニシテ處々ノ水脈腺腫大スルヲ認メタルヲ以テ驅梅毒法ヲ行ヒ殆ト七ヶ月ニシテ漸ク治癒スルニ至レリ(病歴一三九號)

第二十七例前頭右隆起部ト冠狀縫合部トノ中間ニ小彈片ノ穿入創ヲ負ヒ皮膚ニハ長サ二珊米幅之ニ半ハスル不整ノ破裂狀創ヲ生シ骨ニ徑約一珊米ノ圓孔ヲ穿テ他ニ罅裂ヲ生セス且ツ出血多カラス又腦症ナシ彈片ノ所在ハ不明ナリ四日ヲ經テ入院ノ當時ハ創部清潔ニシテ良性ノ肉芽ヲ生シ化膿ノ模様ナシ夜間不眠ノ外ハ何等ノ神經症狀ヲ認メズ體温ハ三十八度五分ニ昇騰シ居タルモ三四日ニシテ常温ニ復セリ入院後一週間ヲ經テ頭重頭痛ヲ訴ヘ輕度ノ嘔氣ヲ催シ夜間安眠ヲ得ス頭部氷罽法甘汞下劑等ヲ用ヒ數日ニシテ頭痛去リ神氣爽快ヲ覺エ食慾興振ス後チ十日ヲ經テ時々耳鳴アルヲ訴フ體温ハ常度ナレモ脈搏遲徐トナリ五十五至ヲ算ス爾後斯ノ如クニシテ著變ナカリシカ後チ十五日ヲ經テ頭重耳鳴増劇シ惡寒發熱シテ體温三十八度三分ニ達シ前頭部ノ創口ヨリ少量ノ排膿アリ次第ニ腦壓迫ノ症狀ヲ來スヲ以テ創部ニ圓鋸術ヲ行ヒシニ前頭内ニ一膿瘍ヲ發生セルヲ認ム彈片ノ所在ハ詳カナラス硼酸水ヲ以テ充分ニ洗淨シ排膿管ヲ裝用セシニ爾後體温稍下降シ自覺的症狀輕快ヲ告ケタルモ三日後ニ至リ體温復ヒ昇騰シテ三十九度ニ達シ脈搏細速トナリ百四十八至ヲ算シ精神昏迷シ言語不明ニシテ呼吸聲ヲ帶ヒ吃逆頻發シ來リ眼球ハ斜視狀ヲナシ瞳孔左右不同ニシテ撮空摸床ノ症狀ヲ呈シ翌日ニ至リ遂ニ死亡ス(病歴五九號)

第二十八例右胸側第九第十肋骨間ニシテ腋下ニ對スル部ニ長サ二珊米ノ破裂狀創ヲ負ヒ創縁不

正ニシテ第十肋骨ハ破折セラレ一五珊米許ノ骨質ヲ失ヒ彈片ノ所在不明ナリ又左下腿下三分ノ一部内側ニ長徑凡ソ二珊米ニシテ幅之ニ半ハスル盲孔創ヲ負ヒ深サ反對側ノ皮下ニ達シ異物ノ存スルヲ以テ截開シ縱徑三珊米横徑一六珊米厚サ一三珊米ノ彈片ヲ摘出セリ其彈片ニハ衣片ヲ固着セリ此ノ他頭部及左前膊ニ擣裂創ヲ負フ四日後入院ノ當時ハ右胸部創口ヨリ黄色ノ稀液ヲ排出シ胸痛及咳嗽アリ肋骨ノ折端ハ尖銳不整ナルヲ以テ之ヲ截去シ尙ホ創内ヲ檢スルニ創孔ハ肝臓内ニ入り彈片ノ所在不明ナリ體温ハ常度ヲ超エス爾後該創ヨリ稀胆汁樣液ノ排泄止マス肉芽ノ發生不良ナリ十日ヲ經テ再ヒ創内ヲ探リ蠶豆大ノ扁平斷骨片ヲ摘出スルヲ得タリ後チ創孔ヨリ肝質ノ死敗組織ヲ排出ス次テ偶一第一第二腰椎間ノ右側ニ當リ皮膚橢圓形ニ隆起シ皮下ニ硬結物アルヲ發見シ截開シテ長サ一八珊米幅一三珊米厚サ五密米ノ不整長方形ナル彈片ヲ得タリ蓋シ是レ右胸側ヨリ肝ヲ貫通シ此部ニ來テ止マリシモノナラン爾後數日間胆汁樣ノ排泄止マヌ時々肝質ノ死敗細片ヲ出セシガ後チ漸ク稀少トナリ創孔ノ肉芽モ改良シテ漸ク癒縮セントスルノ際體温卒カニ昇騰シテ三十九度ニ達シ創内ヲ檢スルニ豌豆大ノ死骨片ト肝ノ死敗片ト阻塞シ創内稀膿溜溜スルヲ見ル依テ之ヲ除却シ創内ヲ洗淨セシニ體温平復シ爾後ノ經過ニ故障ナク入院百餘日ニシテ諸創共ニ全治セリ(病歴一六一號)

第二十九例左胸側腋下線ニ準スル第八肋骨部ニ長サ三珊米許ノ盲孔創ヲ負ヒ創孔ハ下方ニ向ヒ第十肋骨ヲ破折シ胸腔ニ入り兼テ上膊ニ貫通創ヲ負フ翌日ニ至リ下腹部ニ急痛ヲ訴ヘ體温三十八度ニ昇リ又其翌日ニハ腹痛益々甚シク嘔吐ヲ來シ四日後入院ノ當時ハ嘔吐アリ腹部緊滿鼓脹シ腹痛甚シク身體著シク衰脱シテ腹膜炎ノ徵候具備シ且ツ輕咳アリテ少量ノ交血痰ヲ咯ス爾後腹膜炎ノ徵候ハ益々増劇シ腹部ハ大ニ鼓脹シ胸痛加ハリ血痰止マス創孔ヨリ排膿アリ入院五

日目ニ衰弱ノ爲メ遂ニ死亡ス(病歴一六二號)

第三十例右胸乳線ト腋下線ノ中間ニシテ第七八肋骨部ニ小指頭大ノ穿入創ヲ負ヒ肋骨ヲ折傷シ右足踵部ヲ挫壞シ且ツ頭部顔部及上下肢ニ火傷ヲ負ヒ翌日ニ至リ氣胸症及皮下氣腫症ヲ繼發シ呼吸困難ヲ來シ遂ニ死亡セリ(病歴三二一號)

彈片ニ因スル盲孔創及穿入創ノ五十七傷ヲ同因ヨリ來ル諸種ノ創傷總數二百八十九傷ニ對シ百分比例スルトキハ一九・七二ニ當リ擣創ノ三三・五六「ベルセント」ニ比シ少シト雖トモ擣傷ノ六・五七「ベルセント」擦過創ノ一六・二六「ベルセント」貫通創ノ一一・四二「ベルセント」挫斷創ノ九・三四「ベルセント」等ニ比シテ多キヲ示シ彈片創傷中第二ノ多數ヲ占ム是レ已ニ論セシ如ク彈片ハ抑々形狀不整ニシテ組織内ノ侵徹ニ不利ナルモノナリト雖モ其賦與セラル、勢力ハ鐵木片ニ比スレハ自ラ優ル所アルヲ以テ形體甚々大ナラス且ツ廣キ平面ヲ以テ皮面ト衝突シタルニ非サルモノハ往々組織内ニ侵入スル力アルノミナラス尙ホ硬軟組織ヲ破壞シ貫通スルニ至ルモノアリトス抑、砲彈破裂片及破碎片ノ飛散スルモノハ鐵木片ノ飛散スルモノニ比シ甚々多數ニシテ諸創傷ノ原因トナルコト最モ多キモノナレハ何レノ創類モ彈片ニ因スルモノ多數ナルハ自然ナレトモ盲孔創及穿入創中彈片ニ因スルモノ、百分比例ヲ

見ルニ七二・一五「ベルセント」ニ當リ金屬片ニ因スルモノハ一五・一九「ベルセント」木片ニ因スルモノハ六・三三「ベルセント」ニ當リテ其懸隔他ノ創類ニ於ケルヨリ更ニ一層甚シキヲ見ル

盲孔創及穿入創ニ於ケル皮膚ノ創孔ハ其形狀種々雜多ニシテ尙ホ彈片ノ形狀及大小各同シカラサルト均シク各傷其趣キヲ異ニスル所アレトモ其大概ヲ論スレハ通例破裂狀ヲナシテ多少ノ實質缺損ヲ兼テ創縁ハ不正ニ挫裂セラレテ周圍組織擣傷ヲ蒙ルヲ見ル其破裂狀ヲナスハ彈片ノ速力元來強カラサルガ爲メ皮膚ヲ撃ツニ當リ皮膚ハ先ツ固有ノ彈力ニ依リ壓力ニ應シテ伸展スルノ猶豫ヲ得其伸展ノ容サレサルニ至テ始メテ破開スルニ因ルモノニシテ彈片ニ觸レタル部分ハ皆盡ク刮去セラレ、モノニアラサレハ其原位ニ復シタル時ハ破裂狀ヲ呈スルナリ故ニ創口圍ノ組織ハ受壓ノ爲メ擣傷ヲ蒙リ創口ノ大サハ概シテ彈片ノ大サヨリ小ナリトス病歴中創孔ノ大サト彈片ノ大サトニ就テハ記載ナキモノ少カラサレハ全數ニ就テ調査シ難キモ其記載シアルモノニ就テ見ルハ創口ノ大サハ彈片ノ大サヨリ小ナルヲ例トス即チ前記セル創例ノ第八第十第十三第十四第十八第二十第二十一第二十四

及第二十八ノ左下腿創等ヲ以テ之ヲ證スベシ然レモ彈片若シ皮下軟組織ニ乏シクシテ骨ノ淺在スル部ヲ骨ニ向テ撃ツニ於テハ骨ニ支ヘラル、カ爲メ皮膚ハ充分ニ伸展スルヲ得スシテ壓壞セラル、ヲ免レス然ルハ創孔破裂狀ヲナサスシテ彈片ノ形狀ニ應シ不正方形不正圓形若クハ不正長方形等種々ノ創口ヲナス即チ創例ノ第十五第二十一第二十二及第二十四等是レナリ又軟組織ニ富ム部ト雖モ軟組織ノ支障アルハ貫通創ノ出口部ニ於ケル如ク其外方ニ何等ノ支障ナキモノト同シカラサシテ皮膚ハ其彈力ノ容ス限リ伸展シタル後始メテ裂開スルニアラサレハ創口破裂狀ヲナスモ尙ホ必ス多少ノ實質缺損ヲ兼テ單純ノ破裂ハナサ、ルナリ又或ル症ニ於テハ創口ノ長徑甚タ長クシテ彈片ノ有スル最長徑面ヲ以テ生シタル創口ト看做スモ尙ホ過長ナルヲ認ムルモノアリ即チ創例ノ第六第十一第十九第二十三第二十五等ハ其例ニシテ是レ彈片ノ皮面ト直角ニ衝突シテ之ヲ破開シタルニアラス彈片ノ飛來スル方向傾斜シテ皮膚及他ノ組織ヲ擦傷シツ、進行シ次第ニ深ク侵入セシニ因スルモノナリ殊ニ第十一例ノ如キハ其最モ著シキモノニシテ長サ十五珊米幅五珊米ノ破裂狀創ヲ生シ創ノ下底ニ於テ第十肋骨ノ一小

部分ヲ破碎シ肺臟ヲ傷ケタルモノナリ其彈片ノ所在ハ不明ニシテ其大サヲ知ラサレハ肋骨破碎ノ景況ヨリ推斷スルモハ十五珊米長ノ創面ヲ生シ得ルカ如キ巨大ノ彈片ニアラサリシハ明カニシテ其創面ノ長キハ彈片ノ斜走セルニ由ルモノトスルノ外ナシ然レハ其創面ハ長徑ノ特リ大ナルノミナラス横徑モ亦五珊米ノ廣サヲ有スルヲ以テ見レハ之ヲ生セシ彈片ハ巨大ナルモノナリシヲ推知スルニ難カラス且ツ著シキ皮下氣腫ヲ生シテ肺ハ毀傷セラレシニ疑ヒナキモ咯血其他肺内ニ彈片ノ穿入セシ徵候ナク將々胸痛其他胸膜炎ノ症狀ヲ來サスシテ彈片ノ胸膜腔内ニ落ちシ徵候ナキヲ以テ見レハ彈片ハ一部分ノミ組織内ニ穿入シ肋骨ヲ破碎セシニ止マリ自ラ脱落シ去リシモノニシテ肺ノ毀傷サレシハ破碎骨片ノ爲メナラン又創口縁ノ景況モ創口ノ形狀常ニ必ス同様ナラサルト同シク常ニ必ス不整ニ挫裂セラレ著明ノ擣傷ヲ存スルニハアラスシテ少レニハ創縁利刃ニ割去セラレタルガ如ク清銳ナルモノナキニアラス第二十四例第二十五例ノ如キハ即チ是レナリ是レ彈片ノ諸方ニ銳利ナル縁角ヲ有セシカ或ハ彈片ノ速力稍猛劇ナリシカ或ハ被擊部皮下ノ軟組織ニ乏シカリシカ或ハ否ラサルモ筋及筋鞘ノ強ク緊張シ

アリシトニ由來スルモノナリ

彈片盲孔創ハ骨ヲ折傷セシモノ少カラス創例第一ノ頭蓋穿入創八症ト第二十七ノ同創トハ別ニ論スヘキモ此ノ他ニ骨ヲ全斷セシ例ヲ舉クレハ創例ノ第十一第十二第十三第十五ノ前膊創第十九第二十第二十八第二十九等アリテ其内第十一第十九第二十八第二十九例及第三十例ハ肋骨ヲ折傷セシモノナレハ第十二例及第二十例ハ大腿骨ヲ全斷シ第十三例及第十五例ハ橈骨ヲ全斷セシモノニシテ彈片ノ勢力甚タ弱カラサリシヲ證スルモノナリ又之ニ反シ彈片骨ニ達スルモ唯僅カニ小部分ヲ破碎スルニ過キサカ或ハ全ク損傷ヲ與ヘスシテ其勢力甚タ弱キヲ證スルモノ少カラス即チ第七例第十五例第十六例十七例第二十一例ノ下眼窩縁下創第二十二例及第二十五例等是レナリ抑骨ノ被擊部近圍ニ限局スル小破碎ヲ起スカ如キハ小銃創ニ於テ見ルト甚タ少キモノナレハ砲創ニ其例少カラサルハ彈片ノ勢力概シテ弱キト其狀不整ニシテ尖角銳縁アルニ由ルナリ殊ニ第十五例ノ如キハ彈片ノ上膊骨外科的頸部ニ竝入セシモノナリト雖ハ罅裂小部ニ限局シ骨ノ全斷ヲ來スニ至ラサリシハ格別ノ例トスヘシ又第二十二例ノ如ク骨ニ少距離ノ間星芒

狀ノ罅裂ヲ生セシモ彈片ノ存在セザリシハ蓋シ彈片稍大創口ノ大サヨリ推スルハ其ノ小ナラザリシヲ知り得ヘシナルモノニシテ其一部分ノミ組織内ニ侵入シ骨ヲ撃チシモ其勢力ノ足ラサルカ爲メ骨ニ小破損ヲ與ヘテ以テ停止シ其ノ大部分ハ皮外ニ遺リシカ爲メ自然ニ脱落シ去リシモノナラン彈片ノ一部ノミ組織内ニ入りテ餘部ノ皮外ニ遺リシ的例ハ即チ第十六例ニシテ彈片ハ右足内靨ノ直前部ヲ撃チ深サ骨ニ達シ其半部ハ皮外ニ露出シ居タルヲ以テ負傷者自ラ之ヲ拔去セリ此第二十二例ノ如キ又前ニ論セシ第十一例ノ如キ將タ彈片擣創ノ第六例ノ如キ若クハ鐵片擣創ノ第一例第三例及第四例ノ如キ殆ト其性質ヲ同ウスルモノニシテ實際擣創ニ屬スヘキヤ將タ盲孔創ニ屬スヘキヤ判明ナラサルモノナレトモ姑ク報告ノ名稱ニ從テ區別セシナリ又第一例ノ頭蓋穿入創八症ハ唯一症ヲ除クノ外皆即死セシモノニシテ果シテ彈片ノ頭蓋内ニ穿入セシモノナルヤ否疑ヒナキヲ得サルモノアレハ創況ノ報告簡畧ニ失シ今之ヲ考究スルニ由ナシ其一症ノ即死セスシテ數時間ハ命脉アリシモノ即病歷第四十五號ハ前額部ニ三個ノ裂創ヲ負ヒ孰レモ骨折ヲ併存シ就中髮際ニアルモノハ創孔頭蓋腔内ニ通シ病歷ノ挿圖ニ見

ル如ク骨ノ一部分缺損シテ崩壞セル腦質血液ト共ニ流出シ且ツ皮膚ノ創口ハ他ノ創口ニ比スレハ狹クシテ穿入創ト認メ敢テ不可ナキモノ、如クナルモ彈片ノ所在ヲ確メタルモノニアラザレハ愈穿入創ナリシトハ確定シ難シ又一方ヨリ觀察スレハ骨ノ罅裂線ハ頗ル廣キニ互リ他ノ創部ニ生セシモノト相通シテ頗ル重力アル彈片ニ撃レタルモノ、如ク且ツ皮膚創口ノ形狀ハ大ナラスト雖モ明ニ破裂狀ヲナセシヲ以テ見レハ穿入創ニアラスシテ他二個ノ創傷ト性質ヲ同ウシ所謂骨折擣創ニシテ其骨質ノ缺損セシハ游離セル小骨片ノ頭腔内ニ轉位セルカ爲メトシ腦質ノ毀傷セラレシモ亦之ニ因スルモノナリシナランモ知ルヘカラス又第二十七例ハ彈片ノ所在不明ナリシト雖モ其穿入創ナルト明白ナルモノニシテ前頭部ノ皮膚創口ハ小破裂狀ヲナシ骨ニハ病歷ノ挿圖ニ明カナルカ如ク徑約一珊米ノ正シキ圓形孔ヲ穿チ其周圍ニハ骨ノ内外板共ニ罅裂アルヲ認メサルモノナレハ穿入創ヲ外ニシテ骨ニ斯ノ如キ創孔ヲ生スルコトアルヘキニアラス其彈片ノ形狀ハ如何ナリシヲ知ルヲ得ザレハ彈片ハ形狀孰レモ不齊ニシテ稜角アルハ免レサル所ニシテ彼ノ銃丸ノ如ク圓滑ナルモノアルコトナケレハ本創ヲ生セシ彈片モ亦

不整形ノモノト想像スルヲ得ヘシ然ルモ尙ホ前頭骨ノ創口ハ殆ト圓形ニシテ外板ハ固トヨリ内板ニ於テモ罅裂ヲ生セサリシハ彈片ノ勢力甚タ弱カリシヲ證スルモノナリ銃丸ノ如キモ遠距離ヨリ飛來シ其速力甚タシク衰フルニ至テ始メテ斯ノ如キ單純ノ骨傷ヲ生シ得ルモノトス而シテ此ノ彈片ノ勢力ハ漸ク前頭骨ヲ穿開スルニ足リシモ更ニ其餘力ヲ存セサリシモノニシテ頭蓋内ニ穿入シタルモ腦ヲ毀傷スルニ至ラスシテ硬腦膜ノ内外ニ墜落シタルモノナランカ腦ノ前頭葉ハ毀傷ヲ蒙ルモ時アリ何等ノ徵候ヲ現ハサ、ルコアリ得ヘキモ圓鋸術ヲ行ヒ彈片ヲ探リテ之ヲ發見シ得サリシヲ以テ見レハ彈片ハ腦内ニ入ラサリシモノ、如シ兎ニ角其受傷後數日間毫モ腦症ヲ現ハサ、リシハ亦以テ奇例トスルニ足レリ然レモ不幸ニシテ創孔化膿シ遂ニ頭蓋内膿瘍ヲ生シテ手術ノ効ナク落命スルニ至レリ

創孔内ニ衣服裂片ノ存セシコト明カナルモノハ第十例第十二例第十四例第二十三例及第二十八例ニシテ其内三例ニハ彈片ノ一面ニ衣服片ヲ固着セシメアリシモノナリ特リ彈片ニ限ラス鐵木片ト雖モ其形狀甚タ不整形ニシテ其面粗糙ナレハ其衣服ニ被ハル、部ヲ擊ツニ於テハ常ニ必ス多少ノ衣片ヲ斷

去シ之ヲ創内ニ伴フヘキハ理ノ觀易キ所ニシテ肢體ノ衣服ニ被ハル、部ニ於ケル盲孔創ハ衣片ノ有無ヲ記載シアラサルモノト雖モ大抵之ヲ存セシニ疑ヒナシ戰鬪中及戰鬪直後ノ治療ニ於テ創内ヲ指探シ衣片ヲ除去セシモ其記載ヲ脱セシモノ少カラズ又其後創孔洗淨等ノ際間々小衣片ヲ出セシモノアルヘキモ軍醫ノ目撃セサリシハ自然報告ニ漏レタルモノアリテ之ヲ統計的ニ示スヲ得サルハ遺憾ナリ

彈片ノ反對側皮下ニ達シテ止マリシモノハ第十二例第十八例及第二十八例ナリ其第十二例ノ如キハ胸側ヨリ肋骨ヲ破碎シ深ク腰椎側ニ入リシ勢力アリシモノ又第二十八例ノ如キハ胸側ヨリ肋骨ヲ破碎シ深ク腰椎側ニ入リシ勢力アリシモノ已ニ對側ノ皮下ニ達シテハ之ヲ破ルノ動力ナカリシナリ其斯ノ如キハ稍異例ナルカ如ク感セラレ、コアラシモ實際反對側ノ皮膚ハ外方ニ之ヲ支撐スルモノナキカ爲メ固有彈力ニ依リ壓力ニ應シテ大ニ伸展シ得ルガ故ニ之ヲ破ルニハ常ニ若干ノ動力アルヲ要スルモノナルヲ以テ對側ノ皮下ニ彈丸ノ停止スル例ハ軍陣外科學上敢テ珍シカラストス

一創内ニ數個ノ彈片存セシモノアリ即チ第二十例ノ右足ニ於ケル盲孔創ニ

シテ是レ始メヨリ三個ノ彈片飛來シテ一創内ニ入りシニアラス初メハ一個ノ彈片ナリシモノ骨ヲ擊ツニ當テ三個ニ破碎セシモノナラン此ノ如キ例ハ尙ホ他ニ是レアリトス

出血ノ爲メ死亡セシモノト思考セラル、ハ第九例ナリ即チ頸部ニ負傷シ氣管及食道ヲ破開セラレタルモノナレハ重篤ノ創傷ナリシニ相違ナキモ頸椎等ニ傷害アルヲ認メサリシヲ以テ若シ右總頸動脈ヲ毀傷セラレサルニ於テハ即死ハ免レタルモノナランモ動脈破開セラレ大ニ出血シタル事實アレバ其即死セシハ主トシテ是ニ原因セシモノト認ムヘシ尙ホ此ノ症ニ就テハ次章ニ於テ論スル所アルヘシ

第二十一例ハ鼻梁ニ著シキ穿入創ヲ負ヒ創孔ハ右上顎竇ニ通シ右眼窠内壁ヲ破碎シ眼球ノ擣傷ヲ來シ網膜ノ剝離ヲ認メシモノニシテ且ツ右下眼窠縁下ト右頰部ニ小盲孔創ヲ兼子負ヘリ然ルニ右頰部及顳額部ニ知覺麻痺ヲ來シテ治セサリシハ三叉神經ノ第三部ニ屬スル頰枝若クハ下齒枝ヲ毀傷セシカ爲メニシテ且ツ耳顳額枝ニ反射的ノ麻痺ヲ起セシモノナラン斯ノ如キ反射的麻痺ハ銃砲創ニ於テ往々見ルコトアルヲ例トス

腹部穿入創ハ第二例第三例第四例及第五例アリ一症ノ外ハ孰レモ即死セシ

モノニシテ一ハ創口ノ大サヲ記載シアラサルモ右腸骨ノ前上棘部ヲ破壊シタルモノニシテ他ノ一ハ臍部ニ徑三珊米ノ圓形孔ヲ穿チシモノ他ノ一ハ臍下ニ二錢銅貨大ノ圓形孔ヲ穿チシモノトス抑腹壁ハ壓力ニ應シ大ニ伸展シ得ヘキモノナレハ創孔ヨリ遙ニ大ナル彈片ヲ入ル、ハ往々目撃スル所ノ事實ナリ而シテ創口ノ大サヲ記セル例ハ二症共ニ殆ト同様ニシテ約三珊米徑ノ圓孔ナリシヲ以テ見レハ其彈片ハ小ナラサリシモノト想像スルツ得ヘク且ツ形狀不整ニシテ稜角アルベケレハ其内臓ヲ毀傷セシコト勿論ニシテ腸骨ノ破碎セラレタルモノモ亦然ルヘキヲ以テ孰レモ重篤ノ創傷ナリシハ明白ナリトス然レモ其即死セシハ腹内臓ノ傷害セラレタリト云フノミニ歸スヘカラスシテ之カ爲メ劇甚ノ震盪若クハ内部大出血ノ如キモノヲ將來セシニ因スルモノトセサルヲ得サレモ調査上其事情如何ナリシヲ明白ナラシムルヲ得サリシ但シ斯ノ如キ創傷ニ於テ震盪重大ニシテ直チニ死ヲ致スニ足ルコトアルヘキハ自ラ其所ナレハ強チ其因ヲ出血ニ求メサルモ可ナリ又其即死ヲ免レタルハ第二例ニシテ受傷當時震盪症アリシヤ否不明ニ屬ス此

負傷者ハ軍艦松嶋ニ在リシモノニシテ同艦ニハ甚々多數ノ死傷者ヲ生シタ
レハ軍醫ハ只管其治療ニ從事シ病歴ノ如キハ詳細ニ記載スルノ暇ナカリシ
モノニシテ同艦負傷者當初ノ症狀ハ孰レモ詳カニスルヲ得ス但シ當該軍醫
ノ言ニ據レハ火傷者及他ノ負傷者ニハ著シキ震盪症ヲ起セルモノ甚々多カ
リシト云ヘリ而シテ此ノ症モ内臓ヲ傷害セラレタルコト明カニシテ創傷ノ
部位及創孔ノ大サ第四例及第五例ト殆ント同様ナレトモ其運命ヲ同ウセサ
リシハ抑震盪ノ輕重ニ因セルヤ將々内部出血ノ有無ニ關セルヤ知ルヘカ
ラサルモ腹内臓ノ傷害セラル、景況異ナルニ從ヒ其將來スル震盪ニ輕重ア
ルハ明カナル事實ニシテ震盪輕ク且ツ内部大出血ナキトキハ内臓著シク傷
害セラル、モ即死ハ免ル、モノ多キカ如シ他ニ亦其例アルヲ以テ更ニ記ス
ル所アルヘシ

彈片ノ胸部穿入創ハ第十一例第十九例第二十八例第二十九例及第三十例ナ
リ第十一例ハ已ニ論セシカ如ク彈片ノ胸腔内ニ穿入セシモノニアラサルヘ
キモ第十九例ハ其胸腔内ニ入リシコト明カナルモノニシテ即チ創孔ハ第六
背椎部ヨリ左肩胛下ニ至リ肋骨ヲ破碎シ左季肋部ニ劇痛ヲ感シ呼吸困難ヲ

來シ創圍ニハ氣腫ヲ起シ體温ハ昇騰シ數日後ニハ血色ヲ帶フル咯痰アリシ
モノニシテ其季肋部ニ劇痛ヲ發セシヨリ推ストキハ彈片ハ肋骨ヲ破リシ後胸
膜腔内ニ墜落セシモノナルカ如シ其氣腫アリシヲ以テ見レハ肺臓ヲ傷ケタ
ルコト明カナルモ受傷當時ニ咯血ノ如キ徵候ナキヲ以テ案スルトキハ彈片
ノ深ク肺中ニ入り大ニ之ヲ傷ケタルモノトハ信シ難シ故ニ肺ハ其表部ヲ破
碎骨片ニ傷ケラレタルカ或ハ彈片ニ傷ケラレシモ彈片ハ没入スルニ至ラス
ノ胸膜腔ニ墜落セシモノトスヘシ數日後ニ至リ血痰ヲ咯出スルニ至リ其後
稍久ク持續セシハ重モニ創圍近傍ニ肺炎ヲ併發セシニ由ルモノナルヘク後
チ胸痛ノ去リシハ彈片ノ炎性產物ニ囊包セラレシカ爲メナラン第三十例ハ
軍艦松嶋ニアリシモノニシテ肋骨ヲ破碎セシハ明カナリ又氣胸及氣腫ヲ生
セシヲ以テ見レハ肺モ損傷セラレタルニ相違ナシ然レトモ彈片ノ肺ニ穿入
セシモノナルヤ否之ヲ指定スル徵候ノ記載ナケレハ甚々疑ハシトス其受傷
翌日ニ死亡セシハ廣キ火傷ヲ兼子負ヒタル共同感作ニ因スルモノナラン
氣腫ヲ起セルモノハ前記ノ第十一例ト第十九例ト第三十例トノ三症ニシテ第
二十八例ト第二十九例トハ共ニ第十肋骨ヲ破碎セシモノナレトモ後ニ論スル

カ如ク肺ニ傷害ヲ加ヘシモノト思考セラル、ハ一症ノミナリ又彈片ニ因セ
 ルヤ將々鐵片ニ因セルヤ不明ノモノニシテ左胸側ノ第五第六肋骨ヲ破碎セ
 シ胸壁穿入創アレハ是レ亦肺ニハ損傷ヲ來サ、リシモノ、如シ此ノ他胸部
 ノ貫通創七症アレハ孰レモ皆即死セシモノニシテ固ヨリ氣腫ノ有無ヲ論ス
 ヘキモノニアラス然レハ胸腔内ノ穿入創及貫通創合シテ十三症胸壁ノ盲孔
 創ニシテ鐵片肋骨ニ達シ之ヲ破碎セスシテ止マルモノアルモ爰ニ算入スル
 ノ要ナシナリ内即死セル七症ヲ除外スレハ六症トナリ六症中二症ハ肺ヲ傷
 ケタルモノニアラサルカ如クニシテ残り四症ノ肺ヲ傷ケタルモノ、中三症
 ハ氣腫ヲ發セシナリ抑氣腫ハ軍陣外科學上其例ヲ見ルコト少レナルモノニ
 シテニウドルフエルハ胸部ノ穿入創及貫通創二百症中ニ一症ヲ見ルニ過キ
 スト云ヒオチスハ米國南北戰爭ニ就キ肺部ノ穿入創及貫通創八千七百十五
 症中ニ三十八症アリシニ過キスト云ヘリ蓋シ銃創ニ於テハ銃丸ノ速力概シ
 テ強キカ爲メ貫通創ヲ生スルコト甚タ多キノミナラス穿入創ヲ生スルカ如キ
 勢力ノ衰ヘタルモノモ銃丸ハ侵徹ニ利ナル形狀ヲ有スルカ故ニ多クハ肺中
 ニ入り肺ト胸壁ト相對シテ哆開創ヲ生シ以テ空氣ハ創外ニ漏出シ易キニ由

リ氣腫症ヲ來スコト少レナルヘキモ彈片ハ勢力概シテ弱キカ爲メ肋骨ノ如
 キヲ破碎シ了レハ餘力ヲ存セサルモノ少カラスシテ且ツ形狀不整ナレハ破
 碎シタル骨部モ尙ホ通過スルニ難キモノ往々是レアリテ其肺ヲ傷クルハ破
 碎骨片ノ刺傷ヲ多シトス爲メ胸壁ノ創孔ト肺ノ創孔トハ相一致セスノ空氣
 ノ創外ニ逸出スルヲ妨ケ氣腫ヲ來スコト多キモノナラン且ツ彈片ノ方向ハ
 傾斜スルモノ多クシテ前記ノ三例孰レモ斜メニ穿入シタル創孔ナレハ益空
 氣ノ逸出ヲ阻礙スルハ明カニシテ其氣腫症ノ多キハ怪ムニ足ラス又三例中
 一例ハ已ニ述ヘシ如ク咯血アリシコト明カナルモノニシテ他ノ一例ハ負傷
 後數日ニ至リ交血痰ヲ咯スルニ至リシモノナリ又他ノ一例ハ咯血ニ就キ何
 等ノ記載ナキモ若シ咯血ノ如キ特著ノ徵候アリシナランニハ其記載ヲ脱ス
 ヘキニ非サレハ之レナカリシモノト看做スモ妨ケナカラン然レハ肺ノ損傷
 ハ孰レモ表部ニ局セル輕度ノモノナリシナルヘクシテ氣腫症ハ却テ斯ノ如
 キ輕傷ノモノニ發スルコト多キモノトス

第二十八例及第二十九例ハ共ニ胸壁ヨリ穿入セシト雖モ彈片ハ腹腔ニ達セ
 シモノナリ即チ第二十八例ハ彈片第九肋間隙部ニ入り第十肋骨ヲ破碎シ後

チ肝臓ヲ破傷シ第一第二腰椎間ノ右側皮下ニ達セシモノナリ肺ノ毀傷セラレシ指定徴候ハ一モ存セサルヲ以テ其損傷ハナカリシモノナルヘキモ創孔ヨリ胆汁色素ヲ混スル液體ヲ漏出セシノミナラス時々肝質ノ細片ヲ排出シ且指探上創孔ノ肝臓ニ通セルヲ認メタレハ肝ノ受傷セシニハ疑ヒナシ然レモ肝ノ外傷ニ往々發スル所ノ發作性劇痛特ニ右肩胛部ノ疼痛ハ存セサリキ且黃疸症ヲ來サスシテ吃逆ナシ創孔ハ一旦少シク化膿セル傾キアリシモ其經過頗ル順良ニシテ遂ニ治癒セリ第二十九例ハ彈片左胸腋下線ニ準スル第八肋骨部ニ入り斜メニ下リテ第十肋骨ヲ破碎シタルモノニシテ翌日ニ至リ腹部ニ急痛ヲ訴へ來リ後チ劇シキ腹膜炎ヲ起セシト創孔下方ニ向ヒ落下シ來リシ彈片ニ撃タレタル事情アルトヲ以テ見レハ彈片ハ腹内ニ穿入シタルモノニシテ又血痰ヲ咯シ來リシヲ以テ見レハ肺ニモ多少ノ損傷ヲ加ヘシモノナラン腹内ニ於テハ如何ナル臟器傷害セラレシヤ詳カナラスト雖モ其症狀ヨリ推スニ腸ハ毀傷セラレシニ疑ヒナシトス是レ亦腹内臟ヲ傷ケラレ即死ヲ免レタル一例ナリ

(二) 鐵片ニ因スル盲孔創及穿入創 合計十二傷アリ負傷者數八十名トス内

趣味アルモノヲ摘舉スレハ左ノ如シ

第一例敵彈ニ烟突ヲ破碎セラレ其碎片ニ因リ右胸副胸線部ノ第七肋骨部ヨリ第九肋骨部ニ亘リ内上方ヨリ外下方ニ向ヒ斜走スル長サ六瓏米幅二瓏米ノ裂創ヲ負ヒ深サ二瓏米アリテ下端ニ鐵片留存シ其一部露出セルヲ以テ負傷者自ラ摘出セリ創底肋軟骨ニ達スルモ之ヲ損傷セス其創面ハ四週間ニシテ全治セリ(病歴一四〇號)

第二例前症ト同一ノ原因ヲ以テ右鎖骨外方ノ下部ニ負傷ス創口ハ縱徑二瓏米橫徑一・五瓏米深サ六瓏米アリテ上方ニ向ヒ鐵片鎖骨ニ楔入スルヲ認ム依テ之ヲ摘出セシニ長サ二瓏米幅一瓏米厚サ三密米ノ不正四角形ノモノナリシ鎖骨ノ破碎ハ一小部ニ止マリ全斷スルニ至ラス創部九週間ニシテ全治セリ(病歴一八九號)

第三例前症ト同時ニ鐵片ノ爲メ頂部ノ稍左側ヨリ頭蓋底ニ亘リ盲孔創ヲ負ヒ腦ヲ毀傷セシ爲メ即死セリ(病歴六〇號)

第四例砲丸ニ兩大腿中央部ヲ挫斷セラレ且ツ右大腿挫斷部ノ上方ニ於テ別ニ長サ約五瓏米ノ破裂狀創ヲ負フ創内廣潤ニシテ長サ十三瓏米直徑七瓏米ノ「スタンション」大破片ヲ藏シ震盪ノ爲メ暫時ニシテ死亡セリ(病歴二六四號)

第五例砲丸ニ兩下腿ヲ挫斷セラレ且ツ一側ノ大腿部ニ大盲孔創ヲ負ヒ内ニ「ファンネル」ケーシングノ大破片三個ヲ藏シ震盪ノ爲メ暫時ニシテ死亡セリ(病歴二九〇號)

鐵片ニ因スル盲孔創及穿入創ノ十二傷ヲ同因ヨリ來ル諸創傷數總數六十二ニ對シ百分比例スルトキハ二〇・〇〇ニ當リ擣創ノ四一・六七「ベルセント」ニ比シ

テ半數ニ達セス擦過創ノ一六・六七「ベルセン」トニ比シテ僅ニ多キヲ見ル是レ已ニ論セシ如ク鐵片ハ速力ヲ賦與セラル、コト少ケレハ形體ノ大ナルモノハ重力多クシテ從テ勢力アルモ大形ナルカ爲メ侵徹ニ不利ニシテ形體ノ小ナルモノハ侵徹ニ稍利ナルモ重力少キカ爲メ從テ勢力少ケレハ孰レモ組織内ニ侵徹スルハ少レナリ是レ擣創ノ如キヲ生スルコト多ク穿入創ノ如キヲ生スルコト少レナル所以ナリ

前記第一例ハ鐵片斜走セル爲メ其創口ハ廣シトス而シテ創底肋軟骨ニ達スルモ之ニ損傷ナカリシト第二例ノ鐵片鎖骨ニ楔入セシモ之ヲ全斷スルニ至ラサルトハ孰レモ鐵片ノ勢力甚々弱キヲ證スルモノナリ此ノ他盲孔創及穿入創中第三例ヲ除クノ外骨ヲ折破スルカ如キ例ハ一モ之レナシトス是レ組織内ニ侵徹スルモノハ概シテ小片ナルカ爲メ勢力少キニ因スルナリ然レモ鐵片ニ因スル擣創ニ於テハ骨ヲ破碎スルモノ少カラストス是レ鐵片中形體大ニシテ重力多ク從テ勢力アルモノアリシカ爲メニ組織内ニ侵徹シ得サリシモ亦其形體大ナリシカ爲メナリ第三例ハ創孔其他ノ記載詳カナラサルヲ以テ之ヲ説明スルコト難キモ頭蓋底ヲ破碎セシモノナルヘケレハ鐵片ハ例

外ニ稍勢力アリシモノトセサルヘカラス而シテ其鐵片ハ烟突ノ破片ニシテ負傷者ハ當時其烟突ニ近接シ居リタルモノナレハ其勢力ハ尋常一樣ナラサルモノト看做スヲ得ヘシ又其深ク侵入シタルハ破片ノ形狀ニモ關係スル所アリシナルヘシ第四例ハ頗ル趣味アルモノニシテ右大腿ノ上部ニ長サ五珊米ノ破裂狀創ヲ存シ其創内ニ長徑十五珊米直徑七珊米ノ「スタシヨ」大破片(病歴ノ挿圖ヲ参照スヘシ)ヲ藏セシモノナリ抑鐵片ニ因スル盲孔創ノ入口ハ彈片ニ因スルモノト同シク軟組織ニ富ム部ニ於テ直角ニ穿タレタルニ於テハ其大サ通例鐵片ノ大サヨリ小ナルヘキハ勿論ニシテ鐵片ノ速力彈片ヨリ弱シトスレハ已ニ論セシ理由ニ因リ其創口ハ一層小ナラサルヘカラス即チ此ノ第四例ハ之ヲ證明シテ餘アルモノニシテ其創孔ニ比シ鐵片ノ巨大ナルハ其如何ニシテ侵入シ得タルヤヲ怪ムヘキ程ナリ其鐵片ハ皮面ヲ撃ツニ縱軸ヲ以テシタルヤ將タ橫軸ヲ以テシタルヤ知ルヘカラスト雖何レニスルモ其大サハ創口ニ比シテ甚シキ差アリ是レ皮膚ヲ破ルニ先チ非常ニ之ヲ壓陷伸展セシメタルモノナルヘシ若シ否ラサレハ其創孔鐵片ニ比シテ斯ノ如ク甚シク小ナルヲ得ス又其皮膚ノ非常ニ壓陷伸展セシメラレタルハ單ニ鐵

片ノ巨大ニシテ重力多キニ因スルノミナラス幾クカ近部ニ挫斷創ヲ受ケシニ關係スヘシ即チ本創ノ直下部ハ砲丸ニ全ク挫斷シ去ラレタルモノニシテ砲丸ノ速力ハ鐵片ヨリ大ナルヘキモノナレハ縱令其差ハ瞬間タルヘキモ負傷者ハ先砲丸ノ挫斷創ヲ受ケテ後チ鐵片ニ擊タレタルモノトスヘシ然レハ鐵片ノ皮面ヲ擊ツニ方リ其下方ニ於テ連絡ヲ斷タレタル諸組織ハ自由ニ移動シ得テ以テ皮膚ノ非常ニ壓陷セラレ、ヲ容シタルモノナルヘシ又挫斷創ノ如キハ孰レモ直チニ劇甚ノ震盪症ヲ起スヘキモノニシテ此ノ震盪ニ因スル筋ノ張力廢弛モ幾クカ關係スル所アリシナランモ知ルヘカラス畢竟以上ノ諸理由アルヲ以テ皮膚創口ノ大サト鐵片ノ大サトニ斯ノ如キ大差アルヲ致セシモノトスヘシ第五例モ亦之ニ類スル症ニシテ砲丸ニ兩下腿ヲ挫斷セラレ一側ノ大腿部ニ病歴ノ挿圖ニ見ルカ如キ「フアンチルケーシング」ノ大ナル破片三個ヲ藏セシモノナリ此ノ創孔モ亦鐵片ノ大サヨリ著シク小ナルモノナリシモ其長サ何珊米アリシヤ詳カナラス然レモ第四例ノ如ク其差異甚シカラスシテ急忙ノ際ナリシカ故其著明ナル第四例ヲ測度シ此ノ方ヲ畧セシモノナリト云ヘリ其受傷ノ事情ハ全ク第四例ト同様ナレモ鐵片ノ重量ハ

第四例ノモノヨリ大ニ少ケレハ皮膚ヲ壓陷伸展セシメタル度自ラ少カルヘク且ツ本創ノ直下部挫斷セラレタルニアラスシテ下腿部挫斷セラレタルモノナレハ皮下組織ノ抵抗ニモ差アルヘクシテ創口ト鐵片トノ大小ニ第四例ノ如キ大差ナカリシモノナラン其三個ノ鐵片ハ初メ一體ナリシモノニシテ創内ニ入ルニ及テ始メテ三個ニ分離セシモノナラン此ノ他鐵片盲孔創十二傷中一二軟組織ニ富メル部ニ生セシモノアルモ創口ト鐵片トノ大サニ於ケルノ差著シカラサルハ鐵片侵入ノ方向傾斜セルカ爲メニシテ創口ト鐵片トノ大サ畧同様ナリシモノナリ

(三) 木片ニ因スル盲孔創 合計五傷ニシテ負傷者數五名ナリ左ニ引例スルモノ、外ハ小木片ノ刺入創ニ過キサルモノナリ

第一例 敵彈甲板ヲ横ニ破壞シ去ルニ際シ其近傍ニ在リタルカ爲メ面部頸部手部ノ如キ裸露セル部ニハ細長ナル木片點々無數ニ刺入シ之ヲ形容スレハ其皮膚恰モ蠅ノ如クナリシモノニシテ且ツ顔部頸部及上下肢ニ鐵木片ニ因スル大小數個ノ擗創ヲ兼子負ヒタルモ化膿ニ至ラス二週間ヲ出スシテ全癒セリ(病歴九八號)

第二例 敵ノ三十珊米半ノ巨彈隣室ニ於テ爆發シタル際大木片飛來シ左側ノ薦腸關節間ニ楔入ス其創孔ハ長サ五珊米幅三珊米ニシテ創緣甚タ不正ニ挫裂シ創底ノ木片ハ極メテ堅ク關節間ニ楔

入シ之ヲ鉗出セント試ムルモ更ニ動カス其後兩下肢ハ癱瘓シ膀胱失禁シ來リ且ツ尿ニ血膿ヲ混
 ス入院後二回木片ヲ拔出センコトヲ試ミタルモ甚タ堅クシテ唯其一部分ヲ破碎シ拔出シ得タル
 ト破碎骨片ヲ摘出シタルニ過キズシテ下肢ノ癱瘓ハ増劇シ大小便ヲ自利シ膀胱加多兒ヲ起シ創
 内化膿シ體温ハ三十八九度ノ間ニ昇降シ衰弱ノ爲メ二週間ヲ經テ死亡ス(病歴一六七號)

木片ニ因スル盲孔創五傷ヲ同因ノ諸創傷總數五十八ニ對シ百分比例スルト
 キハ八・六二ニ當リ木片擣創ノ三九・六六「ベルセント」木片擦過創ノ二二・四一「ベ
 ルセント」及木片擣傷ノ二九・三一「ベルセント」ニ比シ大ニ少シ是レ已ニ述ヘタ
 ル如ク木片ノ飛散スルモノハ重力少ク速度乏シケレハ組織内ニ侵入スルノ
 カナキカ爲メナリ其偶之レアルモノハ細長ナル小楊枝ノ如キ木片ノ皮面ニ
 淺ク刺入セルモノニメ前記第一例ノ如キハ即チ其例ニ外ナラサルモ顔面頸
 部及手部ノ如キ裸露セル部ニハ非常ニ多數ノ刺入創アリシモノニメ唯其數
 ノ多カリシヲ以テ奇トスルニ足レリ第二例ハ頗ル破格ノモノニメ大ナル木
 片左薦腸關節部ニ極メテ堅ク楔入シ骨ヲ破碎シ且ツ馬尾神經ヲ傷害シタル
 モノナルヘク兩下肢ノ全癱瘓ヲ起シ膀胱肛門ノ麻痺ヲ來セリ其木片ハ頗ル
 強力ヲ以テ數回抽出センコトヲ試ミタルモノナレトモ楔入甚タ緊クシテ全
 部ヲ拔クヲ得ス唯其一部分ノ破碎サレタルモノ數片ヲ鉗出シ得タルニ止マ

リシ其木片ノ大サハ詳カナラスト雖モ直徑凡ソ五六珊米ノモノナリシカ如
 シ其斯ノ如ク骨間ニ堅ク箝入シタルヲ以テ見レハ勢力ノ弱カラサリシヲ知
 ルニ足レリ但シ木片ハ勢力概シテ弱シト雖モ每個其重量ニ差アルヘキハ勿
 論ニシテ其附與セララル、動力モ亦砲丸ノ勢力如何ニ準シテ差等アルヘキモ
 ノナレハ其前端縮少セル如キ形狀ヲナシ侵入ニ利アルモノニ於テハ間々這
 般ノ創傷ヲ生シ得ヘキコト敢テ怪ムニ足ラス

(四) 彈片ニ因スルヤ鐵片ニ因スルヤ不明ノ盲孔創 合計三傷アリ負傷者數
 モ三名トス之ヲ例擧スレハ左ノ如シ

第一例砲丸甲板上ノ鐵柱ニ中リテ破裂シ其破裂片ト鐵柱ノ破斷片并ヒ飛散シタル爲メ左胸側ト
 左下腿ニ盲孔創ヲ負フ左胸側ニ於テハ腋下線部ニ準シ第五第六肋骨ヲ破碎シテ出血甚タ多、略
 血ハ之レナクシテ肺ニ損傷ナキモノ、如シ彈片ハ如何ナルモノナリシヤ所在不明ナリ且ツ左下
 腿後面ノ中央部ト左踝關節外側トニ鐵片ノ遺存スル盲孔創ヲ兼ネ負ヘリ次テ體温ハ三十八度ニ
 昇リ左胸膜腔ニハ血液滲溜シ胸内壓迫ノ徵候著シクシテ遂ニ翌朝ニ至リ死亡ス(病歴一四三號)

第二例敵彈砲座ニ中リテ破裂シ其破裂片ト破斷鐵片飛散セシカ爲メ前頭左側ノ髮際ニ穿入創ヲ
 負ヒ且ツ右大腿上部ヲ挫斷セラレテ即死ス(病歴六五號)

第三例砲彈ノ砲柄ニ中リ破裂シタル際ニ負傷セルモノニシテ彈片ニ因スル盲孔創第十八例ノ左
 下腿ニ於ケル盲孔創ハ即チ爰ニ記入スヘキモノニメ其創内ヨリ出セシモノハ彈片ナルヤ將タ鐵

片ナルヤ實際不明ナルモノナリ

彈片ニ因スルヤ鐵片ニ因スルヤ不明ノ盲孔創ハ右ノ三傷ナリ第一例ノ左下腿後面ト左踝關節外側トニ於ケル創傷ハ鐵片ニ因セルコト明カナリシモ左胸側ニ於ケル創傷ハ彈片ニ因セルヤ將タ鐵片ニ因セルヤ詳カナラス而シテ第五及第六肋骨ヲ併セ破碎シタルモノニシテ出血ハ多カリシモ肺ヲ毀傷セシ指定徵候ナク亦異物ノ胸膜腔内ニ入りシ徵候モ不明ニシテ且ツ二肋骨併ヒ破碎セラレ原因物ノ小ナラサリシモノナルヘキ等ノ事情ヨリ推ストキハ彈片盲孔創ノ第十一例ト同シク原因物ノ全部侵入シタルニアラス唯其一部侵入シテ肋骨ヲ破碎セシニ止マリ自然ニ脱落シタルモノナラン病歴中皮膚創口ノ景狀ヲ記載シアラサルモ聞ク所ニ據レハ稍廣キ破裂狀創ナリシト云フ然レハ小片ノ飛下シ來リテ二肋骨ヲ上方ヨリ下方ニ向ヒ破碎シタルニアラサルハ知ルニ足レリ其翌日ニ至リ死亡セシハ出血ノ爲メナルカ如シ依テ更ニ次章ニ於テ論スル所アルヘシ第二例ノ右大腿上部ノ挫斷例ハ彈片ニ因セシモノトスヘキモ前頭部ノ傷例ニ至リテハ彈片ニ因セシヤ鐵片ニ因セシヤ明言シ難シ果シテ頭蓋内ニ穿入シタルモノナランニハ其勢力ヨリシテ

彈片ナリシト想像セラル、モ其果シテ穿入創ナリシヤ否モ亦不明ナリトス此ノ者ノ負ヘル創傷ハ兩創共ニ危篤ノ創傷ナレハ其即死セシハ當然ナリ第三例ハ已ニ彈片ノ部ニ於テ論シタルモノナリ

(五) 蕎麥殼ニ因スル盲孔創一傷アリ即チ左ノ如シ

敵ノ巨彈下甲板ニ破裂シ爆發瓦斯彈片及諸他ノ破碎片其天窓ヨリ噴出スル際其近部ニ在リ右前膊中部ノ後面ニ徑三珊米ノ不正圓形盲孔創ヲ負ヒ深サ三珊米ニシテ創底異物ヲ存スルニ由リ之ヲ摘出セシニ六七個ノ蕎麥殼ヲ出セリ其創孔ハ七週間ニシテ治ス(病歴二二一號)

右ハ創内ヨリ蕎麥殼ヲ出セシヲ以テ之ニ因スルモノトセシモ其創孔ハ徑三珊米ノ不正圓形ニシテ深サ三珊米アリシナレハ蕎麥殼ノ飛散ニ因テ斯ノ如キ創孔ヲ造リ得ヘシトハ信セラレズ其蕎麥殼ハ枕ノ内容物トシテ使用セラレアリテ彈片ニ飛散セシメラレタルモノナレハ如何ニ密集シテ飛散シタリトスルモ斯ノ如ク唯一個ノ大創ヲ生シ得ヘキ理ナシ然レハ彈片若クハ鐵木片ニ附隨シテ飛行シ共ニ組織内ニ入りシモ彈片若クハ鐵木片ハ全部侵入シ得サリシカ爲メ自然ニ脱落シ去リ蕎麥殼ノミヲ遺セシモノナラン

(六) 小銃丸ニ因スルモノ一傷アリ是レ銃丸ニ因セルヤ或ハ俄砲彈ニ因セルヤ實際不明ノモノニシテ僅ニ皮膚ヲ穿チ小盲孔創ヲ生セシモノナリ

盲孔創及穿入創ハ前記ノ如クニシテ合計七十九傷アリ其内砲彈ノ破片ニ因

スルモノ五十七傷鐵片ニ因スルモノ十二傷木片ニ因スルモノ五傷彈片ニ因スルヤ鐵片ニ因スルヤ不明ノモノ三傷小銃丸ニ因スルモノト創内ニ蕎麥殼ヲ留メシモノ各一傷アリ諸創傷總數六百二十九ニ對シ百分比例スルトキハ一二五六ニ當リ之ヲ擣創ニ比スレハ其數遙ニ少シト雖モ擣創ヲ除ケハ諸創類中最多數ヲ占ム是砲創ノ銃創ト趣ヲ異ニスル所ニシテ銃丸ハ其速力ト云ヒ其形狀ト云ヒ物體ヲ侵徹スルニ利ナルガ故ニ大抵ハ貫通創ヲ生スヘキモ砲創ニ於テハ之ヲ生スル鐵木片ハ勿論彈片ト雖モ形狀甚タ不整ニシテ速力強カラサレハ物體ノ侵徹ニ不利ニシテ其形體ノ大ナルカ爲メ重力多ク從テ勢力著シキモノハ挫斷創ノ如キヲ生シ形體其次ニ位シ勢力強カラサルモノハ專ラ擣創若ハ擣傷ヲ生シ形體小ニシテ速力稍著シキモノ若クハ前端尖銳ニシテ侵徹ニ利アル形狀ヲ有スルモノニ至テ始メテ組織内ニ侵入スルモ尙ホ勢力ノ足ラサルト形狀ノ利ナラサルトハ抵抗著シキ組織ニ撞着スルニ至レハ多クハ停止シテ即チ盲孔創若ハ穿入創ヲ生シ貫通創ノ如キハ偶之ヲ生スルコトアルモ自ラ少ナリトス然レモ其擣創ヲ生スルト盲孔創ヲ生スルト貫通創ヲ生スルトノ差別ハ強之ヲ生スル物體ノ速力大小及形狀ノミニ關係

スルモノニ非スシテ被擊部ノ景況如何ニモ亦關係スルモノトス大腿ノ如キ軟組織ニ富ム部腹壁ノ如キ軟臟器ヲ被フ部ノ如キ侵徹シ易キ部ニ在テハ擣創ヲ生スヘキ形體及勢力ノモノモ盲孔創若クハ貫通創ヲ生スルニ至ルコトアルヘシ然ルニ頭蓋部ノ如キ侵徹シ易カラサル部ノ穿入創九例アルハ其數他部ノ同創ニ比較シ多クシテ前ノ理論ニ反スルカ如キ觀アレモ已ニ述ヘシカ如ク九例共果シテ穿入創ナリシヤ否疑ハシキノミナラス其負傷シタル場所ハ孰レモ砲丸ノ破裂點ニ近接シ居タル事實アレハ小彈片ト雖モ其勢力弱カラサルモノニ觸レタルモノト看做スヲ得ヘクシテ假令盡ク穿入創トスルモ敢テ怪ムヲ要セス又病歷中盲孔創トシ創孔深カリシモ彈片ノ有無ヲ明記セサルモノ數症アリ是レ彈片ヲ抽出シタルモ其記載ヲ脱セシモノナルカ或ハ彈片伏在セシモノ之ヲ發見セスシテ治癒シタルモノナルカ或ハ創況盲孔創ニ類セシモ實際然ラスシテ擣裂創ナリシモノナルカ調査セシモノ之ヲ確定スルヲ得サリキ已ニ記シタルコトアルカ如ク皮下軟組織ニ乏キ部ニ於テハ彈片侵入スルモ僅ニシテ停止シ自ラ脱去セリト認定スヘキモノアレトモ其創孔深クシテ彈片ノ存セサルハ眞ノ盲孔創ニハアルヘカラストス

第五 貫通創

(一) 砲彈全體ノ命中ニ因スル貫通創一例アリ即チ軍艦赤城ノ前檣樓上ニ在テ腰部ヨリ腹部ヲ貫通セラレ腰椎ヲ破碎シ大動脈ヲ破リシ爲メ即死セシモノニシテ(病歴一七一號)同艦軍醫長ノ報告ニ據レハ四十七密米許ノ輕砲彈ニ撃タレシモノナラント云ヘリ然レモ同所ニ在テ同時ニ負傷セシ者病歴二三五號)ハ砲彈ノ破裂片ニ撃タレタルモノ、如シ即チ其手部創傷ノ周圍ニ火藥末ノ點々滲入シアリタルハ疑フヘキ點ニシテ砲彈近部ニ來テ破裂シタルニアラサレハ斯ノ如ク火藥ノ滲入アルヘカラス又砲彈近部ニ於テ破裂シタリトスルモ炸藥ハ廣ク飛散スヘキニ由リ手部ノ創傷圍ノミニ局シテ火藥ノ滲入セルハ怪ムヘキコトニシテ顔面其他ノ裸露部ニモ亦火藥ノ滲入シアルカ或ハ火傷ノ如キヲ起スヘキ理ナレトモ否ヲスシテ事實前記ノ如クナルモノナレハ身體諸部ハ他物ニ掩護セラレ手部ノミ炸藥五斯ノ飛來スル方面ニ曝露シアリタルモノトスルノ外ナケン而シテ手部創傷ノ外他部ニ處々擦過創ヲ兼テ負ヒタルヲ以テ見レハ近部ニ於テ破裂シタル彈片ニ撃タレタルモノナルヘク肢體ノ掩護セラレタリト思ハル、部ニ於ケル創傷ハ他物ニ觸レテ反跳

落下セシ彈片ニ因スルモノナルヘシ夫レ然リ然レハ腹部貫通傷者モ亦破裂彈片ノ稍大ナルモノニ因セルニアラサルヤノ疑ナキ能ハス其四十七密米許ノ砲彈ニ因ストセルハ唯創孔ノ大サヨリ推想シタルニ過キサルナリ

(二) 彈片ニ因スル貫通創 合計三十三傷アリ負傷者數ハ三十名トス其内稍趣味アル症ヲ摘録スレハ左ノ如シ

第一例 拇指球部ニ貫通創ヲ受ケ其掌面ニ徑凡ソ二珊米ノ圓形射入口アリ第二掌骨ノ橈骨側ヲ走リ背面ニ出ツ其出口ハ稍大ニシテ破裂狀ヲナセリ又兩前膊ニ火傷ヲ兼ネ負フ(病歴二二七號)

第二例 右下腿ニ大貫通創ヲ負フ即チ下腿内側ノ上部ニ長徑十五珊米ノ不整橢圓形ノ大入口アリテ同下腿中央ノ後面ニ長徑七珊米幅四珊米ノ星芒狀出口アリ(病歴ノ插圖參觀)後徐々ニ癒合機能振興シ五ヶ月ニシテ全ク癒合セシモ癩痕結成ノ爲メ少ク血流ヲ障礙シ足部浮腫スルノ傾キアリ依テ摩擦及浴治法等ヲ行ヒ一ヶ月ヲ經テ全治シ兵役ニ服ス(病歴二八二號)

第三例 右胸前面第四肋骨部ヲ穿タレ肋骨ヲ破碎シ背部ニ貫通シ大出血ヲ起シ且ツ頭部顔面ニ火傷ヲ兼ネ負ヒ即死セリ創口ノ大サハ不明ナリ(病歴一四八號)

第四例 左胸前面ヨリ右側背面ニ貫通スル大創ヲ負ヒ且ツ左大腿中部ノ内側ヨリ後側ニ貫通創ト顔面及頸部ニ火傷トヲ兼ネ負ヒ即死セリ貫通創ノ大サ不明ナリ(病歴一五一號)

第五例 右大腿上三分ノ一部ニ於テ前面ヨリ内後方ニ向フ貫通創ヲ負ヒ大腿骨ヲ破碎セラレ出血多シ入口ハ徑三珊米ノ不正方形ヲナシ出口ハ其徑三珊米ニ足ラサル單ノ破裂狀ヲナセリ且ツ右肩胛部ニ長サ四珊米ノ撕裂創ヲ兼ネ負ヒ即死ス(病歴二六〇號)

第六例右胸前面ヨリ背面ニ貫通スル大創ヲ負ヒ且ツ左上膊中部ニモ同創ヲ兼ネ負ヒ即死ス創口ノ大サ不明ナリ(病歴一四九號)

第七例喉頭部甲状軟骨ノ右側ヨリ頂部第二頸椎部ニ出ル貫通創ヲ負ヒ且ツ左眼球小彈片ニ撃タレタルモノ、如ク角膜及鞏膜破壊シ眼内容物脱出セリ頸動脈ハ損傷セラレサルモ出血ハ頗ル多シ初メ精神ハ正確ニシテ震盪症狀ナシ然レモ暫クニシテ體温昇騰スルヲ認メ惡心嘔吐ヲ催シ嗜眠狀トナリ遂ニ昏睡ニ陥リ受傷後一時間餘ニシテ死亡ス(病歴一二八號)

第八例右鎖骨外端部ヨリ右肩胛部ニ貫通創ヲ負ヒ兼ネテ右大腿上部ノ前側ニ盲孔創ト左下腿内側ニ三個ノ擦過創ヲ負フ鎖骨部貫通創ノ入口ハ拇指頭大ニシテ橢圓形ヲナシ出口ハ之レヨリ小ニシテ不正ノ破裂狀ヲナセリ鎖骨外端破碎セラル創内ヲ探リ長サ凡ソ三珊米ノ遊離骨片五個ヲ抽出ス其創孔ハ三ヶ月ニシテ癒合セルモ筋肉瘦削シ把握力消乏シ加療スルモ全快セサルニ由リ遂ニ除籍セラル(病歴一九三號)

第九例右胸前面ヨリ第三肋骨ヲ破碎シ左背面ニ貫通スル大創ヲ負ヒ即死ス創孔ノ大サ不明ナリ(病歴一四七號)

第十例兩側ノ上膊部ニ骨折ヲ兼ヌル貫通創ヲ負ヒ且ツ左胸側ノ穿入創肩胛間部ノ盲孔創及背部ト大腿部等ニ數個ノ擦過創ヲ兼ネ負ヘリ右上膊ノ貫通創ハ上膊ノ中部ニ於テ後面ヨリ前面ニ貫通セルモノニシテ骨ヲ破碎シ入口ハ長サ凡ソ二珊米半ニシテ破裂狀ヲナセトモ中部失肉シ出口モ亦殆ト同長ノ破裂狀ヲナセリ左上膊ノモノハ上膊下三分ノ一部ニ於テ同シク後面ヨリ前面ニ通シ出入口共ニ破裂狀ヲナセモ右側ノモノヨリ稍狭小ナリ骨ヲ破碎セシハ同様ニシテ兩創共ニ骨ノ前方ニ於ケル創孔ハ軟組織廣ク破壊セラレ細小骨片ノ多數筋肉中ニ滲入スルヲ認メタリ上膊

動脈ハ損傷セラレヌ爾後兩創共ニ化膿シ時々膿ト共ニ砂粒狀ノ骨屑ヲ排出シ右側ニ於テハ筋螺旋神經ノ分布部ニ運動及知覺麻痺ヲ起ス後六ヶ月ヲ經テ左側ノ創孔先ツ治癒シ次テ右側ノ創孔モ治セリ然レモ筋螺旋神經ノ麻痺ハ依然トシテ存シ筋肉瘦削シ手部ノ把握力全ク失シ種々加療スルモ遂ニ恢復セス在院十五ヶ月ニシテ免役セラル(病歴二〇九號)

第十一例左胸側面ヨリ肋骨ヲ破碎シ腹壁右側ニ貫通スル大創ヲ負ヒ即死ス創孔ノ大サ不明ナリ(病歴一四五號)

第十二例腰部ヨリ腹部ニ大貫通創ヲ負ヒ腰椎破壊セラレ且ツ右大腿中央部ニ骨折大擣創ヲ負ヒ即死ス(病歴一七四號)

第十三例右前膊下端ニ挫斷創ヲ負ヒ治療室ニ來テ受療中敵ノ巨彈同室ニ來テ破裂シ右大腿ニ大貫通創ヲ負フ即チ腸骨前上棘下十五珊米ノ部ニ於テ縱徑十三珊米横徑八珊米ノ不正方形ノ入口アリ出口ハ是ヨリ後下方ニ四珊米ヲ隔テ、存シ形狀殆ト同様ニシテ僅ニ小ナリ兩創口間ニハ唯皮橋ヲ架スルノミ創縁ノ皮膚ハ甚タ不整ニ挫裂セラレ創内軟組織ハ廣ク崩壞シ筋鞘ハ長短不同ニ斷裂シ大腿骨ハ大轉子下ニ於テ破碎セラレ多數ノ小骨片肉泥中ニ混スルヲ認ム又右腰部腎部左右大腿及左膝蓋部ニ火傷ヲ蒙ル後チ兩創口間ノ皮橋及他ノ創圍組織ハ壞疽ニ陥リ膿ハ大腿骨膜下ニ滲溜シ囊狀ヲナシ體温昇騰シテ外傷性譫妄ノ症狀ヲ呈スルニ由リ入院十日後大腿上部ヨリ截斷術ヲ行ヒシニ手術後間モナク死亡セリ(病歴二六一號)

第十四例下腹部ヨリ腰部ニ互リ貫通創ヲ負ヒ即死ス創孔ノ大サ不明ナリ(病歴一六九號)

第十五例前者ト同時ニ下腹部ニ貫通創ヲ負ヒ即死ス創孔ノ大サ不明ナリ(病歴一七〇號)

第十六例左手背拇指掌骨ノ尺骨側ヨリ第二第三及第四掌骨ヲ破碎シ第五掌骨ノ橈骨側ニ出ル貫

通創ヲ負ヒ其入口ハ徑三珊米ノ不正星芒狀ヲナスモノニシテ出口ハ長サ殆ト三珊米ノ破裂狀創ヲナスモノナリ出血多キモ線狀ニ迸出スルヲ見ス又後頭部左臀部等ニ擗創ヲ兼ネ負ヘリ爾後手
部ノ創孔ハ化膿シ骨ハ不整ニ破碎セルヲ以テ手術シテ甚シク破碎セルモノハ上下關節ヨリ離斷
シ否ラサルモノハ斷端ヲ鋸斷シ創内ノ不良肉芽ヲ搔去セシニ受傷後八十日ニシテ治癒セシモ已
ニ掌骨ヲ失フヲ以テ免役セラレ(病歴二二八號)

第十七例右大腿上三分ノ一部ノ内後側ニ貫通創ヲ負ヒ其入口ハ徑十二珊米ノ不正圓形ヲナシ出
口ハ入口ノ後下方ニ在テ長サ四.五珊米ノ不正方形ヲナシ筋及其他ノ組織外翻シ創縁甚タ不整ニ
挫裂セラレ、ヲ見ル出血ハ著シカラズ此ノ他腹部ニ擦過創ヲ兼ネ負フ次テ大腿部ノ創口ハ化膿
シ創圍組織ハ腐死シテ白色ヲ呈シ在院五ヶ月餘ニシテ全治ス(病歴二五六號)

第十八例右肩胛骨棘下部ノ中央ヨリ横ニ脊梁部ヲ超エテ左方ニ走ル長サ十八珊米幅三珊米深サ
一.五珊米ノ溝狀創アリ末端皮下ニ沒シテ貫通創トナリ凡ソ三珊米ヲ隔テ、左肩峯突起下ニ出ツ
骨傷ナシ其出口ハ徑五珊米許ノ不正圓形創ニシテ創縁ハ不同ニ挫裂セラレ入口ニ當ル溝狀創部
ノ創底ハ恰モ削去セルカ如ク清潔ニシテ出血多シ又頸部右側ノ中央ヨリ前方ニ向フ小盲孔創ヲ
兼ネ負ヘリ入院四ヶ月餘ニシテ全治ス(病歴一四二號)

第十九例腰部ニ貫通創ヲ負ヒ腰椎ヲ破碎セラレ且ツ背部ニ數個ノ小盲孔創ヲ兼テ負ヒ即死ス創
孔ノ大サ不明ナリ(病歴一七二號)

第二十例後頭外結節部ヨリ前頭眉間ニ貫通創ヲ負ヒ即死ス創口ノ大サ不明ナリ(病歴六七號)

第二十一例上膊最上部ニ貫通創ヲ負フ入口ハ前面ニ在テ徑五珊米ノ橢圓形失肉創ヲナシ創圍大
ニ挫傷セラレテ紫藍色ヲ呈シ三角筋ヲ斷裂シ後外側ニ出ツ其出口ハ破裂狀ニシテ其徑入口ヨリ

稍狭ク筋ノ斷纖維露出スルヲ認ム又左上顎骨下眼窩緣下部ニ徑一珊米ノ圓形盲孔創ヲ負ヒ網膜
出血ヲ來シ且ツ左前膊ニ擗創ヲ負フ入院三ヶ月餘ニシテ諸創傷治セシモ左眼ノ視力欲乏ヲ貽シ
免役セラレ(病歴一〇三號)

第二十二例左肘關節ノ少シク上部ニ於テ外側ヨリ内側ニ向フ貫通創ヲ負フ入口ハ縱徑六珊米横
徑四.六珊米ノ不正形失肉創ニシテ出口ハ長サ二.七珊米ノ破裂狀創ヲナセリ但シ本創ハ左胸側第八
肋骨部ヨリ腹腔ニ互ル穿入創穿入創ノ第二十例ニ併發セルモノニシテ此ノ穿入創ノ爲メ受傷十
日後死亡セリ其貫通創ト穿入創トハ同一ノ彈片ニ因セルヤ否詳カナラスト雖モ創口ノ位置及大
サヨリ推ストキハ一彈片ニ因セシモノ、如シ(病歴一六二號)

第二十三例左腸骨背部ヨリ右鼠蹊部ニ互ル貫通創ヲ負フ入口ハ長徑約六珊米ノ破裂狀創ニシテ
大ニ腸骨ヲ破碎シ内臟ヲ傷ケ右鼠蹊部フーパール靱帶上ニ出テ爰ニ長サ約八珊米ノ創孔ヲ生シ
腸ヲ脱出セリ腹内ニハ數個ノ骨片アリ就中腸骨櫛ノ碎片長サ九珊米ノモノヲ最モ大ナリトス而
ノ精神確實ニシテ毫モ震盪症狀ナシ頻リニ腹部ノ劇痛ヲ訴ヘ轉腰反側シテ冷汗淋漓タリ又尿意
ヲ催セモ尿道ナクカテーテルヲ挿入セシニ血液ヲ出スノミニシテ膀胱モ毀傷セラレタルヲ知ル
受傷後八時間ノ後遂ニ死亡ス(病歴一七三號)

第二十四例艦橋上ニ起立ノ際腹部ニ貫通創ヲ負ヒ海中ニ墜落シテ即死ス(病歴一六八號)

第二十五例右大腿下三分ノ一部ノ後面ニ於テ外側ヨリ内側ニ向フ貫通創ヲ負フ入口ハ基底三.六
珊米邊緣各二珊米ノ不正三角形ヲナシ出口ハ小破裂ニシテ病歴ノ挿圖ニ見ルカ如ク彈片ノ前頭
挺出セルヲ見ル截開シテ内部ヲ檢シ病歴ノ挿圖ニ見ルカ如キ彈片二個ヲ得タリ此ノ他右胸部ニ
擗傷ヲ兼ネ負フ入院三ヶ月ニシテ全治ス(病歴二五七號)

第二十六例鹿角嘴砲臺ニアリシモノニ名胸部ノ貫通創ヲ負ヒ即死ス創孔ノ大サ不明ナリ(病歴一四六號一五一號)

彈片ニ因スル貫通創ハ三十三傷ニシテ之ヲ同因ヨリ來ル創傷總數二百八十九傷ニ對シ百分比例スルトキハ一一・四二ヲ占ムルニ過キスシテ擣創ノ三三・五六盲孔創ノ一九・七二擦過創ノ一六・二六ニ比シテ其數ノ少キハ已ニ論セシコトアルカ如ク砲創ニ於テ創傷ノ原因トナルコト最モ多キモノハ彈片ニシテ彈片ハ其形狀不整ニシテ粗糲ナル平面ヲ有シ侵徹ニ不利ナルノミナラス其大小常ニ甚シキ差アルモノナレハ其大ナル者ハ重力ノ爲メ勢力アリトスルモ侵徹ニハ増不利ニシテ其勢力強キモノハ挫斷創ノ如キヲ生シ否ラサルモノハ擣創擣傷若ハ擦過創ノ如キヲ生スルヲ例トシ貫通創ヲ生スルハ極メテ少レナルナリ又其小ナルモノハ組織内ニ侵入シ易シトスルモ其勢力足ラサレハ大抵盲孔創ヲ生スルニ止マリ貫通創ヲ生スルハ少カルヘキナリ然レハ貫通創ヲ生スルハ多クハ中等大ノモノトスヘシ即チ前記諸例ニ徵スルニ創孔ノ最モ少ナルモノヲ拇指頭大トシ大ナルモノハ第二例ノ如キ第十三例ノ如キ第十七例ノ如キ將々第十八例ノ如キ著シキモノアリトス又彈片ハ組織内

侵徹ニ不利ナルト同一理ヲ以テ空中飛行中モ尙ホ空氣ノ排開不便ニシテ其抵抗ヲ受クルコト強ケレハ其附與セラレタル速度ヲ失却スルコト銃丸ニ比スレハ固トヨリ砲丸自體ニ比スルモ尙ホ甚タ速ナルモノニシテ距離少ク隔タレハ速度著シク減少スルモノナリ而シテ速度ノ勢力ニ及ホス關係ハ極メテ重大ナルモノニシテ一ノ速度アルモノヲ倍シテ二ノ速度トナストキハ四倍ノ勢力ヲ得又三ノ速度トナストキハ九倍ノ勢力ヲ得ルモノナレハ砲彈破裂點ノ近接部ニ於テハ彈片ノ勢力強猛ナリトスルモ距離少ク隔タルニ於テハ其勢力著シク弱カルヘキ理ニシテ負傷者ノ位置破裂點ニ近接シタルト否ラサルトニ從ヒ其生スル創類ニ差アルヲ免レスシテ若シ砲彈最近部ニ於テ破裂シタル際ニハ粉壘創ニ非サレハ挫斷創挫斷創ニ非サレハ貫通創ノ如キヲ生スヘキモ距離少ク隔タルニ於テハ通例否ラシテ他種ノ創傷ヲ生ス然レハ彈片創傷中貫通創多カラサルハ其理ナリ夫レ然リ而シテ今回ノ戰役ニ於テ貫通創ヲ生セシモノハ專ラ彈片ニシテ貫通創總數三十八傷中三十三傷ハ彈片ニ因スルモノニシテ之ヲ百分比例スレハ八六・八四ヲ占メ他ノ原因ヲ以テ生セシ貫通創ハ僅ニ五傷アルニ過キスシテ其一傷ハ砲丸自體ニ因シ一傷ハ

小銃丸ニ因シ三傷ハ鐵片ニ因スルモノナリ而シテ砲丸自體ニ因スルモノハ
 已ニ記セシ如ク彈片ニ因シタルモノナランカノ疑アルモノトス鐵片ニ因セ
 ル三傷中一傷モ亦彈片ニ因スルモノナラント思考セラル、モノナリ若シ之
 ヲ彈片ニ因セシモノト看做ストキハ九二・一一「ベルセント」ヲ占ムルニ至ル夫
 ノ鐵片ノ如キ僅ニ二三傷ヲ出スニ止マリ木片ニ至テハ其一傷ダモ出サ、ル
 ハ其勢力弱キカ爲メニシテ當ニ然ルヘキ所トス
 貫通創ニ於ケル出入口ノ大サハ入口大ニシテ出口小ナルヲ例トス即チ先記
 創例ノ第二第五第八第十六第十七第二十一第二十二及第二十五等ニ就テ之
 ヲ證スヘシ而シテ入口ハ出口ニ比シ大ナリト雖モ已ニ論セシカ如ク彈片ノ
 形狀ハ不整ニシテ侵徹ニ不利ナルト速力強大ナラサルカ爲メ腹部大腿部ノ
 如キニ於テ其入口ヲ造ルニ當テハ皮膚ハ彈力ノ爲メ先ツ伸展シ伸展ノ容サ
 レサルニ至リ始メテ破開スルハ盲孔創ヲ生スルニ於ケルト同様ニシテ其破
 開孔ハ皮膚伸展ノ度ニ應シ彈片ヨリ多少小ナルコト少カラズ然レモ理論上
 貫通創ヲ生スル彈片ハ盲孔創ヲ生スルモノヨリ其勢力強キカ然ラサレハ其
 形狀幾クカ侵徹ニ利アル者ナルヘキヲ以テ皮膚ノ伸展ヲ容ルスノ猶豫自ラ

少カルヘケレハ軟組織ニ富メル部ノ貫通創入口ノ大サト彈片ノ大サトニ於
 ケル差ハ同様ノ部ニ於ケル盲孔創入口ノ大サト彈片ノ大サトニ於ケル差ヨ
 リ少カルヘキモノナリ然ルモ貫通創ヲ生セシ彈片ヲ取り其大サヲ測知シ得
 タルハ一例モ是レナケレハ實地ニ此ノ關係如何ヲ表明スルヲ得ス第二十五
 例ニ於テハ彈片皮外ニ全脱セサリシニ依リ保存スルヲ得テ其大サヲ知ルモ
 後ニ論スルカ如ク二個ノ彈片アリシヲ以テ此ノ關係ヲ判斷スルニ無用ナリ
 唯第二十二例ハ後ニ論スル如ク此ノ關係ニ就キ聊カ趣味アルモノトス又貫
 通創ノ出口ヲ造ルニ當テハ彈片ハ組織ヲ穿破スルカ爲メ已ニ其動力ノ幾部
 分ヲ減殺セルト皮膚ハ外方ニ於テ之ヲ支撐スルモノナキトニ依リ大ニ伸展
 スルノ猶豫ヲ得ルカ故ニ其破開口ハ著シク小ナルノミナラス多クハ單純ノ
 破裂狀ヲナシ且ツ皮膚ハ筋鞘ヨリ廣ク剝離スルコト多シ第二例ノ如キ第十
 七例ノ如キ將々第二十二例ノ如キ其出入口ノ大サ相懸隔スルコト最モ著シ
 キモノナリ而シテ第二例ノ入口大ナルコト長徑十五珊米ニ及ヒ第十七例ノ
 入口大ナルコト長徑十二珊米ニ及フハ抑之ヲ生セシ彈片ノ小ナラサリシニ
 因スルコト勿論ナレモ其斯ノ如ク長キハ彈片飛來ノ方向上方ヨリ下方ニ傾

斜シタルニ幾クカ關係スヘシ其出口ノ入口ニ比シ著シク小ナルニ拘ラス單
 ノ破裂狀ヲナサスシテ不正方形若ハ星芒狀ヲナセシハ彈片ノ形體小ナラス
 皮膚ハ其廣キ面ニ衝カレ伸展シタルモ尙ホ其失肉ヲ免レサリシモノナルヘ
 シ又之ニ反シ第十例及第二十三例ノ如ク出入口共ニ破裂狀ヲナスモノアリ
 是レ彈片ノ狹長面ニ擊タレタルモノトスヘシ勢力弱キ彈片ニシテ大ニ皮膚
 ヲ壓陷スルトキハ強チ彈片ノ形狀ニ關セスシテ入口ノ破裂狀ヲナスコトア
 ルモ第十例第二十三例共ニ骨ヲ破碎シ去リタルモノナレハ彈片ノ勢力ハ甚
 タ弱カラサリシヲ知ルニ足ル又出入口共ニ殆ト同大同形ナルモノアリ即チ
 第十例及第十三例ハ其類例ニシテ共ニ骨ヲ破碎セシモノナレハ從テ軟組織
 モ破壊ヒラレタルコト多カルヘク然レハ彈片ト共ニ硬軟組織ノ斷片幾部分
 カ皮外ニ飛出スヘキヲ以テ出口小ナラサリシナラン斯ノ如キ骨ヲ破碎スル
 貫通創ニ於テハ出口ノ單ニ小ナラサルニ止マラス反テ入口ヨリ大ナルコト
 アルモ亦怪ムニ足ラス抑銃創ニ於テ骨ヲ貫通セシトキ出口ノ入口ヨリ著シ
 ク大ナルコト多キハ吾人ノ能ク知ル所ニシテ彈片創ニ於テモ亦斯ノ如キコ
 トアルヘキハ理ノ當然ナリ第二十三例ノ如キ即チ是レニシテ其出口ノ入口

ヨリ大ナルハ甚シク骨ヲ破碎セルカ爲メ骨片ノ彈片ト共ニ飛出セシモノア
 ルニ因ルヘシ而シテ創例ノ第一ハ前記ノ諸理由ニ適ハサルモノニシテ其入
 口ハ徑二珊米ノ圓形ヲナシ出口ハ稍大ニシテ破裂狀ヲナストアリ其部位ハ
 拇指球部ヨリ手背ニ出テ骨ヲ毀傷セサルモノナレハ例ニ依リ出口ノ破裂線
 徑ハ入口ノ圓孔徑ヨリ稍小ナルヘキナレハ其反對ニシテ稍大ナルハ異例ト
 スヘシ若シ其創徑記載ノ如クニシテ誤リナキモノトセハ蓋シ彈片入口ヲ造
 リシ後飛行軸ヲ變轉シ出口ヲ造ルニ當テハ最初ヨリ長キ面ヲ以テ皮膚ヲ破
 リシモノトスルカ或ハ彈片ノ速力強大ナリシモノトスルノ外ナカラン夫ノ
 圓柱圓錐形小銃丸ノ中等以上ノ速力ヲ有スルモノニシテ貫通創ヲ生スルト
 キハ其入口ハ概テ圓形ヲナシテ其直徑銃丸ノ直徑ヨリ僅ニ小サク出口ハ單
 ニ破裂線ヲナシ其徑入口ノ直徑ヨリ稍長キモノニシテ正ニ第一例ノ出入口
 ノ如クナルコト多キモノナレハ彈片ニ於テモ其速力強ケレハ斯ノ如キコト
 アルコト自然ニシテ敢テ怪ムニ足ラス唯彈片ノ速力ハ斯ノ如ク強キコト稀
 レナリトスルノミ

第十八例モ亦入口ノ長サ十八珊米幅三珊米深サ一・五珊米ニシテ初メ溝狀創

形ヲナシ後貫通創トナリ其出口ハ徑五珊米ノ不正圓形ヲナスモノニシテ其入口ノ長キハ彈片穿入創第十一例等ニ似テ彈片ノ方向殆ト破擊部ト平行ニシテ初メハ溝狀創ヲ生セシモノナレハ奇トスヘカラサルモ貫通創トナリ肩胛骨ヲ毀傷セスシテ出口徑五珊米ノ圓形ヲナセルハ頗ル過大ナルヲ怪ムヘキニ似タリ是レ或ハ出口ニ非スシテ入口ナリシニ非サルヤノ疑ヒ生スルモ此ノ負傷者ハ頸部ニ盲孔創ヲ兼子負ヘルモノニシテ其盲孔創ノ彈片ハ右側ヨリ穿入シタルモノナルヲ以テ見レハ彈片ノ右方ヨリ來ル位置ニ立チシコト明カナルノミナラス前記ノ溝狀創ヲ出口部ニアルモノトスルハ尙ホ怪ムヘキモノナリ何トナレハ彈片ノ出口ヲ造ルニ當リ長キ溝狀創ヲ生スルカ如キ殆ト平行ノ角度ヲ以テ皮下ヲ衝クニ於テハ之ヲ破ルコト極メテ難クシテ斯ノ如キ際ハ皮下ヲ進行スルヲ常例トスレハナリ然レハ其出口ノ大ナリシハ如何是レ固ト彈片ノ小ナラサリシニ因ルヘシト雖モ其骨ヲ傷ケサルヲ以テ見レハ其甚々大ナルモノナラサリシハ推シテ知ルヘケレハ唯其勢力ノ弱カラサリシト且ツ肩峯突起下ハ傾斜面ヲナスカ故ニ盲孔創及貫通創ノ入口ニ於テ彈片ノ斜メニ來テ皮膚ヲ穿チタルハ其口徑大ナルト均シク彈片ノ

斜ニ射出セシカ爲メ比例的大ナル創孔ヲ造リシモノト見ルノ外ナランカ又骨傷ヲ兼ヌル貫通創ナルモ其出口ハ例ノ如ク入口ヨリ小ナルモノアリ第八例及第十六例是ナリ是レ骨ハ破碎セラレタルモ骨片彈片ト共ニ皮外ニ出テサリシモノトスレハ異トスヘキ所ナシ而シテ第二十二例ハ左肘關節ノ少ク上部ヲ外側ヨリ内側ニ貫通セラレ左胸側第八肋骨部ニ穿入創ヲ負ヘルモノナリ其實通創ヲ生セシ彈片ト穿入創ヲ生セシ彈片トハ同一ノモノナリシヤ否之ヲ證明シ難シト雖、上肢ハ通例胸側ニ垂ル、モノニシテ其通例ノ位置ヲ保チシ際負傷シタルモノトスルハ創口ノ位置相符合シテ一彈片ニ因スルモノト察セラル若シ果シテ一彈片ニ因スルモノトスルハ貫通創ヲ生スルカ如キ際ト穿入創ヲ生スルカ如キ際トハ彈片ノ勢力ニ差アリテ其生スル入口ニ大小ノ差アル程度ノ一斑ヲ示スモノトスヘシ即チ最初ニ生セシ貫通創ノ入口ハ長六珊米幅四六珊米ノ不正橢圓形ノモノニシテ其出口ハ二七珊米ノ破裂狀ヲナシ穿入創ノ入口ハ長三珊米ノ失肉哆開創ヲナセリ其第一入口ノ大ナルハ彈片落角ヲ帶ヒテ飛來シ皮面ニ斜ニ侵入セシニ關係スヘシト雖其斜メニ皮膚ヲ破リシハ出口ヲ造ルニ於テモ第二ノ入口ヲ造ルニ於テモ亦殆ト同様

ナリシナレハ第一入口ト第二入口トノ大サニ差アルハ主トシテ彈片勢力ノ消長ニ歸セサルヘカラス第一ノ入口ヲ造ルニ當テハ勢力自ラ強カリシヲ以テ皮膚ニ伸展ノ猶豫ヲ與ヘルコト少クシテ大ナル創孔ヲ造リ其出口ヲ造ルニ至テハ勢力幾クカ消亡セルト外方ニ支撐物ナキ皮膚ヲ斜メニ破リテ出ルハ容易ナラサルトニ由リ大ニ皮膚ヲ伸展セシメタルカ爲メ比例的甚々小ナル破裂狀口ヲ生シ再ヒ胸壁ニ於テ入口ヲ造ルニ當テハ勢力著シク減少セシカ爲メ第八肋骨部ノ皮膚ヲ下内方ニ向ヒ壓迫伸展セシメテ第十肋骨部ニ至リ始テ之ヲ破開シタルヲ以テ其創口ハ貫通創ノ入口ヨリ著シク小ナルナリ然レモ其出口ヨリ大ナルハ已ニ述ヘタル理由ニ因リ皮膚ヲ伸展セシムルニ多少アリシカ爲メトスヘシ第二十五例ハ貫通創ト盲孔創トノ間ニ位スルモノニシテ出口部ニ於テハ彈片ノ頭部已ニ皮膚ヲ破開スルニ至リシモ其動力ハ茲ニ全ク消亡シテ全部脱去スルニ至ラザリシモノナリ皮膚ヲ内方ヨリ破ルニハ其彈力性ノ抵抗即チ壓迫ニ應シ伸展シ得ル力ノ著シキモノニ打勝ツヲ要スレハ勢力弱キニ於テハ能ハサル所ニシテ盲孔創ノ例ニ見ルカ如ク彈片皮下ニ至テ停止スルモノ少カラス然レハ僅ニ皮膚ヲ破ルモ勢力盡キテ全

脱スルヲ得サルモノアルハ敢テ奇トスルニ足ラス唯本創ニ於テ異トスヘキハ出口部ノ創内ニ二個ノ彈片ヲ存セシト是ナリ其二個ノ彈片ハ盲孔創例ニ之アリシカ如ク元ト一體ニシテ破裂ノ當時已ニ罅裂ヲ存セシモ未タ全ク分離スルニ至ラス人體ニ侵入スルニ及テ組織ノ抵抗ニ觸レ始メテ分離シテ二個トナリシモノナラント考ヘタルモ實際彈片ヲ檢スルニ其孰レノ面ニ於テモ兩個親密ニ接合スル所ナク本來別個ノモノナリシトセサルヲ得サレハ奇怪ニモ兩個ノ彈片一所ニ飛來シテ一小創孔ヲ造リシモノトスヘシ

胸部ノ貫通創ハ第三例第四例第六例第十一例及第二十六例ノ二名ニシテ合計六名トシ共ニ即死シタルモノナリ其創孔ノ大サハ孰レモ不明ナレモ貫通創ハ細小彈片ニ因スルコト甚々少レナルヲ以テ推セハ其大概ヲ想知スルニ足レリ抑胸部貫通創ハ銃丸ニ因スルモノト雖往時稍大ナル銃丸ヲ用非シ際ノ經驗ニ徵スレハ大抵即死ヲ免レサルモノニシテ彈片創ノ斯ノ如キ結果ヲ示スハ當然トスヘシ

腹部貫通創ハ第十二例第十四例第十五例第十九例第二十三例及第二十四例ノ六症トシ第二十三例ヲ除クノ外孰レモ即死シタルモノニシテ其内二症ハ

腰椎ヲ破壊セラレ一症ハ海中ニ墜落セシモノナリ又第二十三例モ負傷後八時間ニシテ死亡セシモノニシテ腹部ノ彈片貫通創ハ豫後ノ極テ不良ナルヲ示ス抑腹部ハ已ニ論シタルコトアルカ如ク大ナル彈片モ侵入シ易キ所ニシテ其侵入スルヤ他部ニ於ケルヨリ比例的小ナル創孔ヲ遺スヘキ所トスレハ前ニ論シタル腹部ノ穿入創例ニ就テ已ニ彈片ノ小ナルモノニアラサリシヲ推想スヘク然レハ貫通創中創孔ノ大サヲ記セルハ第二十三例ノ外之ナキモ穿入創ヲ生スル彈片ト貫通創ヲ生スル彈片トノ勢力上ヨリ計較シテ其小ナルモノニアラサルヘキヲ推想シ得ヘシ夫レ然レハ不正形ニシテ稜角アル彈片ノ小ナラサルモノ腹内ニ侵徹スルニ於テハ内臓ノ毀傷セラル、コト甚シキハ勿論脉管神經ノ如キモ損傷セラレ易クシテ其劇甚ノ震盪若ハ内部大出血ノ爲メ即死ヲ來スノ多キハ理ノ然カラシムル所ニシテ其豫後ノ不良ナル決シテ銃丸創ノ比ニアラサルヲ知ルヘシ第二十三例ノ如ク其創傷ノ重大ナルニ拘ラス即死ヲ免レ且ツ毫モ震盪症狀ヲ現ハサ、リシハ反テ異數トスヘキモノニシテ是レ内臓損傷ノ景況ニモ關係スヘク彈片飛來ノ方向ニモ關係スヘク又負傷者ノ賦性ニモ關係スヘクシテ各症一轍ニ出テサルコトア

ルハ怪ムヘキモノニアラス

頭部ノ貫通創ハ第二十例ノ一症ニシテ其即死セシハ當然ナリ抑頭部ノ彈片創ハ頭蓋骨ノ一部分ヲ破壊シ去リテ所謂挫斷創ヲ生スルコト多ク然ラサレハ骨折擣裂創若ハ穿入創ヲ生スルモノニシテ本例ノ如キ貫通創ヲ生スルハ甚タ少レナル所ナリ是レ彈片ノ形狀侵徹ニ不利ナルニ因ス
第七例ハ頸部ノ貫通創ニシテ負傷後一時間餘ニシテ死亡セシモノナリ頸動脈ノ損傷ヲ免レタルハ記載アルモ創孔ノ大サ及頸椎ノ損傷セラレタルヤ否ニ就テ記載スル所ナキヲ以テ詳細ヲ知り難キモ負傷後體温ノ昇騰セシハ頗ル奇ニシテ脊髓ノ上部ニ損傷ヲ與ヘタルニ因スルモノニアラスヤト察セラ

第十例ハ右上膊ノ骨折貫通創治癒後筋螺旋神經ノ麻痺ヲ遺シ遂ニ治癒セサリシモノナリ其創傷ハ上膊中央部ヲ後面ヨリ前面ニ貫通セシモノニシテ其位置ヨリ考フルニ筋螺旋神經ハ受傷ノ當時ニ於テ上膊骨ト共ニ毀傷セラレタルモノナランモ副木使用等ノ爲メ其徵候蔽ハレ後ニ至テ之ヲ發見シタルモノナラン尙ホ此ノ症ニ就テハ後章ニ於テ論スル所アルヘシ

(三) 鐵片ニ因スル貫通創三傷アリ三名ニ存ス即チ左ノ如シ

第一例左前膊肘關節ヨリ三珊米下方ノ外側ニ軟部貫通創ヲ負ヒ兼テ左下腿ニ擦過創及顔面ニ火傷ヲ負ヒルソ八十日ニシテ全治ス(病歴二二二號)

第二例右肩胛棘下部ヨリ右上膊上部ニ互ル貫通創ヲ負ヒ肩胛背部ノ入口ハ彎形ノ破裂狀ヲナシ上膊ノ出口ハ長サ四・五珊米ノ縱破裂狀創ニシテ創緣著シテ外翻シ筋肉露出シテ噴火口狀ヲナシ肩胛骨ハ破碎セラレ上膊骨モ亦其外科的頸部ニ於テ骨折ス此ノ他顔面ニ擣傷ヲ兼ネ負フ入院後入口及出口ヲ截開シ數個ノ游離骨片ヲ抽出ス然レモ創面ハ已ニ化膿シ創緣組織ハ腐肉ヲ生シ爾後肉芽ノ發生不良ニ在苒治セス在院五ヶ月ノ後チ丹毒症ヲ併發シ遂ニ死亡ス(病歴一九二號)

第三例右下腿上三分ノ一部ト下三分ノ一部ノ接際ニ於テ外側ヨリ内側ニ貫通例ヲ負ヒ其入口ハ長サ五・五珊米幅四・五珊米ニシテ出口ハ長サ三珊米幅二・五珊米アリ骨脈管及神經ニ損傷ナキモ創圍組織ハ著シク挫傷セラレシカ爲メ壞疽ニ陥リ腐肉ヲ生シ三ヶ月餘ニシテ全治ス(病歴二八三號)

鐵片ニ因スル貫通創ハ僅ニ三傷ニシテ之ヲ同因ヨリ來ル創傷總數六十傷ニ對シ百分比例スルハ五・〇〇ヲ占ムルニ過キスシテ擣創ノ四一・六七盲孔創ノ二〇・〇〇擦過創ノ一六・六七擣傷及挫斷創ノ各八・三三ヲ占ムルニ比シテ最モ少キヲ見ル是レ已ニ論セシカ如ク鐵片ノ勢力弱キカ爲メ貫通創ノ如キハ其容易ニ生スル所ニアラサルヲ示スモノナリ抑鐵片ハ其形狀及重量ニ於テ

彈片ト殆ト撰フ所ナキモ其附與セラレ、速力ニ至テ彼此大差アルモノナレハ其勢力ノ彈片ニ比シテ劣ルハ免レサル所ナリ戰時艦内ニ飛散スル彈片數ハ鐵片數ヨリ甚ダ多ク且ツ遠キニ及フヲ以テ隨テ諸種ノ創傷彈片ニ因スルモノ多キハ固ヨリ其數ナレモ彈片創傷中其貫通創ハ百分ノ一一・四五ヲ占メ鐵片ノ五・〇〇ニ比スルニ倍數ヨリ多シトス若シ唯貫通創ニ就テ其原因數ヲ比較スルトキハ彈片ニ因スルモノハ百分ノ八六・八四ヲ占メ鐵片ニ因スルモノハ百分ノ七・八九ヲ占ムルニ過キスシテ兩者ノ懸隔甚シキヲ見ル

鐵片ニ因スル貫通創ノ性質ハ彈片ニ因スルモノト殆ト異ナル所ナシ其入口ノ大ニシテ出口ノ小ナルハ第三例ヲ以テ證スヘシ第一例ハ出入口ノ大サヲ記サ、ルヲ以テ其如何ヲ知り難キモ第三例ト同シク軟部ノ貫通創ト同様ノ差アリシモノト察セラレ第二例ハ鐵片ニ因スル貫通創トシテハ頗ル奇異トスヘキモノニシテ其創孔記載ノ景況ヨリ察スレハ鐵片ハ粗大ナルモノニシテ初メハ彎曲セル長キ面ヲ以テ皮膚ヲ破リシモノ、如ク決シテ侵徹ニ利ナル細長形ノモノニシテ其尖端ヲ以テ皮膚ヲ破リシモノニ非サルカ如シ然ルモ背部ヨリ其肩胛骨ヲ破碎シテ上膊ニ入り再ヒ上膊骨ヲ破碎シテ噴火口狀

ノ出口ヲ造リ謝去セル如キハ著シキ勢力アルモノニアラサレハ能ハサル所ニシテ飛散鐵片ニ此ノ勢力アルモノアルヘキヤ否大ニ疑ハサルヲ得ス鐵片創傷中挫斷創ノ如キ大創傷アリト雖モ是レ巨大ニシテ重力甚々多キ鐵片ニ因シタルモノトスレハ當然ノコトニシテ貫通創ヲ生スル如キモノハ大ナルモノト雖モ自ラ限リアルヘケレハ其重力ハ推シテ知ルヘク然レハ斯ノ如キ大創傷ヲ生スルニハ重力以外ニ大ナル速力ヲ附與セラレタルモノト認メサルヲ得ス然レモ擣創盲孔創及其他ニ就テ既ニ引證シ來リタル所孰レモ鐵片ニ附與セラレ、勢力ハ大ナルモノニ非サルヲ證スルモノニシテ貫通創ノ如キ僅ニ三例ヲ出セルモ亦其一證ナリ其三例中二例ハ軟組織ヲ穿チシモノナレハ鐵片中侵徹ニ利アル形狀ヲ有セシモノニ原因スルモノト看做シテ更ニ怪ムヘキ所ナキモ本創ノ如キ果シテ鐵片ニ因スルモノトスルトキハ其勢力全ク破格ノモノトスルノ外ナシ但シ本負傷者ハ軍艦比叟ニ於テ午後一時二十分頃敵彈右舷七番砲近部ノ艦側ヲ破壊シ鐵木片ヲ飛散セシメタル際ニ受傷セシモノト報告セラレ、モノニシテ其際敵彈ハ破裂セシテ飛過シタルモノナレハ此報告ニ誤リ無キニ於テハ鐵片ニ因セシコト事實ナレモ其前後即

チ午後一時十五分頃及午後一時二十五分頃ニハ該艦ニ破裂彈片ノ飛散セシモノ多ク且ツ該軍醫ハ盡ク戰死シ死傷者ノ病歴等ハ後日ニ至リ艦員ノ記憶ニ據リテ記錄セルモノ多ケレハ其受傷時ノ記載ニ錯誤ナキヲ保シ難シトス

(四) 小銃丸ニ因スル貫通創一傷アリ左ノ如キモノナリ

陸戰隊員トシテ澎湖島ニ上陸ノ際僅カ一二間ノ距離ヨリ小銃ヲ以テ狙撃セラレ下顎頤部ヨリ頸ノ右側ニ互リ貫通創ヲ負フ其創面ハ長サ十二珊米ニシテ哆開セル破裂狀創ヲナシ哆開部ノ最モ廣キ處ハ八珊米アリ創底口腔ニ通シ下顎骨ノ體部ヲ數片ニ破碎シ其一部ハ恰モ砂粒ノ如ク微塵トナリ口底ノ諸筋斷裂セラレ頸動脈ハ明カニ其鞘ヲ露出セルモ損傷ヲ免レ顔面動脈ハ挫斷セラル、モ出血ナシ言語及嚥下作用ハ困難ヲ極ム又右頸部ノ稍後方ニ約二珊米ノ小裂孔ヲ存ス爾後創面ノ組織ハ腐肉トナリ破碎骨片數個ハ腐死シテ游離シ五ヶ月ヲ經テ治癒セルモ言語及嚥下作用不充分ナル爲メ免役セラレ(病歴一〇五號)

前例ハ銃丸ノ貫通創ナレモ極メテ近距離ニ於テ受傷セル爲メ銃丸ノ速力即チ勢力非常ニ猛劇ナリシヲ以テ受傷部ノ組織ハ廣ク崩壞シ創管ヲ被フヘキ皮膚モ裂斷シテ一ノ大ナル哆開創トナレルモノニシテ所謂銃丸ノ爆發創ナルモノナリ此ノ大創ノ外ニ小裂孔ノ存セシハ銃丸ノ動力ヲ附與セラレタル破碎骨片ノ飛出セシ所ナルヘシ非常ノ速力アル彈丸ニ撃タル、トキハ破碎

骨片ハ固トヨリ諸組織ノ細胞及液分各大ナル動力ヲ附與セラレテ飛動セン
トスルカ故ニ其彈丸ハ小ナルモ往々斯ノ如キ大破壊ヲ來スコトアルハ明カ
ナル事實ナリ

貫通創ハ前記セル如ク合計三十八傷ニシテ此ノ原因トナリシモノハ輕砲彈
彈片鐵片及銃丸ノ四種ニ止マリ之ヲ諸種ノ創傷總數六百二十九傷ニ對シ百
分比例スルトキハ僅ニ六〇四ヲ占ムルニ過キスシテ砲創ニハ貫通創ノ甚々
少キヲ見ルヘシ是レ銃創ト其趣ヲ異ニスル所ニシテ銃創ニ於テハ貫通創最
モ多數ヲ占ムヘキモノナリ又彈片及鐵片ニ因スル貫通創ト銃丸ニ因スル貫
通例トハ其創孔ノ景況ニ於テモ著シキ差アリトス砲創ノ貫通創ニ於テハ創
管ノ大ナルモノアルハ論外トシ其入口ノ大ニシテ出口ノ小ナル彼此著シキ
差アルモノ少カラサルモ銃創ノ貫通創ニ於テハ斯ノ如ク著シカラス又砲創
ノ貫通創ニ於テハ周圍組織著シク擣挫セラレ出入口圍ノ皮膚ハ變色シ皮下
ノ軟組織ハ廣ク挫壞セラル、ヲ見ルモ銃創ノ貫通創ハ前ニ記セルカ如キ近
距離ノ射撃ニ因スル爆發創ト稱スルモノ、外ハ否ラストス是レ孰レモ砲創
ハ彈片鐵片ノ如キ形狀不正ニシテ侵徹ニ甚々不利ナルモノニ由來スルカ故

大ニ然レハ砲創ノ貫通創ハ其創徑ノ當ニ大ナルモノ多キノミナラス其周圍
組織ヲ壞滅スルコト比例的常ニ甚シトスレハ頭部ハ勿論トシ胸部腹部ノ如
キ貴要部ニ於ケル貫通創ノ大抵即死ヲ免レサルハ固トヨリ四肢ニ於ケルカ
如キモノモ創性ノ重惡ナル決シテ銃創ト同日ノ論ニアラサルハ當ニ然ルヘ
キ所ニシテ其癒合機能容易ニ振ハス其經過緩慢ニシテ動モスレハ創傷傳染
病ヲ發シ易キモノトス又貫通創中ニハ創孔洗滌ニ際シ小衣片ヲ出セシモノ
アルモ病歴ニハ之ヲ記セサルモノアリ衣服ニ被ハル、部ノ貫通創ニ於テハ
斷離セラレタル衣片ノ彈片ト共ニ創内ニ入ルヘキハ明カナル事實ニシテ間
彈片ト共ニ飛出スルモノアルヘキモ彈片ノ前端ニ固ク附着セサルモノハ創
内ニ遺存スルモノ多カルヘシ

第六 挫斷創及粉壑創

挫斷創ハ肢體ヲ全ク兩斷スルカ或ハ頭部手部ノ如キヲ全ク斷裂シ去リタル
モノヲ云フ然レモ腹部胸部ノ如キ其大部分ヲ斷去セラレ上下半身全然連絡
ヲ失フニ至ラスシテ半挫斷創ト稱スヘキモノモ繁ク避クルカ爲メ其區別ヲ

ナサスシテ之ニ算入セリ紛壘創ハ身體數片ニ斷裂セラレテ諸方ニ飛散シ其
 何人タルヲ辨識シ難キモノ或ハ微塵トナリテ其踪跡ヲ留メサルモノヲ云フ
 然レモ後ニ論スルカ如ク砲彈爆發ノ際海中ニ没シテ其踪跡ヲ失シタルモノ
 ニ非サルヤノ疑アルモノナキニ非サルモ分明ナラサルヲ以テ之ニ算入セリ
 (乾) 挫斷創ハ

- 砲彈全體ノ打撃ニ因スルモノ……………十 傷
- 彈片ノ打撃ニ因スルモノ……………二十七傷
- 鐵片ノ打撃ニ因スルモノ……………五 傷
- 砲丸爆發ノ近部ニ於テ受傷シ其何ニ因スルカ不明ノモノ……………八 傷
- 彈片ニ因スルカ鐵片ニ因スルカ明カナラサルモノ……………二 傷
- 箒壓ニ因スルモノ……………一 傷

合計……………五十三傷

(一) 砲丸全體ノ打撃ニ因スル挫斷創ノ十傷ハ頭部一傷腹腰部四傷胸腹部一
 傷左前膊一傷兩大腿一傷及兩下腿二傷ニシテ其内頭部一症胸腹部一症
 及腹部ノ三症ハ即死シタルモノナレモ兩下腿ト前膊トヲ挫斷セラレタル一

名(病歴二八九號)ト腹壁ヲ挫斷(腹部ノ半挫斷ナリ)セラレタル一名(病歴一七五
 號)トハ即死ヲ免レ上甲板ノ治療所ニ伴ハレ震盪症ノ爲メ失神シ氣息奄々ト
 シテ治療ヲ受クル際偶敵彈其下方ニ當ル甲板ニ爆裂シ且ツ多量ノ火藥ヲ發
 火セシメタルカ爲メ其劇シキ激動ニ觸レ死亡シ他ノ兩大腿ヲ挫斷セラレタ
 ルモノ一名ト兩下腿ヲ挫斷セラレタルモノ一名モ亦即死セスシテ受傷後十
 數分時ヲ經テ死亡セリ此終リノ二名ハ共ニ大腿部ニ大鐵片ノ盲孔創ヲ兼子
 負ヘルモノニシテ己ニ盲孔創例ニ記セシモノナリ

(二) 彈片ニ因スル二十七傷ハ頭部ノ挫斷創十二傷腹部ノ挫斷創六傷骨盤部
 ヨリ右大腿ニ互リ挫斷セラレタルモノ一傷兩大腿ノ挫斷創二傷右大腿ノ挫
 斷創一傷上肢挫斷創一傷下肢挫斷創一傷手腕部ノ挫斷創一傷右中指ノ挫斷
 創一傷及頸ヨリ下顎部ニ互ル半挫斷創一傷ニシテ二十六名ニ存シ内頭部ノ
 十二症腹部ノ六症頸部ノ一症兩大腿部ノ一症右大腿部ノ一症骨盤部ヨリ右
 大腿部ニ互ル一症及上下肢ノ一症ハ即死シタルモノニシテ餘ノ手腕部挫斷
 創ノ一症ハ治療室ニ伴ハレ治療中巨彈來テ同室内ニ爆發シ右大腿上部ニ大
 貫通創ト腰部ヨリ下肢ニ互ル火傷トヲ受ケシモノニシテ十數日後遂ニ死亡

シ(病歴二六一號)唯中指挫斷ノ一症ノミ死ヲ免レタリ但シ本症ハ左大腿ノ盲孔創ヲ兼子負ヘルモノナリ(病歴二五五號)

(三) 鐵片ニ因スル五傷ハ頭部ノ挫斷創三傷、右下腿部ノ挫斷創一傷、右手腕部挫斷創ノ一傷ニシテ頭部ノモノ一症ハ砲楯ノ大破片ニ因シ一症ハ烟突ノ大破片ニ因シ一症ハ砲身ノ大斷片ニ因シ孰レモ即死シタルモノナリ、右下腿ノ一症ハ烟突ノ大破片ニ因スルモノニシテ兼子テ兩上膊ニ骨折擣創ヲ負ヒ數時間ノ後死亡セリ(病歴二九一號)他ノ右手腕部ノ一傷モ亦烟突ノ破片ニ因スルモノニシテ左下腿ノ盲孔創頭部及左手部ノ擣創ヲ兼子負ヒ三ヶ月ヲ經テ治癒セリ(病歴二三〇號)

(四) 砲丸爆裂點ノ最近邊ニ於テ生セシ挫斷創ハ八傷ニシテ六名ニ存シ其内腹部二傷、胸部二傷、胸腹部ニ互ルモノ一傷、兩下肢二傷及左大腿ヨリ右下腿ニ互ルモノ一傷ナリ孰レモ皆即死セシモノナレド胸腹部挫斷ノ一症ハ始メ右下肢ニ擣創ヲ負ヒ治療室ニ來リ受療中更ニ同室内ニ砲丸ノ爆裂スルニ遇ヒ即死セシモノナリ(病歴一五四號)

爰ニ記セル挫斷創ハ重モニ破裂彈片ノ打擊ニ因テ生セシモノト察セララル、

モ砲丸ノ爆裂セル點ニ近接シ居タルカ爲メ同時ニ飛散セル鐵木片及發火瓦斯ノ共同傷害ヲ受ケタルモノナルヘク即死者ノ病歴ハ單ニ主要ノ一創傷ヲ記シテ他ヲ畧セシモノ多ケレハ強チ彈片創トノミ看做シ難クシテ砲彈爆裂ニ因スルモノトナセリ前記胸部ノ二傷ト兩下肢ノ二傷トハ二名ニ併發セルモノニシテ各胸部ヲ破壊セラレ下肢ヲ挫斷セラレタルモノナリ其一名ハ軍艦松嶋ニ於テ三十珊米半ノ巨彈爆裂シ且ツ多量ノ火藥ニ發火セシメタル際受傷セルモノニシテ(病歴一五二號)他ノ一名ハ軍艦比叻ニ於テ敵彈近部ノ「スタンション」ニ命中炸發シ彈片其胸部ニ掛ケタル火藥盒ニ中リ之ヲ發火セシメ胸部ヲ甚シク破壊セララル、ト同時ニ兩下肢ヲ挫斷セラレ且ツ火傷ノ爲メ身體殆ト焦黒セルモノナリ(病歴一五三號)此ノ他ノ症ハ皆軍艦比叻ノ治療室ニ於テ敵彈ノ爆裂セル際生セシモノナリ

(五) 彈片ニ因スルヤ鐵片ニ因スルヤ不明ナル挫斷創ハ二傷アリ一ハ砲彈來テ砲座ニ命中炸發シ彈片及鐵片竝ヒ飛散ノ際受ケシ創傷ニシテ右大腿上部ヲ挫斷セラレ且頭蓋穿入創ヲ負ヒ即死シ他ノ一ハ砲丸砲楯ニ命中炸發セシ際受ケシ創傷ニシテ左小指ヲ挫斷セラレ且眼球内鐵片穿入創及左下腿盲管創

ヲ兼子負ヒ治癒後免役セラレタルモノナリ(病歴一一一號)

(六) 箝壓ニ因スル挫斷創一傷ハ發砲ニ從事中、右示指及中指ヲ砲座ノ車輪ニ箝壓挫斷セラレタルモノニシテ治癒後免役セラレ(病歴二四二號)

前記挫斷創ノ五十三傷ハ四十九名ニ存スルモノニシテ其内右中指、右手腕部ヲ左小指及左示指ト中指ト挫斷創四名ノミハ治癒セルモノナリ又手腕部ヲ挫斷セラレ右大腿ノ大貫通創ト火傷トヲ兼子負ヘルモノハ十數日後ニ至リ死亡シ右下腿ヲ挫斷セラレ且ツ上膊ニ骨折大擣創ヲ負ヘルモノハ數時間後ニ死亡シ兩大腿ノ挫斷創兩下腿ノ挫斷創兩下腿ト前膊ノ挫斷創及腹壁ノ半挫斷創ノ四名ハ即死ヲ免レ治療所ニ來リシモノナレモ數分時後ニ死亡シ殆ト即死ニ均シキモノニ餘ノ三十九名ハ皆即死セシモノトス抑挫斷創ハ砲丸若ハ大彈片若ハ大鐵片ノ如キ勢力或ハ重力ノ大ナルモノニ因スルモノニシテ上下肢下端ノ如キ一小部分ニ於ケルモノ、外ハ其身體ニ及ホス感作重劇ニシテ死ヲ免ル、モノ稀レナルハ固トヨリ當然ナリ出血ノ如キハ概シテ多カラサルモ震盪ハ自ラ著シキモノアルヲ認メタリ挫斷部ノ創面ハ孰レモ不整ニシテ軟組織ハ縊縷ノ如ク長短不同ニ懸垂シ骨端モ凹凸不正ニシ

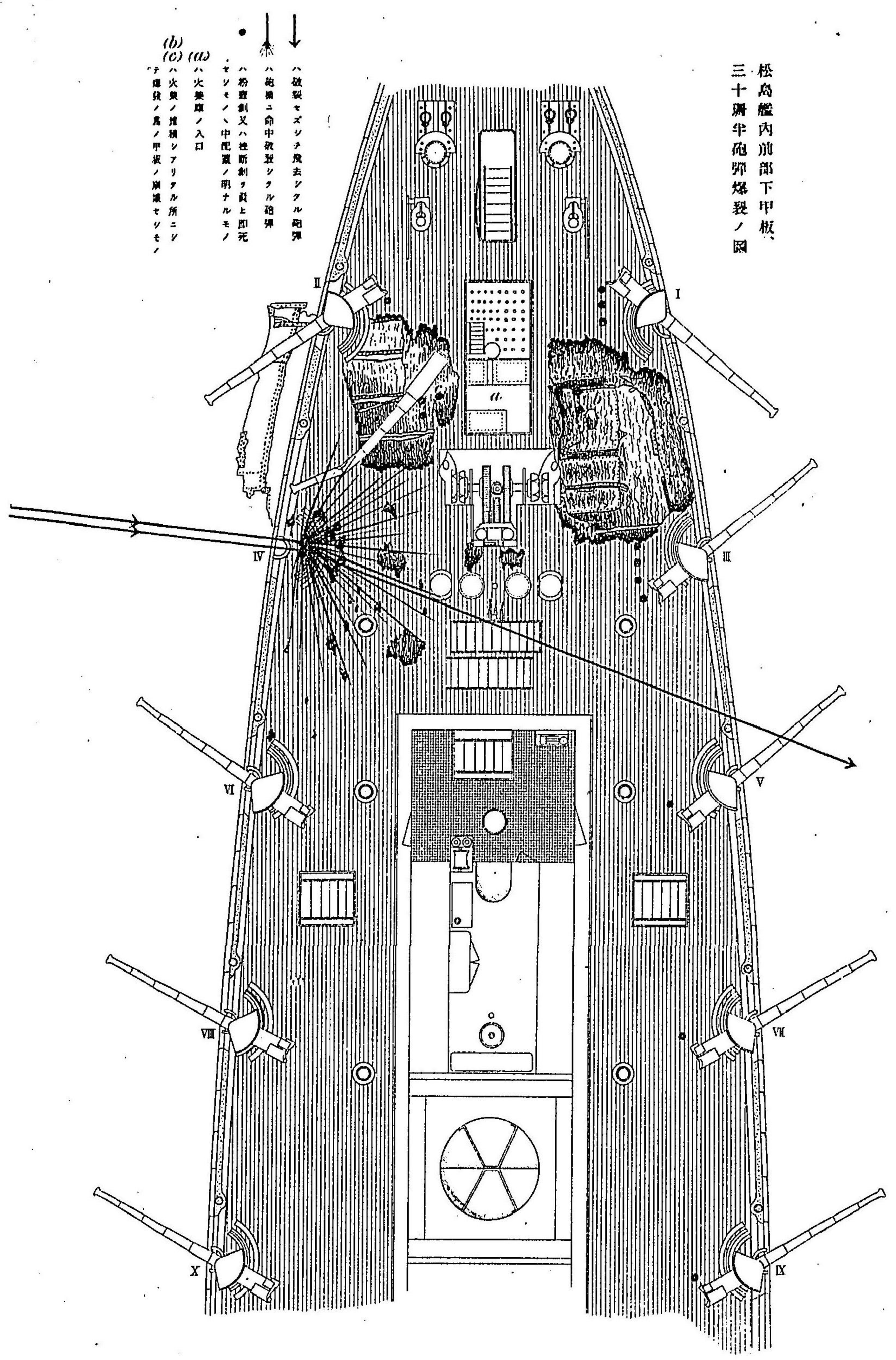
テ細カニ破碎スルヲ常トセリ砲丸ノ如キ大勢力アルモノニ因スルモノト大鐵片ノ如キ重力ノミ著シキモノニ因スルモノトハ其挫斷面ノ景況幾クカ異ナル所アルヘキナレモ彼此一所ニ相比ヘテ經驗スルノ機會ヲ得タルモノナクシテ各別ニ經驗セル所ノ報告ニハ其差アルヲ認ムルヲ得ス彈片ニ因スル頭部ノ挫斷創中ニハ其頭皮實質ノ缺損ハ僅ニシテ長キ破裂狀創ヲナシ側方ニ懸垂シ頭蓋骨ノ上半部ハ大部缺損スルモ全部破壊シ去リタルニアラス然ルモ腦髓ハ盡ク飛散シテ毫モ其跡ヲ留メス恰モ拭ヒ去リタルカ如ク清潔ニシテ唯斷裂セル膜ノミヲ遺セシモノ數症アリタリ是レ彈片ノ射過スルニ際シ腦ノ如キ固着力ノ少キ軟體ハ其附與セラル、動力ニ依リ盡ク崩壞飛散セルカ爲メナルヘクシテ或ル外科醫ノ唱道スル水壓作用ノ意味アルモノナルヘシ然レハ彈片甚タ大ナラスシテ單ニ貫通創ヲ生スヘキ如キモノモ偶頭部ヲ擊ツニ於テハ斯ノ如キ大破壊創ヲ生スルコトアルヘシ

(坤) 粉壘創

粉壘創ハ全身粉壘創二十八傷ト下半身粉壘創ノ一傷ト四肢粉壘創ノ一傷トニシテ合計三十傷アリ内二十七傷ハ軍艦松嶋ニ於テ生セシモノニシテ二傷

ハ軍艦比叡ニ於テ生シ一傷ハ軍艦秋津洲ニ於テ生セシモノナリ原因ハ孰レモ砲彈爆發トス軍艦松島ニ於テ三十珊米半ノ巨彈來リテ下甲板前部四番側砲ノ砲楯ニ命中爆裂スルヤ同砲側及ヒ隣砲側ニ準備セル彈藥莢殊ニ前部彈庫ノ入口ニ積ミ重子アリタル多數ノ彈藥莢ヲ爆發セシメ一時ニ百名ノ死傷者ヲ出セシカ其内全身粉壘創ノ二十五名四肢粉壘創一名アリ孰レモ即死セシハ勿論ニ此他ニ即死セシハ胸部ト下肢ヲ挫斷セラレ全身火傷ヲ負ヘルモノ一名ト火傷ノ爲メ全身焦黑シテ死セルモノ一名ト兩下腿ト前膊トヲ挫斷セラレタルモノ及腹壁ヲ挫斷セラレタルモノ二名ノ受療中爆發ノ激動ニ觸レ死亡セシモノトノ四名アリテ即死者ハ合計三十名トナリ其餘ノ負傷者七十名中身體ニ廣汎火傷ヲ負ヒ二十四時間ヲ出スシテ死亡セルモノ十名四十八時間ヲ出スシテ死亡セルモノ五名七十二時間ヲ出スシテ死亡セルモノ三名六日後ニ死亡セル者二名十二日後ニ死亡セル者一名四十一日後但シ死因ハ兼傷ノ腹部穿入創ノ爲メニ死亡セル者一名合計二十二名ノ死亡者ヲ出セシカ如キ重大ノ創傷ヲ一時ニ生シ其慘狀殆ト名状スヘカラス而シテ此ノ爆發ニ際シ粉壘創及他ノ創傷ノ爲メ即死シタルモノハ如何ナル場所ニ在リ

松島艦内前部下甲板
三十珊半砲彈爆發ノ圖



シ者ナルヤ其關係ヲ究メントスルニ三十名ノ即死者中其配置上ヨリ所在ノ
 知り得ヘキ者ハ二十二名ニ他ノ二名ハ負傷後受療中ナリシヲ以テ其所在
 ヲ知り他ノ一名ハ死體ヲ發見シテ以テ其所在ヲ知り得タルモ其他ノ五名ハ
 砲臺指揮官二名砲臺傳令使一名及負傷者運搬手二名トシ常ニ其所在ヲ變フ
 ヘキ者ニシテ死體モ發見スルヲ得サリシナレハ何レノ場所ニ在リシヤ到底不明
 ニ屬ス其所在ヲ推知シ得ヘキ者二十五名中負傷後受療中ニ爆發ニ觸レ死シ
 タル者二名ト全身火傷ノ爲メ死シタル者一名トヲ除キ粉壺創二十一名挫斷
 創一名ノ所在ハ挿圖ニ朱點ヲ以テ示セルカ如キ場所ニ在ルヘキ者ニシテ即チ
 一番砲員三名二番砲員一名三番砲員四名四番砲員彈丸ノ命中セル砲員三名五
 番砲員一名七番砲員一名九番砲員一名彈庫員六名水雷員ニシテ彈庫員ノ補助
 ヲナシ居リシ者一名及彈庫附近ニ於テ死體ヲ發見セシ電燈員一名ナリ又挿
 圖ニ示セル如ク當時三十珊米半彈ハ二個相並テ飛來セシモノニシテ其一個ハ
 四番砲ノ砲身ニ斜ニ衝突シ之ヲヘ字形ニ彎屈セシメ數尺外ニ抛擲シ稍彈道
 ヲ折轉シテ飛去シ他ノ一個ハ同砲ノ砲楯ニ命中爆裂シ砲楯ヲ破碎シ甲板中
 央ノ「ウ」非シドラスヲ破壞シ彈片鐵片大ニ飛散セシノミナラス同時ニ夥多ノ

彈藥莢(火藥及彈丸)ノ爆發セシ量數ハ詳カナラサレモ軍艦松嶋ノ報告ニ據リ推算スルニ十二珊米鋼鐵榴彈六個同常裝藥莢六十一發トス而シテ此ノ常裝藥莢每一個ノ火藥含量ハ礮子火藥九基五七五(一ナリ)ヲ發火セシメ下甲板ヲ破壞シ上甲板ヲ彎屈セシメ火災ヲ起セシモノナリ然レハ一番砲員ノ如キ二番砲員ノ如キ殊ニ三番砲員四番砲員及彈庫員ノ如キ彈丸及藥莢ノ爆發點ニ密接セシモノハ彈片鐵片及火藥瓦斯ノ衝擊ヲ受ケ肢體飛散シテ其踪跡ヲ留メサルニ至ルモノアルモ怪ムヘキニアラス然レモ七番砲員及九番砲員ノ如キ其位置爆發點ヨリ遠サカレル者ノ中ニ其踪跡ヲ發見セサルモノアリスノ如キ距離ニ於テハ挫斷創ノ如キハ生スルコトアルヘキモ肢體飛散シテ其跡ヲ留メサルカ如キ創傷ヲ出セシトスルハ疑ヒナキ能ハサルヲ以テ九番砲員ノ生存者ニ就キ當時ノ狀況ヲ質セシニ左ノ回答ヲ得タリ

軍艦松嶋下甲板右舷砲臺即チ九番砲ノ舷側ハ當時非戰闘側ノ位置ニ在リテ「打チ方待テ」ノ號令ノ下ニ右舷砲臺ノ砲手ハ各自砲ノ附近ニ於テ休憩後令ヲ待ツ余ハ九番砲ヲ離ル、コト一間計リニシテ後部右側ニ起立中左舷砲臺ノ前部ト覺ホシキ處ニ艦モ微塵ニ碎ケン計リノ物音ト同時ニ艦體強ク動搖セリ此時迄硝煙ハ見エサリシカ右舷砲臺前部ニ彈片及壁土ノ如キモノ飛散スル雨ノ如ク散ノ如ク甲板ノ裏面及舷側ニ衝激スルヲ目撃シ「來タゾ」ト放ツ言諸共彈片余カ頭部及顔面ヲ

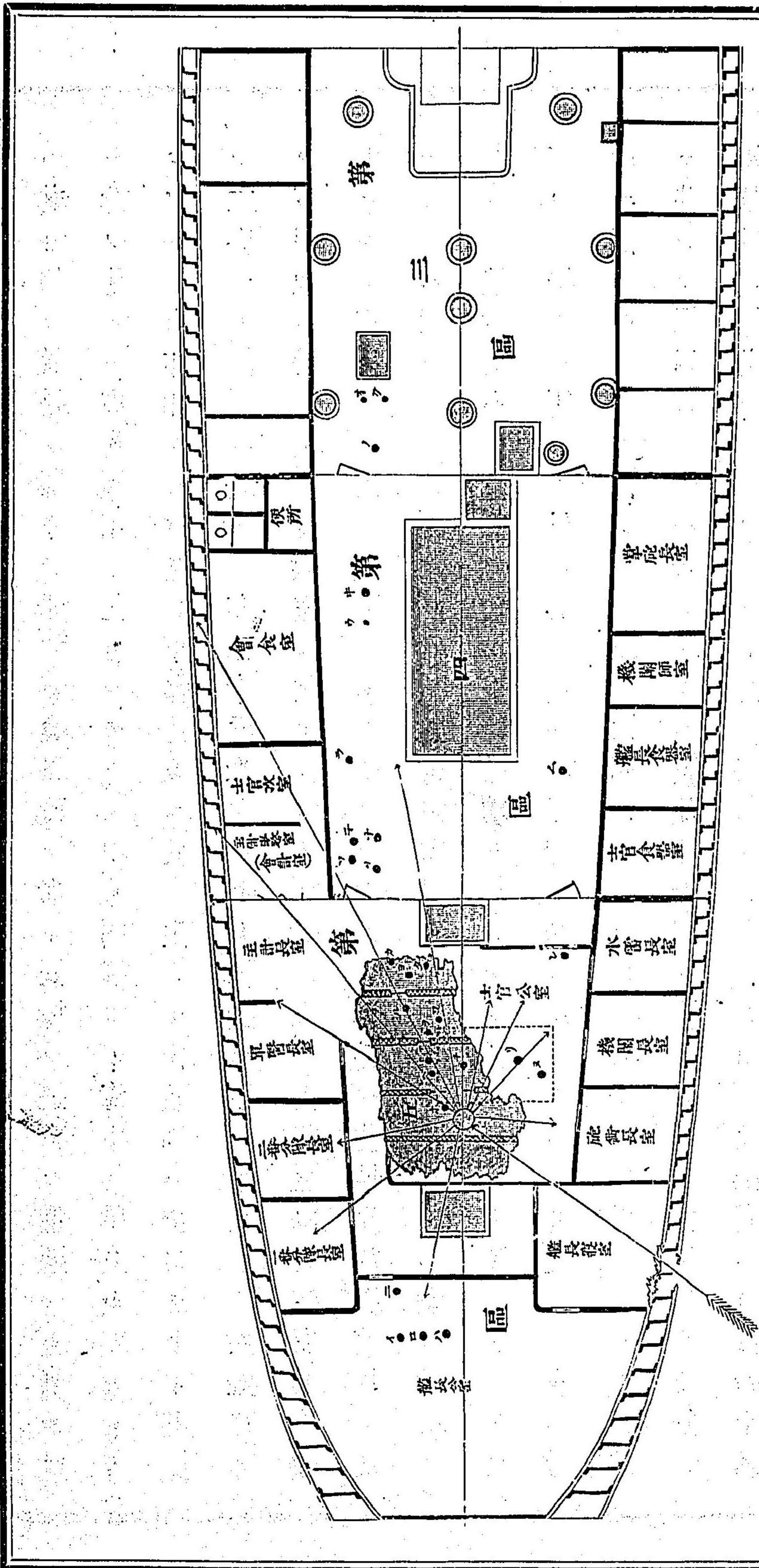
撃チ尙肩及胸ニハ土塊ノ如キモノ數個ヲ受ケタレトモ該部ニハ創傷ヲ起サス而シテ頭部ノ彈片創ヨリハ流血淋漓タルヲ認メメリ此時又モ物凄キ音響ニ連レ下甲板砲臺一面火燭ヲ以テ滿タサレ同時ニ余カ體ハ硝煙ノ爲ニ吹キ揚ケラレテ一間餘ヲ隔ツル砲臺ノ後部ト士官次室トノ隔壁ナル衣囊棚ノ前ニ落サル此猛烈ナル激震ニ胸板碎ケタル心地シテ立タントシテ立ツ能サルコト再三、焰烟黃黑咫尺ヲ辨セス呼吸スレハ熱灰ヲ吸フカ如ク恰モ石炭庫ニ陥リタルカ如キ感アリ最早是迄ナリト覺悟ヲ定メ息ノ絶ユルヲ待チタレトモ尙絶エサレハ上甲板ニ逃レ出テント九番砲ノ後部ヨリ上甲板ニ出ル所ノ第二ハツチ即チ機關室上ノ昇降口ニ至レハ目ニハ觀エサレトモ前ニハ先ヲ爭フテ昇ラントスル一群アリ後ニハ悲鳴シテ取り攀ルアリテ容易ニ昇ルコト能ハス躊躇迷巡スル中ニ右舷側ノ入口ヨリ熱赫ナル火焰噴キ來リテ手腕及頭額ヲ燒カンズル勢ニ這ハ堪ヘ難シト後トニ返シテ砲臺前部ノ第一ハツチヨリ逃レ出テント七番砲ト覺ホシキ處ニ到レハ又モ噴キ來ル焰烟ニ捲キ込マレ呼吸促迫ノ餘ニ三次回轉メ瞠若シタリシカ愈是迄ト覺悟シ「今死スルゾ」ト言ヒ遺シ絶命ヲ待チタレトモ幸ニ絶息セサルヨリ性命ノアラン限リ免ルヘシト砲門指シテ進ミ寄レハ是即チ七番砲門九死ニ一生ヲ得タル再生ノ場勇ヲ鼓シ氣ヲ勵マシテ砲身ニ攀チ砲門外ヨリ舷ヲ傳フテ上甲板ニ昇リ先ツ自身ガ傷所ヲ見レハ頭部ニ所ノ創ハ極メテ輕微胸板碎ケタル心地セシモ何等ノ傷害ナシ左ノ耳ハ劇ク痛ミ聾トナリ兩脛ノ内側殊ニ右脛ハ碎ケン許リノ痛アルモ檢スレハ只藥莢片ノ撞痕ト覺ホシキ黒血斑縱横スルノミ口鼻ヨリ些少ノ出血アリ頭髮眉髻及腕毛燒失セシモ皮膚ハ僅ニ變赤セルノミニシテ火傷ト言フニハアラス於是大ニ勇奮シ同砲門ヨリ共ニ免レ出テタル長野徳太郎ト共ニ防火ニ從事シ後向山副長ノ指揮ニ從ヒ甲板ノ片附テ爲シ直チニ再ヒ九番砲ニ就キ敵ニ對シテ砲撃ヲ續ケリ

倍當時九番砲手タリシ故二等水兵佐々木岩吉ハ九番砲附近ニ在リテハ固トヨリ全身微塵ニナル
 理由ナシ余ハ同砲員ノ事ナレハ當時勉メテ死屍ノ搜索ヲナセシカドモ佐々木ノ屍ヲ發見セサル
 ヨリ見レハ砲門ヨリ免レ出テントスル際海中ニ陥リシモノカ或ハ火藥瓦斯ノ爲メ砲門ヨリ海中
 ニ吹キ飛ハサレタルニハアラサルヤトハ一部ノ人ノ想像スル所ナリシモ余ガ更ニ熟考スルニ佐
 々木ハ九番砲ノ三番員ニシテ彈丸運搬ノ職ニ當リシモノナレハ運彈ノ爲メ前部火藥庫ナル揚彈
 機ノ處ニ赴キタル刹那ニ砲彈爆裂シ同時ニ夥多ノ火藥ニ發火シ以テ全身粉塵ノ不幸ニ陥リタル
 モノト想察セラル揚彈機ノ附近ハ右舷砲臺ト雖甲板及揚彈機等甚シク破壊セラレ死體ノ慘狀左
 舷砲臺ニ劣ラサル有様ニテアリキ九番砲ニ備ヘタル藥莢ハ十四五發ニシテ毛布ヲ以テ被護シア
 リシカ毛布ハ噴キ捲クラレ藥莢ハ露ハレタレトモ彈藥ノ爆發ハ一モアラザリキ
 七番砲ニ於テハ榴霰彈一個破裂シタルコトハ確實ニシテ其霰彈子ハ余カ吹キ倒サレタル衣蓑棚
 附近ニ宛ナカラ豆ヲ撒キタルカ如クニ撒布セリ而シテ其榴霰彈ノ彈底ノ破片ハ七番砲後ニ殘リ
 アリキ又七番砲ト九番砲ノ間ニ於テ藥莢底飯ノ破片一個ヲ見タリ是レ五番砲或ハ七番砲ノ藥莢
 爆發シタルモノナラン此ノ役ニ於テ下甲板砲臺ノ砲手四十名ノ内輕傷ニシテ尙職務ニ從事スル
 モノ余ト共ニ僅ニ四名ノミ而シテ余ノ恙ナキハ人皆ナ奇トセラレ、所ナリ云々(松島九番砲員海
 軍二等水兵宮田嘉藤次回答)

此ニ由テ之ヲ觀ルニ九番砲員ノ一名踪跡ヲ失セルハ彈藥運搬ノ爲メ彈庫口
 ノ附近ニ至リ偶夫ノ爆發ニ遇ヒ全身粉塵セラレシカ若ハ砲門等ヨリ海中ニ
 抛擲セラレシ者ナルヘク七番砲側ニ於テハ一彈丸ノ爆發セル者アリシナレ

ハ其如何ヲ確言シ難キモ恐クハ九番砲ノ者ト同様ノ運命ニ遭遇セシ者ナラ
 ン此ノ他ニモ亦粉塵創ト記セルモノ、中砲門等ヨリ海中ニ跳子飛サレシモ
 ノアランモ亦知ルヘカラス軍艦比叡ニ於テ生セシ粉塵創ハ全身ト下半身ト
 ノ二症ナリ同艦ニ於テモ亦三十珊米半ノ彈丸挿圖ニ示セルカ如ク右舷後方
 ノ下甲板ニ於ケル艦長寢室ニ當ル部ヨリ穿徹シ來リ當時負傷者治療所ニ應
 用セル士官公室ニ入り鐵製ノ後檣根ヲ擊破シテ爆裂シ其彈片及鐵檣片ノ飛
 散セシハ固ヨリ食卓椅子治療用器械及器具等室内ニ在ルモノハ悉ク破壊セ
 ラレテ飛散シ室ノ障壁モ殆ト全ク破壊セラレテ火災ヲ起セシモノナリ後諸
 所ヨリ拾集シ得タル外科器ヲ見ルニ元形ヲ存セルモノハ一モ之ナク或ハ數
 片ニ折斷セラレシモノアリ或ハ彎屈セルモノアリ探子ノ如キモノハ蛇行狀
 ニ甚シク彎屈セリ殊ニ奇ナリシハ腹部挫斷創ヲ負ヒシ者ノ佩用セル長劍ノ
 螺旋狀ニ彎曲セルモノナリシ此ノ爆發ノ際生セシ所ノ死傷者ハ合計四十名
 ニシテ内十四名ハ即死シ一名ハ即日死亡シ一名ハ四日後ニ死亡シ一名ハ十
 五日後ニ死亡シ一名ハ十七日後ニ死亡セリ挿圖ノ黑點ハ下甲板ニ於ケル死
 傷者ノ位置ヲ示セルモノニシテ粉塵創ノ外ハ孰レモ已ニ各創類ニ於テ例舉

軍艦比叡下甲板、三十珊米半砲彈爆裂ノ圖



セルモノナレトモ更ニ茲ニ之ヲ解説セハ彈丸爆裂ノ及ホス傷害ノ影響ヲ視
 フニ便ナルヲ以テ重子テ其創況ヲ記センニ砲彈ノ爆裂セル士官公室ニ在リ
 タルモノハ軍醫二名治療ヲ補助セル主計一名看護三名負傷者三名傷者運搬
 手四名合シテ十三名ニシテ即チ黒點ノ(ホ)ハ腹部挫斷創ヲ受ケ(ヘ)ハ腰部骨折
 貫通創ヲ受ケ(ト)ハ下半身粉塵創ヲ受ケ(チ)ハ胸腹部半挫斷創ヲ受ケ(ル)ハ全身
 粉塵創ヲ受ケ(ヲ)ハ腹部挫斷創ヲ受ケ(カ)ハ身體諸部擣裂創ト火傷トヲ負ヒ(ヨ)
 ハ左大腿及右下腿挫斷創ヲ負ヒ(タ)ハ顔面及頭蓋底骨折擣創ヲ負ヒタル者ニ
 シテ以上九名ハ孰レモ即死シタルモノナリ已ニ述ヘタルコトアルカ如ク即
 死者ニ就テハ唯其死因ト認メタル主要ノ創傷ノミヲ記載シタル者多ケレハ
 實際茲ニ記セル創名ノ外ニ他ノ創傷ヲ兼子存セシモノ少カラサルナリ(リ)ハ
 此ノ前已ニ手部ノ挫斷創ヲ負ヒ手術臺ニ應用セル大食卓ノ上ニ在リテ受療
 中ナリシ者ニシテ此ノ際重子テ右大腿上部ノ骨折大貫通創ト臀部ヨリ下肢ニ互
 ル火傷トヲ負ヒ數日後ニ至リ外傷性譫妄症ヲ發シ遂ニ十五日後ニ死亡セリ
 (ヌ)ハ手術臺ニ應用セル大食卓ノ右端ニ上リ傷者ニ繃帶ヲ施サントスル際ニ
 爆發ノ激動ニ觸レ數尺外ノ下甲板上ニ跳子飛サレ右踝關節脱臼ト外踝部ノ

骨折トヲ起シ面部手部ニ火傷ヲ負ヒ兩耳ノ鼓膜破裂セリ然レモ幸ニシテ彈片若ハ鐵木片ノ打撃ヲ免レタルヲ以テ生命ヲ全フシ治癒後歩行力ハ充分恢復セサルモ尙服役シ得ルニ至レリ(ワ)ハ右下腿上部ノ骨折擣創ト頭面部及右大腿ニ數個ノ擣創ト左膝蓋ノ直上部ニ大擣裂創ト全顔面ニ火傷ヲ負ヒ且ツ病歴ニハ記載ナキモ兩耳ノ鼓膜破裂アリシモノナリ後外傷性譫妄症ヲ發シ四日後ニ死亡セリ(レ)ハ頭部頸部胸部及上下肢ニ火傷ヲ蒙リ兩耳ノ鼓膜破裂ヲ來シ後火傷ハ治癒シ兩耳ノ聽力次第ニ恢復セシモ精神痴呆狀トナリ免役セラレタリ以上四名ハ砲彈ノ爆裂セル室内ニ在リテ即死ヲ免レタルモノナレモ内二名ハ創傷重大ニシテ後執レモ外傷性譫妄症ヲ發シ遂ニ死亡シ一名ハ精神變調シテ痴呆狀トナリ免役セラレ唯一名ノミ其位置爆裂點ヨリ側後方ニ偏セシニ依リ負傷シタルモ彈鐵片ノ大打撃ヲ免レタルヲ以テ治癒スルヲ得タリ然レハ砲彈ノ爆裂セル室内ニ在リシ者十三名中九人ハ即死シ二人ハ負傷後死亡シ一人ハ負ヘル所ノ創傷治癒セシモ免役セラレ唯一人ノ再ヒ服役シ得ルモノアルノミ而シテ即死シタルモノハ主要ノ創名ノミヲ記シタルモノナレハ詳カナラサルモ即死セサル四人ハ孰レモ火傷ヲ負ヒ其内三人

ハ兩耳ノ鼓膜破裂ヲ兼テ抑砲彈爆發ノ近部ニ於テハ勢力烈シキ彈片及鐵木片ノ中撃ニ因スル創傷ノ外ニ炸藥瓦斯ノ飛動力及火氣ニ因リ斯ノ如キ創傷ヲ併發スルハ理ノ親易キ所ニシテ又四人ノ内二人ハ外傷性譫妄症ヲ發シ一人ハ精神痴呆トナレリ是レ爆發ノ及ホス感作ニシテ痛ク神經系統ヲ震害スルニ因ルナリ爆發ニ觸ル、カ爲メ斯ノ如キコト往々之レアルハ經驗家ノ已ニ識認スル所ナリ

下甲板第四區即チ砲彈爆發室ノ前方ニ當ル隣室ニ於テ死傷セルモノハ八名ニシテ黑點(ソ)ハ左右大腿部ヲ挫斷セラレテ即死シ(ツ)ハ顔面頭蓋底及上下肢ノ骨折大擣創ヲ負ヒ即死シ(子)ハ右大腿ノ骨折大擣創ト右上膊及胸部ニ大擣創ヲ負ヒ即死シ(ナ)ハ左大腿盲孔創ト右中指挫斷ト右示指環指ノ擣創ト左下腿ノ擦過創トヲ負ヘル者ニシテ後治癒セルモ右中指ヲ失シ示指環指ノ運動モ亦充分恢復セサルニ由リ受療四百五十九日ノ後免役セラレ(ラ)ハ右前膊ノ溝狀創ヲ負ヒ三十七日ニシテ治癒シ(ム)ハ頭皮擦過創ヲ負ヒ三日ニシテ治癒シ(ウ)ハ木片ノ爲メ右拇指擣創ヲ負ヒ二週間ニシテ治癒シ(非)ハ右拇指擣創ヲ負ヒ三十二日ニシテ治癒セリ即チ八名中四名ハ爆發室ニ近接シ破裂彈片ノ衝

路ニ當レルヲ以テ挫斷創或ハ大擣裂創ヲ負フテ三名ハ即死シ一名ノミ生命ニ恙ナキヲ得タルモ久シク受療ノ後免役セラレ餘ノ四名ハ其位置爆發室ニ稍遠サカリシカ或ハ右舷側ニ在リシヲ以テ輕症ヲ負フニ止マレリ而シテ此ノ第四區ニ於テハ炸藥瓦斯及火氣ノ害力ハ已ニ著シカラサルニ至レルヲ以テ火傷若ハ鼓膜破裂ヲ負ヒタルモノナカリシ此ノ他ニ同區内ニ在リテ全ク負傷ヲ免レタルモノモ之レアルナリ

第三區ニ於テハ左側ノ第四區ニ通スル入口ニ在リシモノ、ミ負傷シ即死者及負傷後ノ死亡者之レナクシテ(ノ)ハ右上膊及前膊ノ骨折盲孔創ヲ負ヒ受療百七十日ノ後全治シ(オ)ハ右胸部ニ小擣傷ヲ負ヒ三日ニシテ治癒シ(ク)ハ右顛顛部ノ擣創ヲ負ヒ二十三日ニシテ治癒セリ右三名ノ負傷者中(ノ)ハ第四區ニ於ケル(ウ)等ヨリ反テ重キ創傷ヲ負ヒタルモノナリ是レ彈片ノ直行シ來リ未タ多ク其勢力ヲ失墜セサルモノニ擊タレタルニ由ルモノナルヘクシテ蓋シ偶然ナラン

爆發室ノ後ニ隣スル艦長公室ニ於テハ破摧セラレタル木片飛散ト火災トノ爲メ四名ノ負傷者ヲ出セリ(イ)ハ前頭部ノ骨折擣創ト顛部ノ火傷トヲ負ヒ左

眼網膜出血ヲ起シ受療百四十日ノ後視力全復セスシテ免役セラレ(ロ)ハ右耳翼ニ擦過創ヲ負ヒ四日ニシテ治癒シ(ハ)ハ右下腿腓骨骨折擣傷ト右前膊ノ擣傷トヲ負ヒ三十八日ニシテ治癒シ(ニ)ハ左薦腸關節間ニ大木片ノ楔入セル爲メ下半身麻痺ヲ來シ十七日ノ後遂ニ死亡セリ而シテ木片ニ因スル諸創傷中此ノ(ニ)ヲ以テ最モ重大ナルモノトス

以上ハ下甲板ニ於ケル死傷者ニシテ他ニ爆發室ノ床下ニ當ル機砲彈庫ノ近部ニ於テ死傷セシモノ六人アリ是レ爆發室ノ床底破壊セラレ彈片及他ノ介達彈飛下シタルニ因セシモノニシテ二人ハ頭部ヲ挫斷セラレテ即死シ一人ハ頭部ニ穿入創ヲ負ヒ即日死亡シ他ノ三人ハ頭部胸部及上膊部ノ負傷ニシテ輕症ナリシ又爆發室ノ上ニ當ル「クォートル、デキ」及艦橋上ニ於テ負傷セルモノ六人アリ内三人ハ爆發ノ爲ニ生セシ激動ニ由リテ身體ヲ跳子飛サレシカ爲メ負傷シ一人ハ同シク激動ニ由リテ天窗スカイライトヨリ下甲板ニ跳子落サレ火災ノ爲ニ火傷シ二人ハ天窗ヨリ飛出セシ彈片ニ因スルモノニシテ内一人ノ創内ニハ蕎麥殼ヲ存セリ又天窗ノ側ニ立チシモノハ瓦斯力ノ爲メ衣服ヲ寸斷セラレタルモノアリシ

第七 火傷及湯潑傷

(乾) 火傷ハ重モニ軍艦松嶋ニ於テ生セシモノニ夫ノ三十珊米半ノ彈丸破裂シ且ツ多數ノ藥莢ヲ爆發セシメタル際ニ五十九名ヲ生シ此ノ他ニ彈丸爆裂ノ爲メ四名ヲ生シ軍艦比叡ニ於テハ三十珊米半ノ彈丸爆裂及火災ノ爲メ七名ヲ生シ軍艦嚴嶋ト橋立ト吉野トニ於テハ砲丸爆裂ノ爲メ各三名ヲ生シ軍艦浪速ニ於テハ自砲發射ノ火氣ニ由リ三名ヲ生シ合計七十八名ノ火傷者アリ軍艦松嶋ニ於ケル火傷者五十九名中重大ニシテ死亡セシ者ハ二十五名アリテ其内一名ハ全ク火傷ノ爲ニ即死シ二名ハ四肢粉壘創ト胸部挫斷創トニ併發セル爲メ即死シ十八名ハ負傷後三日ヲ出テ未タ入院スルノ暇ナクシテ死亡シ四名ハ入院後ニ死亡セリ(但シ内一名ノ死因ハ腹部穿入創トス)軍艦嚴嶋ニ於ケル三名中ノ二名ハ胸部ノ貫通創ニ合併セルモノニシテ即死シ軍艦比叡ニ於ケル七名中一名ハ全身諸部ノ擣創ニ併發シタルモノニシテ即死シ二名ハ他ノ重大擣創ニ併發シタルモノニシテ入院前ト入院後トニ死亡セリ右即死者及負傷後死亡者ヲ合スレハ三十名ニシテ内即死者ハ六名ナレ

此單ニ火傷ノ爲ニ即死セシハ一名トシ他ハ重大創傷ヲ兼テ負フカ爲メ即死セシモノナリ負傷後死亡セシモノハ二十四名ニシテ其内單ニ火傷ノミヲ負ヒタルモノハ十六名トス又負傷後死亡二十四名ノ内四名ハ入院後ニ死亡シタルモノナレ其餘ハ盡ク入院前ニ死亡セシモノトス其火傷ハ甚タ廣クシテ顔部頸部手部ノ如キ裸露部ハ固トヨリ衣服ニ被ハル、部モ衣服ニ着火セシ爲メ燒爛セラレシモノ多シ其火傷ノ度ハ概シテ淺カリシモ間衣服ニ被ハレシ部ニ在リテハ深キ所アルヲ見タリ而シテ火傷部ハ一般ニ硝煙ノ附着セシト且ツ處々ニ未燃火藥末ノ糝人シアルカ爲メ變黑シ毛髮ノ如キハ燒縮セルヲ認メタリ而シテ多クハ震盪症狀著クシテ速ニ虛脱シ負傷當日ニ死亡セシモノ十名翌日ニ至リ死亡セシモノ五名ニシテ第三日目ニ死亡セシモノ四名アリ其震盪ヨリ反應期ニ遷リシモノハ體温著ク昇リ頻リニ疼痛煩渴ヲ訴ヘ煩悶呻吟シ間外傷性譫妄ノ症狀ヲ呈シタルモノアリタリシ是等多數ノ傷者ヲ一時ニ艦内ニ於テ治療スルノ困難殆ト言詞ノ外ニシテ軍醫看護ノ如キ夜ヲ以テ日ニ繼キ裝創ニ從事セシモ尙足ラサルヲ感シタルモノニシテ負傷者病歴ノ如キハ細記スルノ暇ナカリシヲ以テ各火傷者ノ症狀ハ詳カナラ

サルモ概シテ前記ノ如クナリシハ當該軍醫ノ語ル所ナリ又火傷者ニシテ入院セシモノハ合計四十三名アリ然レモ其内十一名ハ火傷輕クシテ他ノ創傷重キカ爲メ入院セルモノニシテ單ニ火傷ノミヲ負ヘルカ或ハ他ニ創傷ヲ兼子負ヘルモ其創傷輕クシテ火傷重キ者ハ三十二名トス其三十二名ニ就キ當時佐世保鎮守府病院ニ於テ入院負傷者ノ治療ニ從事セシ海軍軍醫少監鶴田鹿吉ノ報告アリ其症狀ノ概要ヲ窺フニ足ルヲ以テ左ニ其一節ヲ摘録スヘシ

(火傷ノ部) 入院火傷者ノ狀況ハ面積ニ廣狹ノ差コソアレ其他ハ大同小異ナルニ由リ逐一記載スルコトヲ止メテ初メニ其部位轉歸ヲ列記シ終リニ其外見徵候等ヲ一括シテ記載ス

- (1) 頭部、面部、兩肩胛、兩上肢、左膝、左下腿中部ノ火傷○二十七年十二月二十一日全治
- (2) 面部、兩前膊、兩下腿ノ火傷○同年十二月二十二日全治
- (3) 頭部、面部、左上肢、右前膊、右手背、兩臀部、兩下腿ノ火傷○同年九月二十三日死亡
- (4) 面部、背部、腹部、右上肢、左前膊、兩下腿ノ火傷○同年九月二十三日死亡
- (5) 面部、頸部、左前膊以下、左大腿下腿及膝ノ外側、全足背、右大腿前外側、全下腿外側ノ火傷○二十八年四月九日輕快退院、爾後左手指瘰癧收縮ノ爲メ再入院、同年九月五日免役セララル
- (6) 面部、頸部、兩前膊以下ノ火傷○二十七年十月二十二日全治
- (7) 面部、兩上肢ノ火傷○同年十月十一日全治
- (8) 面部、左前膊中央以下、右前膊ノ火傷○同年十月十二日全治

- (9) 面部、頸部、右上膊以下、左前膊以下、右臀部、全股部ノ火傷兼左下腿皮下貫通創○火傷瘰癧ノ爲メ頸兩上肢ノ運營ヲ妨ゲラレタルヲ以テ二十八年三月十六日免役
- (10) 右上肢、右臀部ノ火傷○二十七年十月十一日全治
- (11) 面部、兩前膊、右下腿ノ火傷兼右踝關節拉傷○同年十二月十五日全治
- (12) 頭部、面部、頸部、右上膊中央以下、左肘關節以下、左大腿、右下肢ノ火傷○火傷瘰癧ノ爲メ右手指ノ運動妨ゲラレタルヲ以テ二十八年三月十七日免役
- (13) 面部、頸部、左上膊下端以下、右前膊、全手背、兩下腿ノ火傷兼上膊裂創○同年二月二十一日輕快退院
- (14) 頭部、面部、頸部、右胸、背部、右上肢、左前膊、全手背、右臀部以下、右下肢、左大腿ノ火傷○二十七年九月二十九日死亡
- (15) 面部、兩前膊以下ノ火傷兼左拇指球部貫通創○吳鎮守府病院ニ轉療後、同年十二月十六日全治
- (16) 面部、兩前膊、左下腿前外側ノ火傷○同年十月十二日全治
- (17) 面部、頸部、兩前膊ノ火傷○同年十一月五日全治
- (18) 面部、頸部、項部、左臀以下、右大腿ノ火傷兼左示指複雜骨折○火傷ハ治シタルモ左示指ヲ失ヒタルニ因リ、二十八年三月十六日免役
- (19) 頭部、面部、背部、兩上肢、兩臀部以下ノ火傷○三十年一月二十二日四肢運動不全ノ爲メ免役セララル
- (20) 面部、背部、右上肢、兩下腿ノ火傷○二十七年十一月十一日全治
- (21) 面部、胸前部、下腹部、右上肢ノ火傷○同年十一月十一日全治
- (22) 背部ノ火傷○同年十月五日全治
- (23) 面部、背部、兩上肢ノ火傷○同年十月十一日全治

- (24) 面部ノ火傷兼左季肋部擗傷○同年十月十日全治
 - (25) 頭部面部右肩胛部兩上腓下部兩下腿下部ノ火傷○二十八年四月九日輕快退院
 - (26) 面部右前腓下端以下ノ火傷兼兩踝關節拉傷○火傷ハ治シタルモ踝關節ニ障礙ヲ殘スヲ以テ同年六月六日免役
 - (27) 右下腿ノ火傷兼左踝關節拉傷○二十七年十二月三十日全治
 - (28) 頭部面部兩前腓ノ火傷兼右踝關節拉傷兩耳鼓膜破裂○吳鎮守府病院ニ轉療ノ後同年十二月二十一日全治
 - (29) 面部左胸部左上肢左下肢ノ火傷兼兩耳鼓膜破裂○吳鎮守府病院ニ轉療ノ後火傷ハ治シタルモ鼓膜穿孔ノ爲ニ兩耳ノ聽覺遲鈍トナリタルニ因リ二十八年四月十八日免役
 - (30) 面部項部右前腓ノ火傷○吳鎮守府病院ニ轉療ノ後二十七年十一月五日全治
 - (31) 右下腿下部全足部ノ火傷○吳鎮守府病院ニ轉療ノ後同年十月二十四日全治
 - (32) 面部兩手兩下腿ノ火傷○同年十月十六日全治
- 火傷ノ原因及部位 以上三十二人ノ火傷患者中二十八人ハ軍艦松島ニ於テ全一ノ原因即チ火藥ノ爆發ニ觸レテ負傷シ二人ハ軍艦吉野ニ於テ敵彈ノ爆發セル際ニ二人ハ軍艦比叡ノ火災ニ罹リシ際負傷セリ火傷ノ部位ハ前ニ示スガ如ク面部及上下肢ノ曝露セル所ニ多クシテ軀幹等ノ衣服ニ保護セラレタル所ニ少シ蓋シ火傷ノ原因多クハ一瞬時ニシテ消滅シ衣服ヲ燃燒スルニ至ラザリシニ由ルヘク且被服燃燒シテ重症ノ火傷ニ罹リタル者ハ入院前已ニ死亡シタルナラン而シテ負傷者ハ當時フランネル襦袢ヲ着シスボン下及足袋ヲ穿テ居タリト云フ
- 火傷ノ廣狹及深淺 火傷ノ面積ハ之ヲ精細ニ計算スルコト甚タ困難ナレモ其身體各部ニ互リテ

凡ソ全身三分ノ二以上ニ及ヘル者ハ前項所掲ノ第三號第四號及第十四號ノ三人、全身三分ノ一以上ニ及ヘル者ハ第十九號ノ一人ニシテ其他ノモノハ皆全身三分ノ一以下トス又火傷ノ深淺ハ其面ノ廣キ割リニハ淺クシテ多クハ一度及二度ノモノナリシカ前記四人ノ者ニ在リテハ一二ノ部分ニ於テ第三度ニ及ヒタル所アリ而シテ第十四號患者ノ右手ノ如キハ全ク壞疽ニ陥リタリ

火傷部ノ外觀 松島ノ火傷者ハ戰後第四日ニ比叡ノ者ハ第五日ニ吉野ノ者ハ第十日ニ入院セリ其初メテ入院スルヤ重キ者ハ面貌暗黒頭髮燒縮シ頭部及面部ニハ間隙モナク帶黃黑色ノ痂皮ヲ被リ眼閉チ鼻塞カリ耳腫レ口亦充分ニ開キ得ス一見其誰タルヤヲ認ムル能ハス實ニ慘狀ヲ極メリ稍輕キ者モ面色暗赤眼白血走リテ亦一種異様ノ狀貌ヲ呈セリ而シテ四肢軀幹ハ單ニ發赤スルニ止マル部アリ或ハ發泡シテ表皮處々剝離セル部アリテ其水泡ヲ生セル部ハ疱内ニ滲溜セル滲出液ノ性狀ニ應シテ灰白色若クハ暗赤色其他種々ノ色彩ヲ呈シ其表皮剝脫シテ眞皮露出セル部ハ滑澤ニシテ淡紅ナルアリ顆粒狀ニシテ暗赤色ナルアリ又稀ニハ已ニ腐肉トナリテ暗黑色若クハ蒼白膿様色ヲ呈スル等火傷ノ輕重及部位ノ異ナルニ從テ其狀况一様ナラザリキ

次テ入院後一週内外ノ後ニハ乾涸セル痂皮死敗セル表皮漸々剝落シ眞皮露出シタルカ爲ニ相貌外見全ク一變シ曩ニ暗黒ナリシ顔面ハ漸ク蒼白トナリ或ハ淡紅トナリ或ハ純白中處々紅點血溢ヲ現シ耳目鼻口モ亦開通スルニ至レリ但シ輕症者ノ面貌ハ此時期ニ至テモ悉シキ變化ナカリキ而シテ火傷ノ治癒ニ向フヤ面貌又再變セリ即チ滲膿期ニ於テ蒼白若クハ純白ナリシモノハ漸淡褐トナリ次テ暗褐トナリ又紅ヲ潮セシモノハ徐々ニ暗赤色ニ變化セリ但シ火傷ノ輕重及體質ニ由リテ同一ノ變色ニモ濃淡ノ差アリ四肢ニ在テハ重キハ滑澤ニシテ波紋狀ヲナセル特異ノ瘡痕ヲ貽シ或ハ隆起セル暗赤色ノ「キーロイド」瘡痕ヲ成形セルモノアルモ輕キハ單ニ淡褐色ニ變セル火傷痕ヲ印スニ過キス

瘰癧及畸形 著大ナル瘰癧ト多少ノ畸形ヲ貽セル者ハ四人ニシテ内一人^{第五}ハ左手指ノ瘰癧ノ爲メ把握作用ヲ妨ケラレ一人^{第十}ハ兩耳翼ノ大半ヲ失ヒ右手背ニ深キ瘰癧ヲ貽シ、爲メ各指ノ伸筋脆癒着シテ五指強剛シ一人^{第十一}ハ兩耳翼ヲ殆ト缺損シ上下肢ニ著大ナル瘰癧ヲ貽シ一人^{第九}ハ各火傷部ニ顯著ナル「キーロイド」瘰癧ヲ成形シタルカ爲ニ指屈シ頸傾キ口歪ミテ最モ憫ムヘクシテ而カモ救治スヘカラサル醜貌及畸形ヲ貽シタリ

合併症 火傷者中外傷性譫妄狀ノ腦症ヲ發シタル者二人氣管支加答兒ヲ發シタル者五六人外耳道炎及結膜炎ハ其數明カナラサレモ頭部及面部ニ火傷ヲ負ヒタル者ニシテ此炎症ヲ併發セザリシ者ハ殆ト之レナカリキ腸潰瘍及腎炎ヲ合併シタル者ハ絶無ナリシガ如シ
火傷者ノ死狀 入院火傷者中死亡セルモノニ於ケル死前ノ症狀ハ孰レモ殆ト同様ニシテ概畧左ノ如シ

體温ハ三十九度乃至其以上ニ暴騰シ大渴引飲脈搏頻數トナリ神氣興奮シ或ハ譫語ヲ放チ或ハ號叫放歌シ而カモ精神ハ尙正確ニシテ視聽ノ辨識又ハ言語應答ヲ過タス然ルニ其死ニ瀕スルヤ恰モ頓死狀態ニシテ卒カニ精神昏愦シテ無言トナリ之ヲ喚起シ或ハ刺戟スルモ反應ナク心動幽微脈搏絶止シ呼吸緩徐トナリテ吸氣淺表呼氣延長シ而ル後心動先ツ絶エ次テ呼吸歇ミ死亡セルモノニシテ其症狀ノ變化極メテ速カナリシ

凡ソ創傷ニシテ疼痛ヲ伴ハサルハ固ヨリ之ナシト雖火傷ノ如ク苦痛ノ大ナルモノ恐クハ之ナカラシ火傷者ノ多クハ苦痛ノ爲メ呻吟號叫シ徹霄眠ラサルモノアリ殊ニ其ドレツシグヲ交換スル時ノ如キハ至盡ノ注意ヲ加ヘ極メテ丁寧ニ扱フニモ拘ハラヌ其苦痛ノ狀酸鼻スヘキモノアリ其火傷面廣大ニシテ一回ノ治療ニ三四時間^{假令一二部ヲ數回ニテ治療スルニモセヨ}要スル者ノ如キニ在リテハ其間ノ

困難實ニ名狀シ難キモノアリ故ニ一ノ洗淨ヲ終レハ厚ク裝創物ヲ貼附シ可成交換ノ度數ヲ少クセント企テタレモ時恰モ温熱ノ候ナリシヲ以テ一日モ之ヲ忽ニスルトキハ創面ニ蠅蛆ヲ發生スル如キコトアリテ實ニ困難ヲ極メタリ夫レ砲創ハ慘ナリ然レモ火傷ハ砲創中ノ最モ慘ナルモノナランカ火傷者ノ入院セル當時ヲ追想スレハ今尙吾人ノ心ヲ寒カラシムルモノアリトス

(坤) 湯潑傷八名アリ孰レモ九號水雷艇ニ於テ敵彈ノ爲メ滾罐ヲ破壊セラレ蒸氣及熱湯ニ觸レタルニ原因スルモノニシテ内四名ハ即死シ一名ハ即日死亡シ一名ハ翌日ニ至リ死亡シ孰レモ殆ト全身ニ湯潑傷ヲ蒙レルモノナリ其治癒セシハ僅ニ二名ニシテ内一名ハ顔面兩手部及兩下腿ニ湯潑傷ヲ負ヒ八十餘日ニシテ全治シ他ノ一名ハ右下腿ニ湯潑傷ヲ負ヒ一週間ニシテ全治セシモノナリ

第八 鼓膜破裂

砲丸近部ニ來テ爆發シ其瓦斯ノ衝力ニ觸ル、ニ因スルモノ五名アリ内三名ハ兩耳ニ一名ハ偏耳ニ鼓膜破裂ヲ起シ顔面ニ火傷ヲ兼テ子負ヘリ一名ハ偏耳ノ鼓膜破裂ニシテ火傷ヲ負ハサリシモ其着服ハ諸處寸斷セラレテ強キ瓦斯力ニ撃レタル證據ヲ存セリ爆發ノ瓦斯力ニ撃タレタル爲メ衣服ノ寸斷セラ

レタルハ他ニ亦其例アリ此ノ他爆發點ノ近部ニ在テ即死若クハ負傷後日ナ
ラス死亡セシ者ノ中ニハ鼓膜破裂症アリシモノ多カリシナラント察セラレ
又我カ大砲發射ノ際空氣ノ震動ニ因リ十一名火藥瓦斯ニ因リ一名鼓膜ノ破
裂ヲ來セリ其内兩耳ノ鼓膜破裂セルハ三名アルノミ

第五章 創傷ノ併發症

第一出血

擣傷以外ノ創傷ニシテ當初多少ノ出血ナキハ之レナカルヘクシテ畢竟第一
期出血及疼痛ノ如キハ創傷ニ必發ノ一徵候ト認ムヘキモノナレト便宜ノ爲
メ爰ニ之ヲ論スヘシ

(一)第一期出血 海戰ニ於テ生スル創傷ハ其原因タル物體ノ彈片鐵片若クハ

木片タルトヲ問ハス將タ創類ノ擣裂創侵徹創若クハ挫斷創タルヲ問ハス概
シテ受創當時ノ出血ハ比例的ニ少キヲ認メタリ是レ砲創ハ何レニスルモ組
織ヲ挫滅シ周圍ニ廣ク擣傷ヲ及ホスモノナルヲ以テ尿管組織モ毀傷セラレ
、ニハ常ニ其上下方ニ著シク擣傷ヲ受クルノミナラス又其裂斷セラレント
スルニ當テハ彈力アルカ爲メ伸展スルニ際シ脆弱ナル中層及内層ハ先ツ破
斷シ深ク内方ニ向ヒ卷縮シ後強靱ナル外層破斷シテ弛垂スルモノナレハ脉
管内凝血ノ發生ニ宜シク且ツ挫斷創大擣裂創ノ如キハ著シキ震盪症ヲ來ス
コト多クシテ心機ヲ弛廢セシメ愈凝血ノ發生ニ便ナラシムルヲ以テ出血ハ
少キモノナリ

戰役止ムノ後創傷其他衛生上ノ事ニ就キ百ノ問題ヲ發シ軍醫ノ答案ヲ徵セ
シニ砲創ニ伴フ出血ノ項ニ對シテ其答フル所左ノ如シ

一比較的輕少ナリ

軍醫少監 山本景行

一比較的少シ然レモ四肢ノ大ナル動脈ヲ損傷スルトキハ此ノ限リニアラス

大軍醫 鈴木重治

一下顎骨ヲ粉碎セル銃創ヲ實驗セシカ顔面動脈ヲ毀傷セルモ出血ナシ大軍醫 齋藤有記

一截創刺創等ニ比スレハ比較的出血少シ 軍醫少監 鈴木重道

- 一 大ナル尿管損傷セラレ、ニアラサレハ出血ノ爲メ斃ル、カ如キモノナカラシ
 - 一 出血少シ
 - 一 比較的少キヲ認ム
 - 一 同
 - 一 比較的少量ナリ
 - 一 比較的甚タ少量ニシテ血液ノ迸出スルカ如キモノ絶エテナカリシ
 - 一 出血少ク殆ト止血法ヲ要セス然レモ後出血ハ生シ易シ
 - 一 負傷當時ノ出血ハ比較的少ク治療所ニ來リシハ自然ニ止血セルモノ多シ是レ畢竟不正ノ斷裂創若クハ擣裂創ナルカ爲メト震盪ニ因リ心臟機能ヲ衰弱セシムルカ爲メナラン救急的ノ止血法ハ其必要少シトス
 - 一 何レノ創傷ニ於テモ出血ハ甚タ輕少ナリシ
 - 一 出血ハ比較的少量ナリ
 - 一 出血實ニ少シ殆ト涓滴ガモ見ザルモノアリシ
 - 一 創面ノ出血比較的少量ニシテ尿管ノ發見ニ苦メリ
 - 一 速力強キ彈片ニ撃タレ截創狀ヲナスモノハ出血甚タシ速力緩ナル彈片ニ撃タレ挫斷創狀ヲナスモノハ出血少シ
 - 一 烟突ノ彈片ニ因スル挫斷創ニ於テ出血殊ニ僅少ナルヲ認メ其治療所ニ來ルモノニ於テハ殆ト全ク止血セリ其他ノ創傷ニ於テモ出血ハ比例的少シ
- 大軍醫 藤田 甫
 - 大軍醫 小谷野格治
 - 大軍醫 牧 虎文
 - 少軍醫 山科 巖
 - 大軍醫 草野復人
 - 大軍醫 荻澤貫一
 - 大軍醫 天寺祐齋
 - 大軍醫 山下 晋
 - 少軍醫 望月開作
 - 大軍醫 山崎兵四郎
 - 大軍醫 關 文之助
 - 少軍醫 鹿野寅吉
 - 大軍醫 壹岐幸存
 - 大軍醫 中尾太一郎

- 一 大ナル尿管ノ損傷セラレタル症ヲ實驗セサレモ創面ノ出血ハ比較的甚タ少クシテ他ノ鈍體ノ壓襪ニ因スル擣裂創ト同様ナリ
 - 一 砲創ハ組織ヲ挫滅挫裂若クハ挫斷スルモノナレハ他ノ創傷ニ比シ出血多カラス
 - 一 兩大腿挫斷創及兩下腿挫斷創ニ於テ出血甚シキヲ見タリ其他ノ創傷ニ於テハ比較的少カリシ
 - 一 比較的少量ナリ
 - 一 下顎骨粉碎セラレ顔面動脈斷裂セラレタル者ヲ見タルニ殆ト一滴ノ出血タモナカリシ
 - 一 出血迸出スルカ如キモノヲ實驗セサリシ孰レモ自然ニ止血シ後數時間ヲ經テ裝創物ヲ染汚スル如キ浸潤性ノ出血ハ多カリシ
 - 一 砲丸ノ爲メ前膊下端ヲ挫斷セラレ火傷ヲ負ヒタル者ト前膊ニ擣裂創ヲ蒙リ尺骨ノ一部ヲ折傷シ且ツ動脈ヲ毀傷セシ症ヲ實驗セシニ甲ニハ出血甚タ少クシテ乙ニハ出血多量ナリシ
 - 一 出血僅微ニシテ負傷者ノ治療所ニ來リシトキハ孰レモ自然ニ止血シ創内ヲ探檢スルニ當リ僅
 - 一 出血セシノミ
 - 一 出血甚シカラサリシ
 - 一 軍艦比叡ニ於テ負傷後既ニ十六時間餘ヲ經過セシモノヲ實驗セシニ創面ノ出血ハ驚クヘク微少ニシテ寧ロ出血ナシト謂フヲ得ヘキカ如ク想ハレタリ然レモ骨ノ折傷セラレタルモノニ在
- 軍醫少監 木村 壯介
 - 大軍醫 戸祭文造
 - 大軍醫 村上典表
 - 少軍醫 根來祐春
 - 大軍醫 外山 亢馬
 - 大軍醫 白 井 宏
 - 大軍醫 竹内直典
 - 大軍醫 淺野勝太郎
 - 少軍醫 藤井保太郎

テハ骨髓ヨリ出血ノ著シキモノアルヲ見タリ又重大ナル創傷ヲ負ヘルモノハ已ニ死亡シタル後チナリシヲ以テ其如何ヲ述ヘ難シ

少軍醫 吉村敬次郎
大軍醫 俵 綱次郎

一 負傷時ノ瞬間ニ出血シ速カニ止血スルモノ多シ
一 出血ハ極メテ少シ是レ尿管挫斷セラレカ爲メ直チニ凝血ヲ生成スルニ因ルナラン腕部ヲ挫斷セラレ僅ニ尺骨側ノ皮片ヲ以テ手部トノ連絡ヲ保チシ者病歴二六一號ニ截斷術ヲ行フニ際シ橈骨動脈及尺骨動脈ヲ探リ各動脈口ヨリ長サ數寸ノ固キ凝血柱ヲ引出スヲ得タリ

大軍醫 淺井勝之助
少軍醫 加賀美照太郎

一 出血ハ概シテ少キヲ認メタリ
夫レ斯ノ如ク各軍醫ノ經驗セシ所孰レモ出血ノ少キヲ表明セリ然レモ是レ其大概ヲ論セシモノニゾ各症皆一轍ニ出血少カリシニアラス第二章ノ病歴ニ於テ見ルカ如ク間出血ノ著シカリシヲ記セルモノアリ是レ重モニ尿管受創ノ景況如何ニ關スルモノニシテ尿管ノ全斷セラレタル際ニ於テハ前記ノ如キ理由ヲ以テ速カニ凝血ヲ形成シ出血少キモ尿管ヲ全斷スルニ至ラズ單ニ穿孔スルカ或ハ半斷スルトキハ其内中層ノ卷縮ヲ妨ケ凝血ヲ形成シ得スシテ出血多キハ能ク人ノ知ル所ナリ而シテ彈片鐵片ノ如キハ形狀不整ニシテ尖角銳緣ヲ有スルモノアレハ挫斷創ニ於ケルカ如ク尿管ヲ全斷シタルコト明カナルモノ以外ノ創傷ニ於テハ間尿管ヲ半斷シタルモノアリテ出血ノ

多キモノアルハ怪ムニ足ラズ然レモ挫斷創ノ爲メ即死セシ者ノ病歴中ニ間多量ノ出血アリト記セルモノアリ是必シモ軍醫ノ其血量ヲ親シク目撃シ其多量ナルヲ認メタルモノニ非ズ戰團中軍醫ハ治療所ニアリ即死者當初ノ現狀ヲ知ルヲ得サリシヲ以テ傍人ノ語ル所ヲ偶採録セシニ過キサルモノ多シ然レハ其出血ノ量比較的如何アリシヤ實際詳知シ難シトス但シ軍艦筑紫ニ於ケル兩大腿挫斷創(病歴二六四號)ト兩下腿挫斷創(病歴二九〇號)トハ軍醫自ラ其出血ノ多カリシヲ認メシモノナリ抑大腿ニ於ケルモノ、如キ大ナル動脈ハ縱令全斷セラレ、モ忽チニシテ止血ニ至ルカ如キ凝血ヲ發生シ得ルハ難カラシ若シ震盪症等ノ併發スルモノニ非サルニ於テハ恐クハ死ニ至ル迄出血スルコト多カラシ又其出血ハ暫時ニシテ止ミシトスルモ其出テタル量ハ頗ル多カルヘシ然レハ大腿挫斷創ノ如キニ於テハ當初出血ノ多キヲ認メシモ強チ破格ノ症ニアラストスヘシ下テ下腿ノ如キニ至ルモ尿管尙小ナラサレハ受創時ニ一時迸出スル血量ハ少カラサルヘシ又該二例ハ孰レモ砲丸全體ノ打撃ニ因スルモノニシテ猛烈ノ勢力ニ觸レタルモノナレハ彈片等ニ因スルモノニ比スルニ創況恰モ利刃ト鈍刀トノ截創ニ於ケルカ如キ差ズ

リテ以テ幾クカ其出血ニモ影響スル所アリシモノナラシカ兎ニ角兩例共ニ震盪症著シクシテ數分時内ニ死亡セシモノナレハ其出血ハ長ク持續シタルニアラサルコト明カナリ又軍艦扶桑ニ於ケル一例(病歴二九一號)ハ烟突斷片ノ爲メ右下腿中部ヲ挫斷セラレ且ツ左右上膊部ニ複雑骨折ヲ負ヒシモノナルモ其病歴ニ各部出血甚シク顔面蒼白脉搏微細ニシテ結代シ殆ト失神狀ヲナスト記セリ是レ鐵片ノ重力ニ由リ無理ニ組織ヲ裂壞セシモノナレハ震盪症著シクシテ顔面蒼白脉搏微弱ニシテ結代シ失神狀ヲナスハ當然トスベク然レハ出血ハ最モ少カルヘキナレモ其否ヲサリシハ怪ムヘキニ似タリ但シ鐵片若クハ彈片ト雖モ組織ヲ破ルニ常ニ必ス一様ノ器械的動作ヲナスヘキニハアラスシテ若シ其銳利ナル邊緣ヲ以テ銳ク脉管ヲ斷離スルカ或ハ前記セル如ク半斷スル際ニ於テハ出血自ラ多キコトアルヘク然レハ偶ニ創孔ヨリ出血ノ多キコトアルモ是レ自然ニシテ敢テ格外トスヘカラサルモ本例ハ記載ノ如ク果シテ各部ヨリ出血甚シカリシトスレハ右ノ理由ヲ以テ説明シ難ク然レハ蓋シ負傷者稟賦ノ然ラシムルモノニシテ其失神セル如キハ出血ノ多カリシニ由來スルモノトスヘキ歟

砲創ハ概シテ銃創ノ如ク小創孔ヲ造ルモノニアラサレハ單ニ脉管ヲ傷ケタルカ爲メ死ヲ致セシモノト思考セラル、例甚タ少シ病歴一五四號ハ右大腿下三分ノ一部ノ内側ニ深キ擣創ヲ受ケ股動脈ヲ毀傷シ出血シ即時傷者運搬手壓抵物ヲ貼シ止血シテ治療所ニ來リ受療中更ニ砲彈ノ爆發ニ遇ヒ胸腹部ヲ挫壞セラレ即死ストアリテ動脈ノ毀傷セラレタル一例ナレモ出血ハ甚シカラサリシモノ、如ク若シ再度砲彈爆發ニ遇フノ不幸ナカリセハ死ヲ免カレタルモノナルヘシ又腹部穿入創ニシテ即死シタル者ノ内ニハ腹内ノ大ナル脉管ヲ傷ケ内部出血ノ爲メ死亡シタルモノニアラサルヤト疑ハル、症一ニ是レアリ然レモ實際之ヲ檢明シタルニアラス且ツ腹部穿入創ノ如キハ大出血ナキモ即死スルコト自ラ是レアルヘケレハ畢竟不明ニ屬ス然レハ之ヲ外ニシテ出血ノ爲メ死ニ至リシモノト思考セラル、ハ唯二例アリ一ハ病歴一二七號ニシテ彈片頸ノ前部ヨリ穿入シ氣管食道ヲ貫キ右頸動脈ヲ損傷シ多量ノ出血ヲ以テ即死ストアリ記録簡畧ニシテ創孔ノ大小頸椎傷害ノ有無等知ルニ由ナケレトモ記録ノ儘ニシテ斷案スルトキハ氣管食道ノ貫カレタル固トヨリ重篤ノ創傷ニシテ早晚死ヲ免レ得サルモノナルヘキモ若シ右頸

動脈ノ毀傷微リセハ恐クハ即死ハ免レタラン其多量ノ出血アリシハ兎ニ角
 死ヲ促スニ與リテカアルモノトスヘシ但シ頸動脈ノ損傷セラル、際ニハ迷
 走神經ノ如キモ併セテ毀傷セラル、コトアルモノナレハ是亦死ヲ速クノ一
 因タリシモ知ルヘカラス他ノ一ハ病歴一四三號ニシテ是レ全ク出血ノ爲ニ
 死セシモノナリ其創傷ハ左胸側ノ穿入創ニシテ第五第六肋骨ヲ破折シ出血
 甚シク血胸ヲ起シ翌朝死亡セシモノナリ他ニ下肢ノ盲孔創ヲ兼子タリト雖
 凡其創傷ハ重カラス且ツ前章ニ於テ已ニ論セシ如ク彈片ハ胸骨ヲ破折セシ
 ニ止マリ脱落シ去リテ胸内ニ入ラス其脈管ノ破レシハ破碎骨片ノ爲メ肋間
 動脈ノ破ラレシモノ、如シ好シ一步ヲ譲リ彈片ハ胸内ニ入りシモノトスル
 モ肺ヲ傷ケタル徵候ナケレハ胸膜腔内ニ落ちシモノトスヘシ然レハ急死ヲ
 來スカ如キ創傷ニアラスシテ其死ノ速カナリシハ全ク出血ニ基クモノトス
 ヘク若シ當時手術ヲ施シ動脈ヲ結紮スルヲ得タランニハ恐クハ其生命ヲ救
 ヒ得タルヘシ遺憾ニモ手術ヲ行フノ猶豫ナカリシハ當時ノ事情已ムヲ得サ
 リシナリ(次章ニ於テ之ヲ論ス)抑他部ノ砲創ニ於テハ已ニ論セシカ如ク脈管
 毀傷セラル、モ中等大以下ノモノナルトキハ出血多カラサルモノニシテ且

ツ裝創物ヲ貼シ繃帶ヲ施ストキハ自ラ止血スルコト殆ト常ナリ然レモ肋間
 動脈ノ毀傷セラル、コト前記ノ例ノ如クナルトキハ裝創物ヲ貼シ繃帶ヲ施
 スモ其壓迫作用ハ更ニ動脈ニ及ハス又動脈ヨリ出ル血液ハ胸膜腔内ニ流入
 シ他ノ組織内ニ於ケル動脈破レテ出血スレハ其血液組織内ニ滯溜シ次第ニ
 凝固シ來リテ以テ組織内壓ヲ増加シ脈管内凝血ノ發生ヲ促スカ如キ内壓作
 用ナカルヘキヲ以テ其死ニ至ル迄出血スルコトアルハ自然ナリ然レハ此ノ
 如キ症ニ於テハ時ヲ失セス結紮ヲ行フノ緊要ナルコト論ヲ俟タス

(二)第二期出血 砲創ハ何レノ原因ヨリ來ルモノモ組織ヲ破壊シ且ツ周圍組
 織ヲ挫傷スルモノニシテ創圍組織ニ腐肉層ヲ生スルコト多キハ前章ニ於テ
 論セシ所ナリ然レハ脈管ノ如キモ擣傷ヲ蒙リ初メ出血ナキモ腐肉ニ陥リ其
 腐肉ノ脫離スルニ及テ出血ヲ來スコト多カルヘキ理ナレモ今回ノ戰爭ニ於
 テハ不思議ニモ第二期出血殆ト皆無ナリシ入院後第二期出血アリシト稱シ
 得ヘキモノハ唯病歴二二五號ノ者アルノミニノ夜間睡眠中其顳額部ノ小創
 ヨリ出血シ其量ハ稍多キニ及ヒシモ捷手結紮ニ依リ止血シ大事ニ至ラザリ
 シナリ此ノ他入院負傷者中ニ第二期出血ヲ起セシモノ絶テナシ負傷ヨリ入

院ニ至ル時日ハ多クハ三日或ハ四日ノ間ナレハ入院前ニ之レアリシモノナ
カルヘク且ツ病歴ニ之ヲ記載シタルモノアルヲ見ス

第二 神經症

(一) 震盪症 砲創ハ何レノ原因ヨリ生スルモ組織内ノ侵徹ニ不利ナル物體ノ
無理ニ組織ヲ挫壞スルモノナレハ震盪症ヲ發スルコト理論上當ニ多カルヘ
キモノナリ然レモ各軍醫ニ發セル百ノ問題中震盪ノ項ニ對スル答案ハ左ノ
如クニシテ諸軍醫ノ經驗一樣ナラス

- 一 重傷者ニハ大抵震盪症狀アリ
- 一 負傷者精神ノ鼓舞セララル、ニ因スルモノカ震盪症狀比較的輕シ
- 一 負傷者ノ震盪症ヲ起シタルモノアルヲ見ス
- 一 負傷者中震盪症ヲ起シタル者ナシ
- 一 著シキ震盪症ヲ起セシ者多カリシ
- 一 比較的少シ
- 一 戰闘中ハ精神頗ル興奮シ重創ヲ負フモノト雖モ己ノ職務ヲ忘レス
- 一 精神ニハ毫モ變化ナク戰闘終リ諸事緒ニ就クニ及テ始メテ生力衰憊シ震盪症狀ヲ現ハスモノアリ

- 大軍醫 鈴木重治
- 大軍醫 鈴木重道
- 大軍醫 牧虎文
- 少軍醫 山科巖
- 大軍醫 秋澤貫一
- 大軍醫 天寺祐齋
- 少軍醫 望月開作

- 一 震盪症ハ比較的劇烈ナリ
- 一 震盪症ヲ起セシモノ殆トナカリシ
- 一 挫斷創ヲ負ヘル者ニモ震盪症ヲ發セシモノアルヲ見ス
- 一 震盪症ハ比較的著シキヲ例トス然レモ腹部ノ大貫通創ヲ負ヘル者ニシテ毫モ震盪症狀ナキモノアリシ
- 一 下肢ノ挫斷創ヲ負ヘル者ニ名ニ震盪症著シキヲ見タリ殊ニ兩大腿ヲ挫斷セラレシ者ニハ最も甚シカリシ
- 一 震盪症ハ比較的強シ
- 一 戰闘中ハ精神亢奮シ負傷スルモ苦痛ヲ感セス尙其職務ニ從事スルモノアリ然レモ之ニ反シ創傷重大ナラサルモ震盪症ヲ現ハスモノアリ即チ胸壁ノ盲孔創ニシテ彈丸肋骨ニ籍留セルモノト胸壁前面ニ擣創ヲ負ヘル者ト肘關節前面ニ擣創ヲ負ヒ損傷關節ニ及ハサル者トニ較強劇ナル震盪症ヲ發セリ此ノ負傷者ハ平素酒ヲ嗜マス性質沈着ノモノナリシ
- 一 上肢ノ骨折擣創ニ名ヲ見タルニ震盪症ハ著シカラス
- 一 大腿ノ貫通創ニ胸部ノ擣傷ヲ兼テ略血ヲ來シタル者ニ震盪症ヲ起シ十五分時間許ニシテ反應ヲ呈セリ其他ニハ震盪症ヲ經驗セス
- 一 軍艦比叡ノ負傷者ニ徵スルニ震盪症著シキモノ頗ル多カリシ
- 一 全身震盪症ハナカリシモ局部震盪症ハ著シキヲ認メリ
- 一 震盪症ハ比較的重シ

- 大軍醫 山崎兵四郎
- 大軍醫 山下晋
- 大軍醫 中尾太一郎
- 軍醫少監 木村壯介
- 大軍醫 村上典表
- 少軍醫 根來祐春
- 大軍醫 白井宏
- 大軍醫 竹内直與
- 大軍醫 淺野勝太郎
- 少軍醫 吉村敬次郎
- 大軍醫 中島彝雄
- 少軍醫 加賀美照太郎

一彈片創ニ震盪症ヲ起セシ者アルヲ見ス唯木片ニ因スル擣傷ヲ負ヘル者ニ失魂症ヲ發セシモノアリ

大軍醫 俵 鋼次郎

抑震盪症ノ有無強弱ハ創傷ノ性質及其位置ニ關係スルハ固トヨリニシテ又各人ノ稟賦ニモ關係シ且ツ負傷當時ノ狀況ニモ關係スルモノナレハ各艦軍醫ノ實驗スル所各同シカラサルハ怪ムニ足ラス而シテ創傷ノ性質ヨリ論スルトキハ海戰ニ於テ生スル創傷ノ如キハ他ノ創傷ニ比シ震盪症當ニ著シカルヘキモノナリ就中頭部胸部及腹部ノ創傷ノ如キ大震盪症ヲ起シ易キモノニシテ四肢ニ在リテモ挫斷創ノ如キハ震盪症著シカルヘキ者ナリ然レモ受傷時ノ狀況如何ニ關係スルカ故ニ常ニ必ス同様ナラス戰鬪中ニ於テハ精神甚シク激發セルカ爲メ重創死ニ瀕スルカ如キ者モ更ニ震盪症ヲ現ハサ、ルコトアルハ從來其例證多キ所ニシテ今回ノ戰爭ニ於テモ亦腹部ノ大貫通創若ハ四肢ノ挫斷創ニシテ死ニ至ル迄精神毫モ變セサルモノアリシ然レモ砲丸爆發ニ觸ル、者ノ如キハ彈片其他鐵木片ニ因スル創傷ノ大小ニハ關係セス爆發ノ激動ヲ全身ニ受ケ神經系統ヲ驚痺セシムルカ爲メ著シキ震盪症ヲ起スモノアリ軍艦松島及比叡ニ於ケル軍醫ノ經驗スル所震盪症ノ多キヲ認メ

タルハ畢竟之カ爲メナリ又松嶋ニ於テハ廣汎火傷ヲ負ヘルモノ甚タ多シ斯ノ如キ火傷者ニ震盪症ノ著シキハ已ニ能ク人ノ知ル所トス此ノ他各艦ニ於テ受傷時失神昏倒セルモノ往々之アリ病歴一三二號一三八號一三九號二〇三號二一一號二九一號三二四號等ノ如キニシテ其創傷ハ比例的輕小ナリシモノナリ是亦創傷ノ性質位置及受傷時ノ狀況如何ニ關係スルモノニシテ平常屢見ル所ノ事實ナリ而シテ此ノ戰爭ニ於テハ胸部ノ擣傷若ハ擣創ニ比例的多發シ殊ニ木片ノ如キ侵徹ニ最モ不利ナル物體ノ打擊ニ因スルモノニ然ルヲ認メタリ又爆發ノ激動ト同時ニ生スル創傷ニモ發シ易シトス又各人ノ稟賦ニモ關係スト雖モ強チ其人ノ勇怯ニ關セサルハ已ニ世ニ明カナル事實ナリ

(二)外傷性譫妄症 軍艦松嶋ト比叡トニ於テ敵ノ巨彈爆發セル際其近部ニ在リテ負傷セシモノニハ本症ヲ起セシモノアリシモ其他ノ負傷者ニハ之レナカリシ即チ松嶋ニ於テ本症ヲ發セシハ皆火傷者ニシテ入院前死亡セシモノニ二三名アリ入院後三日ニシテ死亡セシ者ニ二名アリ孰レモ身體ニ廣キ火傷ヲ負ヒシモノナリ此ノ他入院火傷者中夜間安眠ヲ得スシテ苦疼ノ爲メ呻吟叫喚スルモノ或ハ大聲放歌スルモノアリテ神經系ノ刺戟症狀アルモノハ

多カリシモ精神ハ昏憤セスシテ譫妄症ト稱スヘキニハ至ラザリシ比叡ニ於テ本症ヲ發セシハ頭部及下肢ニ大擣創ヲ負ヒ且ツ顔面ニ火傷ヲ負ヒタル者ト初メ手部ノ挫斷創ヲ負ヒ後大腿部ノ大貫通創ト火傷トヲ負ヘル者トノ二名ニシテ一名ハ負傷四日後ニ死シ一名ハ負傷十五日後ニ死亡セリ孰レモ爆發ノ激動ニ觸レタルカ爲メ神経系ノ障害セラレタル感作ニ基クヘク且ツ其負ヘル火傷及創傷ハ重大ニシテ苦痛甚シク爲ニ全ク安眠スルヲ得サル等ヨリ大ニ神経系ヲ疲勞セシメ以テ本症ヲ發セシモノナラン

(三) 頭皮擣創ニ兼ヌル腦皮質ノ傷害ニ因スル麻痺症 二例アリ一ハ彈片擣創ノ第九例ニシテ他ハ木片擣創ノ第一例ナリ孰レモ已ニ論セシカ如クローラン
ド氏破裂ノ周圍ニ於ケル知覺運動中樞ヲ壓迫セルカ如キ傷害ニ因スルモノナレモ頭蓋骨ニハ異狀ヲ認メサルモノニシテ且ツ後全快セシモノナレバ傷害ノ性質詳カナラス(前章ノ創例參觀)

(四) 神經ノ創傷 砲創ニ於テ神經ノ擣傷ヲ蒙ルコトアリ或ハ半挫斷セラレコトアリ或ハ全挫斷セラレ、コトアルハ勿論ナレトモ稍大ナル神經枝ハ其滑轉ニ易キ位置ヲ保ツト強固ナル鞘ヲ有スルトヲ以テ幸ニ損傷ヲ免ル、コ

ト少カラサルモノナリ殊ニ銃丸ノ如キ先端鈍圓ナルモノニ擊タル、ニ於テ然リトス此戰爭ニ於テ稍大ナル神經ノ彈片若クハ鐵木片ニ毀傷セラレシコト明カナルモノハ僅ニ二例アリ一ハ前章ノ鐵片擣創第七例ニシテ右上方骨内髁ノ直上部ニ擣裂創ヲ負ヒ當時尺骨神經ニ異狀ナキカ如クナリシモ後其分支部ニ麻痺ヲ來セルヲ以テ見レハ尺骨神經ハ鐵片ト骨トノ間ニ壓セラレ擣傷ヲ蒙リシモノナラン創部治癒後尙麻痺ヲ遺セシモ遂ニハ恢復セリ一ハ彈片貫通創第十例ニシテ上膊中部ヲ後面ヨリ前面ニ貫通セラレ上膊骨ヲ破碎セルモノニシテ副木裝用中該肢ニ麻痺アリ且變質反應アルヲ認メタルモノニシテ其後充筋螺旋神經ノ分布部ニ麻痺アリ且變質反應アルヲ認メタルモノニシテ其後充分ニ恢復スルヲ得ザリシモノナリ是レ神經ハ擣傷ヲ蒙リシカ或ハ挫裂セラレシカ其創況如何ヲ知り難キモ創孔ノ位置ヨリ推スニ兎ニ角彈片ノ爲ニ毀傷セラレタルモノニ疑ヒナクメ夫ノ少レニ遭遇スルヲアルカ如キ假骨發生ノ不整ナルカ爲メ其壓迫ヲ蒙リ神經ノ官能障礙ヲ來スカ如キ症ニアラスト思考セラル然レハ本症ノ如キ神經ノ走過スル部位ニ當ル創傷ニ於テハ初メ創内ヲ能ク検査シ神經ノ健在ナルヤ否ヲ究メ若シ挫斷セラレ、ヲ認ムルト

キハ未タ其變質セサルニ先チ截除縫合術ノ如キヲ行フノ必要ナルヲ示スモノナリ

第三 化膿

黃海海戰ニ於テ負ヘル創傷ノ稍大ニシテ入院受療ヲ要シ後送セラレシ者在テハ入院時其創部大抵已ニ化膿セルヲ認メタリ而シテ戰爭前ヨリ負傷者ノ創傷所置ニ對シテハ意ヲ用非テ準備ヲナシ可成的制腐法ヲ嚴ニシテ創面ノ化膿スルコトナカラシムルヲ豫期セシモ其結果ハ豫期ニ反シ前記ノ如クナルヲ免レサリシハ種々ノ緣由アリテ當時ノ事情已ムヲ得サリシモノニシテ之ヲ左ニ論スヘシ

砲創ハ重大ナルモノ多キハ固トヨリ且ツ其創類ノ何タルヲ問ハス孰レモ挫裂性ノモノニシテ創圍組織著シク擣傷ヲ蒙ルヲ常トシ創面組織ノ生機廢頽シ病菌等ニ對スル抵抗力消亡シ極メテ僅少ノ化膿菌ヲ入ル、モ忽チ其繁殖ヲ來シテ容易ニ化膿スルモノナルハ從來經驗家ノ識認スル所ニシテ且ツ創孔内ノ組織ハ長短不同ニ斷離シ極メテ不整ノ空洞ヲナスモノナレハ一旦微

菌ノ如キモノ侵入スルトキハ之ヲ驅除スルコト極メテ困難ナリトス然レハ砲創ヲシテ化膿セサラシメントスルニハ尋常一樣ノ制腐法ヲ行フテ足レリトセス丁寧反復極メテ嚴密ノ制腐法ヲ行フニアラサレハ不可ナリトス現今手術ヲ行フニハ先ツ其手術部ノ皮膚ヲ石鹼ト温湯トヲ用ヒ毛刷子ニテ能ク掃擦シ脂垢ヲ去リ後石炭酸水ノ如キ制腐液ヲ灌キ且同液ノ濕布ヲ以テ被ヒ置クヲ法トスルモノ多シ而シテ器械其他ノ消毒充分ナルトキハ其手術ハ大抵成効シ創面化膿ニ陥ル如キハ殆ト之レナカルヘシ然レモ前記ノ如ク消毒シタル皮膚ノ薄層ヲ切離シ培養試験ヲ行フトキハ多クハ微菌ノ發生ヲ見ルモノナルハ已ニ試験的ニ證表セラレタル所ナリ是レ皮内ニ潜伏スル微菌尙生存スルヲ證スルモノニシテ此ノ微菌往々手術ノ創面ニ入ルコトアルヘキモ手術創面ハ唯組織ノ顯微鏡的一薄層ヲ壞滅スルニ止マリ其周圍組織ハ殆ト健全ニシテ抵抗力強キト創面ニ入ル微菌數ノ僅少ナルトノ爲メ其繁殖ヲ來サス第一期癒合ヲ妨ケサルモノナリ然レモ前記ノ如キ皮膚ノ消毒法ハ砲創ニ對スルニハ尙不充分ナルヲ免レスシテ皮内ニ潜伏スル化膿菌ノ偶侵入スルコトアレハ其數僅少ナルモ創圍組織ノ抵抗力少キカ爲メ尙化膿スルニ至ル

コトアルヘキナリ是レ砲創ノ化膿シ易キ一理由トス又治療所ハ各艦ニ於テ適當ノ場所ヲ得難クシテ士官公室ノ如キ或ハ准士官公室ノ如キ其他孰レモ防腐上ノ本義ヨリ論スレハ極メテ不適當ナル所モ已ムヲ得スシテ應用シタルモノニシテ且ツ戰爭中ハ處々ノ窓戸多クハ閉鎖セラレ光線ノ射入及空氣ノ流通ヲ杜絶シ加之大小砲ノ發射ハ絶エス艦體ヲ震動セシメ時アリテハ敵彈ノ命中若ハ爆發ニ遇ヒ艦内處々ヲ破壊セラレ到ル處塵氣飛揚シ埃氣廳盪スルノ有様ナリシナレハ之カ爲メ負傷者ノ創面ヲ汚サ、ラシメントスルハ亦難事ニ屬セリ

又創内ヨリ衣片ヲ出セシヲ病歴ニ記シアルハ其數多カラス然レモ砲創ノ原因タル物體ノ形狀ヨリ考察スルニ其衣服ニ被ハル、部ヲ撃チ盲孔創ヲ生スルニ於テハ固トヨリ貫通創將タ擣創ノ如キヲ生スルニ於テモ大抵ハ衣服ノ小片若クハ其小纖維ヲ斷離シ之ヲ創内ニ導クヘキモノナルカ如シ若シ小衣片ノ如キモノ深キ創孔内ニ入ルニ於テハ創面甚タ不齊ナルカ爲メ容易ニ除却シ得ラレサルナリ是レ又創面ヲ汚毒スルノ一因タラスンハアラストス前記ノ如ク當時ノ事情ハ創面ヲ汚シ易ク其創面ハ容易ニ化膿スヘキモノニ

シテ一旦化膿スルトキハ之ヲ克復スルコト甚タ難キモノナリ然ルニ戰時艦内治療所ハ各艦一樣ナラサルモ多クハ前部ト後部ト二ヶ所ニ設置セリ(治療所ヲ二ヶ所トセシニ就テハ尙後章ニ於テ論ス)故ニ一治療所ノ軍醫ハ大抵一名ニシテ看護モ一名若クハ二名トナリ負傷者續々發生シ來ル際ニハ人員不足ノ爲メ到底充分ノ所置ヲ施シ得ヘキニアラス且ツ然ラサルモ戰闘中ハ何時多數ノ負傷者ヲ發生スルヤ料ルヘカラサレハ一負傷者ニ就テ大ニ時間ヲ費ス如キ所置ニ出テ得サルハ當然ニシテ畢竟戰闘中ハ一時姑息ノ救急法ヲ行ヒタルニ過キス日暮レ戰闘止テ後翌日ニ互リ更ニ負傷者ノ急要ニ應シ治療ニ從事シ創内及創圍皮膚ノ消毒等ニハ隨分留意シタルニ疑ナキモ砲創ニ對シテハ尋常一樣ノ制腐法ニシテ足レリトセサレハ自カラ足ラサル所アルヲ免レサリシモノアルヘク已ニシテ一二化膿ヲ催セル負傷者アルモ病院等ニ於ケルカ如ク之ヲ他ノ負傷者ヨリ全然隔離シテ治療スルカ如キ所置ニ出テ得サリシモノナリ而シテ戰闘後入院ニ至ル迄ノ負傷者境遇ハ各艦ニ於テ同シカラス

軍艦松島ニ於テ甚タ多數ノ負傷者ヲ出セシノミナラス治療所モ亦損害ヲ受

ケ治療品ヲ亡失シタルコト少カラスシテ火傷者ノ如キニ在テハ機關室用ノ白絞油ヲ集メテ漸ク塗布シタルモノニシテ防腐法ノ到ラサル所アリシハ明カナリ抑火傷者ノ如キハ其負傷面ノ廣キカ爲メ外部ヨリ黴菌ノ侵入シ易キト皮内ニ深ク潜伏スル黴菌アルトノ爲メ充分ノ防腐法ヲ行フトスルモ尙往々化膿ヲ免レサルモノナレハ斯ノ如ク充分ノ所置ヲ加ヘ得サル際ニ化膿スルハ當然ニシテ火傷者ハ大抵第一ニ化膿ヲ催セリ又其裝創ニハ非常ニ長キ時間ヲ要シ軍醫看護ハ爲ニ急忙ヲ極メ自ラ他ノ負傷者ノ治療ニモ缺典アルヲ免レサリシナリ而シテ艦體ハ大ニ損シ戰鬪ニ堪ヘサルヲ以テ自ラ佐世保ニ航シテ負傷者ヲ入院セシメタルモノナレハ其間ニ三晝夜餘ヲ費シ己ニ入院ノ當時ハ化膿ヲ催セルモノナリキ

軍艦比叡ニ於テハ軍醫即死シ看護モ亦即死若クハ負傷シ且ツ治療品ヲ亡失シタルヲ以テ翌日假根據地ニ歸ルニ至ル迄ハ負傷者相當ノ治療ヲ受ケザリシ者ナリ而シテ根據地ニ於テ始テ軍醫ノ治療ヲ受ケシト雖該艦ハ再艦隊ニ合セント欲シ急ニ負傷者ヲ他船ニ移スノ必要アリテ充分ノ所置ヲ施スニ暇アラサリシモノナレハ其負傷者ノ創面皆化膿ニ陥リシハ己ムヲ得サリシナリ

他ノ軍艦ニ於テハ戰鬪ノ翌日ハ敵艦ヲ追躡シテ處々ニ航行シ其翌日ニ至リ假根據地ニ歸リ重大ノ負傷者ヲ運送船立海丸ニ移シ比叡ノ負傷者ト共ニ佐世保ニ向ヒ後送セシモノニシテ其負傷者ハ合計六十六名ナリ抑立海丸ハ斯ノ如キ多數ノ重症者ヲ輸送スヘキ準備ナカリシモノナレハ不幸ニシテ豫テ準備セル病院船ハ當時偶遠隔ノ地ニ在テ使用スルヲ得ス己ムヲ得サルニ由リ立海丸ヲ用非シモノニシテ負傷者ヲ臥セシムヘキ場所モ充分ナラス乗組軍醫ハ僅カ一名ニシテ看護ハ他ノ軍艦ヨリ繰リ合セ都合四名ヲ乗組マシメシト雖治療用器具モ具備セサリシナレハ重大ノ負傷者六十六名ヲ所置スルニハ支障少カラス己ニ化膿ヲ催セルモノト否ラサルモノトヲ嚴重ニ區別スルノ所置ニ出ルヲ得スシテ軍醫看護ハ晝夜治療ニ勉メタルモ尙足ラサル所アルヲ免レサリキ是亦治療上ニ於テ一缺典タリシ所ナラン

前記ノ如ク黃海海戰ニ於テハ種々ノ事情ニ由リ創傷治療上遺憾ナキヲ得スシテ成績豫期ノ如クナラサリシモ蓋シ戰時ニハ己ムヲ得サルモノトスヘシ佐世保鎮守府病院ニ於テハ諸般ノ準備整ヘルヲ以テ入院負傷者ノ所置ニ對シ先ツ違算ナキヲ得タリ負傷者ノ創面ハ化膿セシモノニシテ且ツ重大ノ症

多カリシニ拘ハラズ大抵順良ノ經過ヲ取り入院後死亡セシモノハ九名ニ過
 キス然レモ其一時ニ入院シタル際ニハ病院ニ於テモ尙困難ヲ免レスシテ二
 三日ノ間ハ軍醫看護共ニ徹霄裝創ニ從事シ腹部穿入創ノ如キニ於テ手術ヲ
 行ヘハ或ハリアラント思考セラレ、モノニシテ之ヲ斷行スルノ暇ナク遂ニ
 時機ヲ失シタルモノナキニ非サリシナリ
 威海衛攻撃ノ際ニ於テハ各艦ニ於テ生セル負傷者數モ多カラズ病院船モ近
 傍ニ在リテ負傷者ノ治療上便宜ヲ得タレハ創面ノ化膿ニ至ラサリシモノ自
 ラ少カラス然ルモ尙入院治療ヲ要セシ如キ稍重大ノ創傷ハ化膿ニ陥リシモ
 ノ多シ是レ畢竟創性ノ然ラシムル所ナルト戰時艦内ノ狀況ハ創面ヲ汚毒シ
 易キカ爲メナルヘケレハ更ニ一層嚴重ノ防腐法ヲ行フニアラサレハ不可ナ
 ルヲ示スモノナリ

第四 壞疽

創傷圍組織ノ一部分腐肉ニ陥ルコト甚タ多カリシハ前章ニ於テ已ニ記セリ然
 レモ遠部壞疽ヲ繼發シ來リシハ左ノ數例アルニ過キス一ハ病歴二七〇號ナ
 リ其創傷ハ鐵片ニ因スル者ニシテ左大腿下端ノ前面ニ擣創ヲ負ヒ膝蓋骨及大

腿骨下端ヲ破碎セラレタルモ出血ハ少カリシモノナリ翌日ニ至リ該關節ノ
 截除術ヲ行ヒシカ膝關動脈ニ損傷アルヲ認メサリシモ入院ノ當時ハ膝關節
 以下血行廢絶シテ足端已ニ紫黑色ニ變シ脱疽ニ陥レルヲ認メタリ依テ大腿
 下三分ノ一部ニ於テ切斷術ヲ行ヒ後治療セリ又他ノ一ハ病歴二八八號ニシ
 彈片ノ爲メ右下腿ノ最上部ニ貫通創ヲ負ヒ脛腓兩骨大ニ破碎セラレテ膝關
 節面ニ及ヒ且ツ同側ノ大腿下三分ノ一部ニ數個ノ失肉創ヲ兼テ負フモノニ
 シテ同肢ノ足端脱疽ノ徵候ヲ呈シ來ルニ依リ玄海丸ニ於テ大腿下部ノ截斷
 術ヲ行ヒシモ此ノ負傷者ハ前記ノ創傷ヲ負ヘルニ止マラス巨大ナル砲丸ノ
 爆發ニ觸レタルモノナルカ爲メ全身ニ種々ノ重創ヲ負ヒタルニ因リ間モナ
 シ死亡セリ此ノ症ハ膝關動脈ノ全ク斷裂セラレシモノナルヤ將タ半バ破開
 セラレシモノナルヤ若クハ否ラサルモ大ニ擣傷ヲ蒙リ血栓ヲ生セシモノナ
 ルヤ同艦軍醫ハ悉ク戰死シ負傷時ノ出血如何ナリシヲ知り得スシテ判斷ニ
 困ムモ兎ニ角貫通創ニシテ大ニ骨ノ破碎セラレタルモノナレハ尿管ノ如キ
 モ斷裂セラレシモノト看做シテ可ナラン之ニ反シ第一ニ記セル症ハ負傷時
 出血少ク手術時膝關動脈ノ毀傷セラレタルヲ認メサリシモノニシテ且ツ鐵

片ハ前方ヨリ骨ヲ打撃シテ破碎セシニ止マリ關節内若クハ組織内ニ深ク侵入シタルモノニアラサレハ大腿骨下端ノ破碎セラレタルカ爲メ之ニ密接シテ走過スル膝關節ハ大ニ擣傷ヲ蒙リ後次第ニ血栓症ヲ發起シ來リシモノナラン又膝部前面ハ擣創ノ爲メ痛ク破壊セラレ副循環枝ノ多分ヲ斷裂セシヲ以テ脱疽ハ速カニ發起セシナルヘシ之ニ稍類スル症ニシテ脱疽ヲ來サス治癒セシハ病歴二七一號ニシテ右膝關節ノ前面ニ大擣創ヲ負ヒ膝蓋骨ノ一部ヲ破碎シ膝關節ヲ破開セシモノナレモ大腿骨下端ニ損傷ナク從テ尿管モ損害ヲ免レタルモノナルヘシ又病歴二二四號ハ左前膊前面ノ肘關節下ニ骨折ヲ兼ヌル擣裂創ヲ負ヒ上膊動脈ノ分岐部ヲ斷裂セラレタルモノニシテ且ツ同側上膊ニ盲孔創ヲ兼テ負ヒ入院ノ當時ハ前膊以下已ニ壞疽ニ陥レルモノナリ此ノ他ニハ病歴三〇四號ノ如キ左足趾ニ骨折擣創ヲ負ヒ趾端ノ壞疽ヲ起セシモノアルモ遠部壞疽ノ實例ト認メ難キモノナリ抑砲創ハ其性質重大ナルカ爲メ銃創等ニ比スレハ壞疽ヲ發スルコト固トヨリ多カルヘキモノナリ而シテ今回ノ戰爭ニ於テハ二百五十六名ノ負傷者中遠部壞疽ノ實例ハ前記ノ三名ニシテ孰レモ動脈幹傷害セラレ併セテ多少ノ側循環枝毀傷セラレ

シニ因セルモノニシテ其脱疽ニ陥リシハ當然免レ難キモノナリキ又砲創ニハ單ニ擣傷ヲ受ルカ爲メ初メ皮膚ニハ創傷ヲ見サルモ後チ大腐肉ヲ生シ來ルカ如キ局部壞疽ヲ來スコトアルモノナレモ斯ノ如キ例ハ一モ之レナク又往時ノ戰爭ニハ屢實見セル炎性壞疽若クハ腐敗性壞疽若クハ病院壞疽ト稱セシ如キ類ノモノモ絶エテ其例ナカリキ

第五 丹毒

負傷者中ニ創傷傳染病ノ發生セシハ唯丹毒症アリシノミナリ其一ハ病歴一九〇號ニシテ九月十七日右肩胛骨棘狀突起ノ下方ニ盲孔創ヲ負ヘルモノナリシカ十月十二日ニ至リ佐世保鎮守府病院ニ於テ丹毒症ヲ特發セシモ輕症ニシテ同月二十二日ニ治セリ又一ハ病歴二七〇號ニシテ前記セル左下肢壞疽ノ爲メ九月二十二日大腿下三分ノ一部ニ切斷術ヲ行ヘルモノニシテ翌年一月三十一日創柢面將ニ癒合ニ垂タル際吳鎮守府病院ニ於テ丹毒症ヲ特發セシカ是亦輕症ニシテ速カニ治癒セリ又他ノ一ハ病歴一九二號ニシテ九月十七日右肩胛骨部ヨリ上膊ニ互リ骨折貫通創ヲ負ヘルモノニシテ其創孔ノ癒合機能振ハス荏苒久ク治セスシテ翌年二月二十七日ニ至リ佐世保鎮守府病

院ニ於テ俄然體溫四十度以上ニ昇リ創孔圍ノ皮膚發炎潮紅シ來リ種々加療スルモ炎症ハ次第ニ蔓延シ體力日ニ衰ヘ不幸ニシテ三月十七日遂ニ死亡セリ丹毒症ヲ發セシハ前後通シテ右ノ三名ニシテ孰レモ特發ニ係リ互ニ傳染セシ形跡ナキ者ナリ今二百五十六名ノ負傷者中ニ三名ノ丹毒患者ヲ出シタルハ今世外科學ノ面目ニ對シ聊カ汚點タルヲ免レサル觀アルモ其負傷者ニハ重大ノ創傷多ク已ニ前記セル如ク大半ハ化膿ニ陥リ創面ノ癒合容易ナラスシテ甚タ多クノ治療日數ヲ要シタルモ、少カラサルノミナラス當時病院ニハ戰鬪負傷者以外ノ外科的患者モ甚タ多數ニ收容シタルモノナレハ病室ハ過度ニ群集スルノ狀アルヲ屢ニシテ自然這般ノ發症アリシモノナリ

第六章 負傷者ノ處置

第一 艦内治療所

艦内治療所ハ艦内處々ニ生スル負傷者ヲ集ムルニ不便ナラス且ツ可成的敵彈ニ犯サル、危險少キ場所ヲ撰定セサルヘカラサルハ勿論ナレモ現時ノ軍艦ニ於テハ艦體中央部ニシテ諸方ヨリ負傷者ヲ集ムルニ大ナル不便ナク且ツ水準線以下ニシテ敵彈ニ犯サル、危險少キ場所ノ如キハ機關室其他ノ占ムル所トナリ治療所ニ當ツヘキ餘地ヲ存スルモノナクシテ夫ノ子ルソノ時代ノ戰艦ニ於テ機關室炭庫ノ如キモノナク艦ノ中央ニハ上甲板ヨリ艦底ニ縱貫スル廣大ナル「ハツチ」アリ水準線下ニ於テ適當ノ治療所ヲ設ケ得タルカ如クナルヲ得サレハ各艦ニ於テ適當ノ治療所ヲ設定シ難カリシハ殆ト同様ニシテ孰レモ遺憾トセル所ナリキ而シテ艦體ノ中部ニ治療所ヲ設クルヲ得サレハ已ムヲ得ス前部若クハ後部ニ於テ之ヲ設定セサルヘカラス前部若クハ後部ニ於テ之ヲ設定スルニ唯一ヶ所ノ治療所トスルハ一方ノ負傷者ヲ運搬シ來ルニハ距離近クシテ便ナルモ他方ノ負傷者ヲ運搬シ來ルニハ距離遠クシテ不便ナルヲ免レス殊ニ防水扉閉鎖ノ爲メ前部ト後部トノ交通ニハ大迂

路ヲ取ラサルヲ得サルモノニ然リトス且ツ前部若クハ後部ニ於テモ砲丸ニ犯サル、危険少キ水準線下ニ於テ治療所ニ應用シ得ヘキ餘地アル者殆ト之レナカリシナレハ水準線上ニ位スル下甲板ノ如キニ於テ之ヲ設定セサルヲ得ス然レハ敵彈ニ犯サル、危険ナキヲ保シ難キヲ以テ治療所ハ一所トスルヲ不可トシ可成的前部ト後部ト二ヶ所ニ設ル方針ヲ取レリ然レモ尙_ホ恰當ノ場所ナキ爲メ唯一ヶ所ニ設定スルノ已ムヲ得サル者アリシカ其内軍艦比叡ノ如キニ於テハ已ニ記シタルコトアルカ如ク下甲板後部ノ士官公室ナル治療所ハ巨彈ノ命中爆發スル所トナリテ軍醫ヲ始メ同所ニ在リシ者ハ盡ク即死シ否ヲサルモノモ大創傷ヲ負ヒ且ツ治療品ヲ亡失シタルノ一大不幸ニ陷レリ此ノ他軍艦松島ニ於テハ前部上甲板ト中部下甲板ト二ヶ所ニ治療所ヲ設ケタルモ二ヶ所共砲丸ノ命中ト爆發トニ因リ破壊セラレ爲ニ艦隊軍醫長ハ重傷ヲ蒙リ負傷者ニシテ受療中死ニ至ルモノアリ且ツ治療品ノ多クヲ亡失セリ又軍艦吉野ニ於テハ二ヶ所ニ治療所ヲ設ケシカ下甲板後部ノ士官公室ニ於ケル治療所ハ前後二回敵彈ノ爲メ破壊セラレシモ幸ニシテ唯看護手一名微傷ヲ負ヒシニ止マレリ夫レ斯ノ如ク水準線以上ノ部ニ在テハ何レノ

部ニ於テスルモ砲丸ニ犯サル、ノ危険ヲ免レスシテ治療所ニ適セサルコト勿論ナレトモ水準線下ニ在テ治療所ニ應用スヘキ場所ナキニ於テハ止ムヲ得サルナリ然レハ水準線上ノ部ニ治療所ヲ設クルニ於テハ負傷者運搬ノ便宜上ヨリスルモ將々比叡ニ於テ遭遇セルカ如キ災害ヲ避クル點ヨリスルモ二ヶ所ニ分設スルヲ得策トス然レトモ治療ヲ分ツニ就テハ之ニ件フ不利益固トヨリ少カラス即チ艦内限リアル軍醫看護及治療品ヲ分ツニ於テハ一時多數ニ生スル負傷者ヲ救療スルニ不便少カラストス何トナレハ海戰ニ在テハ一彈ノ爲メ數名若クハ數十名ノ負傷者ヲ出スト往々之レアルモノニシテ其負傷者前部ニ於テ生セシトスルハ大抵皆前部ノ治療所ニ來リ同部ノ所員ハ忽チ救療ニ忙ハシクシテ縱令戰團中負傷者ノ處置ハ一時ノ救急法ニ止メ置クトスルモ尙_ホ相當ノ注意ヲ加フルニ暇アラサル繁劇界ヲ現シ反之此ノ際後部ノ治療所ニ於テハ所員手ヲ空クシテ佇立スルカ如キナキニアラスシテ緩急相應シ互ニ補助スルヲ得ス從テ動モスレハ治療上ニ缺典アルヲ免レサルナリ例之前章出血ノ項ニ於テ論セシ負傷者病歴一四三號ノ如キ當初出血ノ多キヲ認メシモノナレハ若シ治療所一ヶ所ニシテ二名ノ軍醫一所

ニ在リシナランニハ其内一名ハ當然創孔ヲ截開シ破碎骨片ヲ去リ動脈ノ景況ヲ檢シテ結紮ヲ施スカ如キ猶豫アルヲ得タルナラン然ルモ軍醫ハ兩處ニ分レ唯一名ニシテ多數ノ負傷者ニ對シタルコトナレハ一負傷者ノ處置ニ時間ヲ費スヲ得スシテ唯創孔ヲ栓塞シ壓抵繃帶ヲ施スカ如キ姑息ノ處置ニ止メシナリ此ノ他多數ノ創傷後化膿ニ陥リシカ如キモ畢竟當初ノ處置ニ於テ足ラサル所アリシニ關係スルモノナクンハアラス然レハ治療所ヲ分ツハ利害得失上止ムヲ得サルモノト雖亦大ナル缺典ヲ伴フモノト云フヘシ若シ艦ノ中央部ニシテ諸方ヨリ負傷者ヲ集ムルニ甚シキ不便ナク且ツ水準線以下ニシテ砲丸ニ犯サル、危険甚タ少キ場所ニ於テ充分ノ餘地アリ治療所ヲ設クルヲ得ルモノトスレハ一ヶ所トシテ始メテ適當ノ治療所ト云フヲ得ヘシ己ニ前章ニ於テ論シタルコトアルカ如ク創傷ノ性質ト云ヒ戰闘中艦内ノ状態ト云ヒ各負傷者ニ對シテハ最初ヨリ丁寧慎重ノ處置ヲ施スニアラサレハ後來化膿等ノ憂ハ免レ難キモノニシテ軍醫看護ノ如キ艦内定員ハ一所ニ在ルモ尙足ラサルヲ感スルハ免レサル所ナレバ之ヲ分ツノ不利益ナルハ明白ナル所ナリ今回ノ戰闘中各艦ニ於テ治療所ニ應用シタル場所ハ左ノ如シ

- 軍艦吉野 前部下甲板第三區ノ右舷側 後部下甲板士官公室
- 軍艦浪速 ○ 後部下甲板士官公室
- 軍艦高千穂 前部下甲板旋回砲ノ下 後部下甲板士官公室
- 軍艦秋津洲 下甲板第三區ノ左右舷側 ○ 後部下甲板士官公室
- 軍艦松島 前部上甲板病室 中部下甲板メスルーム
- 軍艦殿島 前部下甲板病室 中部下甲板士官次室 後部上甲板司令長官應接所
- 軍艦橋立 前部倉庫(水線下) 中部下甲板左側ハ准士官室右側ハ掌帆長寢室
- 軍艦扶桑 前部下甲板准士官室(水線下) 後部下甲板機關室側(水線下)
- 軍艦千代田 前部下甲板第四區 後部下甲板士官公室
- 軍艦高雄 前部下甲板火夫室 後部下甲板士官公室
- 軍艦金剛 前部下甲板第二區ノ左舷側 後部下甲板第四區ノ士官次室
- 軍艦比叡 ○ 後部下甲板士官公室
- 軍艦筑紫 前部下甲板砲臺下 後部下甲板砲臺下
- 軍艦大島 ○ 後部下甲板艦長室
- 軍艦赤城 ○ 後部下甲板艦長室
- 軍艦鳥海 前部下甲板藥室ノ前 ○ 後部下甲板艦長室
- 軍艦愛宕 前部下甲板 ○ 後部下甲板艦長室
- 軍艦摩耶 ○ 後部下甲板艦長室
- 軍艦天龍 前部下甲板 後部コクピット(水線下)

- 軍艦海門 ○ 後部下甲板士官公室
- 軍艦武藏 前部下甲板下帆布室水線下) 後部下甲板士官公室
- 軍艦葛城 前部木工倉庫水線下) 後部コクビツト(水線下)
- 軍艦大和 前部下甲板下士官公室 後部下甲板士官公室
- 軍艦天城 前部下甲板藥室前 ○
- 軍艦磐城 前部下甲板藥室前 ○
- 軍艦筑波 前部下甲板准士官公室 後部下甲板士官公室
- 軍艦八重山 ○ 後部下甲板士官公室
- 西京丸 前部本甲板中等客室 ○

前記ノ如ク各艦ニ於テ種々其所ヲ異ニシ中ニハ不潔狹隘ニシテ治療所トシ
 應用スルニ甚々不適當ナル所モ已ムヲ得スシテ用非タルモノアリ是レ艦ノ
 構造上然ラサルヲ得サルニ出テタルモ治療上ヨリ論スルトキハ大缺典タル
 ヲ免レス又軍醫三名ノ乗組メル軍艦ニ於テ治療所ヲ二ヶ所ニ分ツニ當テハ
 前部ニ主力ヲ用ウヘキヤ將タ後部ヲ本據トスヘキヤ孰レカ利益ナルノ疑問
 アルヘキモ是レ專ラ治療所ニ應用スル場所ノ廣狹ト負傷者ヲ運搬スル路程
 ノ便宜トニヨリ之ヲ決シテ可ナルモノナルカ如シ前部ト後部トニ生セル負

傷數ハ第三章ノ第六表ト第十五表トニ明カナルカ如ク某艦ニ於テハ前部ニ
 多ク某艦ニ於テハ後部ニ多クシテ一定スヘカラサルモノアルハ當然ナラン
 諸艦ヲ合計シテ前部ノ負傷者甚々多キハ偶軍艦松嶋ノ前部ニ於テ甚々多數
 ノ負傷者ヲ出セシニ由ルナリ

第二 負傷者ノ運搬

負傷者運搬具ハ艦ノ大小及構造異ナルニ從ヒ一定式ノモノヲ用非ルヲ得サ
 レハ各艦ニ備フルモノ其製ヲ異ニシ或ハ安樂椅子様ノモノアリ或ハ網製ハ
 シモツク様ノモノアリ或ハマクドナード氏擔架様ノモノアリ或ハギホン氏
 擔架様ノモノアリテ平素其使用法ニ就キ訓練スル所アリタリシモ戰闘中ニ
 ハ大抵之ヲ用非ルコトナクシテ止メタリ何トナレハ負傷者ハ孰レモ迅速ニ
 運ヒ去リテ治療所ニ致スコト緊要ニシテ擔架ニ裝載スルハ階梯ノ昇降等ニ
 煩ハシク時間ヲ要シテ戰闘ノ混雜中ニハ迂遠ナルヲ認メタレハナリ殊ニ一
 時ニ多數ノ負傷者ヲ生シタル際ノ如キ將タ敵彈爆裂シテ負傷者ヲ生スルト
 共ニ火災ヲ起セシ際ノ如キ到底擔架ニ裝載スル猶豫アルヘキニアラス故ニ
 戰闘中負傷者ヲ運搬スルニハ各艦皆徒手手法ニ賴レリ而シテ徒手運搬法ハ迅

速ニ負傷者ヲ運ヒ去ルニ便宜ニシテ且ツ同時ニ多數ノ負傷者ヲ生スルモ近傍ニ健在人員ノアル限りハ直チニ應用スルヲ得ルカ故ニ戰鬪中ハ勢ヒ此ノ法ニ頼ラサルヲ得サリシナリ但シ此ノ法ニ依ルモ重傷者ヲ擔シテ階梯ヲ昇降スルニ際シテハ三四人ノ手ヲ要シ頗ル混雜アルヲ免レスシテ重大ノ骨折ヲ負ヘル者ノ如キ若クハ廣汎火傷ヲ負ヘル者ノ如キヲ運搬スルニハ幾クカ創部ニ障害ヲ加フルコトアルハ免レ難キ所ニシテ其創傷ニ及ホス影響ヨリ論スルニ正式ニ擔架ニ裝載シテ運搬スルノ勝レルニ如カサルハ勿論ナリ然レハ艦内ノ負傷者運搬法ニ就テハ尙吾人ノ講究ヲ要スルモノトスレモ實際戰鬪中ハ徒手運搬ノ如キ簡易ノ方法ニ頼ルノ已ムヲ得サルハ自然ノ勢ナルヲ以テ該運搬法ニ就テハ艦員皆平素習練スル所アルヲ要ス

戰鬪後負傷者ヲ運搬シテ他ノ艦船等ニ移スニ當リテハ負傷者ノ創部ハ已ニ相當ノ處置ヲ施シ骨折アルモノ、如キハ已ニ副木ヲ裝用セルヲ以テ徒手運搬法ニ頼ルヘキニアラス且ツ此際ニハ擔架ニ裝載スル猶豫アルハ勿論ナレハ孰レモ艦内備フル所ノ野戰用擔架若クハ他ノ負傷者ヲ平臥セシメ得ヘキ擔架ヲ用ヒ滑車裝置ニ頼リ懸垂シハツチ若クハ砲門等ヨリ出シテ運搬スル

ニ更ニ支障アルヲ認メサリシ

第三 創傷ノ治療

戰鬪中負傷者ノ治療ハ已ニ記セシコトアルカ如ク創内ヲ洗滌シ周圍皮膚ヲ消毒シ異物存スルコト明カニシテ容易ニ抽出シ得ヘキモノハ除去シ出血アルモノハ壓抵若クハ捻轉等ニ依リ止血シ骨折アルモノハ副木ヲ貼スル如キ一時ノ救急姑息法ニ止メタリ是レ戰鬪中ハ一負傷者ニ對シ時間ヲ要スルカ如キ所置ニ出テ難ク己ムヲ得サル者ナリ戰鬪止テ後再ヒ創傷ノ急要ニ應シ順次相當ノ處置ヲ施スコト、ナシ更ニ創内創圍ノ消毒等ヲ行ヒ創内ヲ指探ノ異物アレハ之ヲ去リ副木用法ノ適切ナラサル者アルハ交換スル等ノ事ヲナセシカ黃海々戰ニ於テハ時已ニ晩夜ニ至リ治療上困難少カラス且ツ長時間ノ戰鬪ニ從事セシ後ニシテ人々大ニ疲勞ヲ感スルノ際ナルヲ以テ治療所員ノ難儀ハ尋常ナラザリキ而シテ艦内ニ於テ制腐藥トシテ創部洗滌等ニ使用セシモノハ專ラ二・五%乃至三%ノ石炭酸水ニシテ加フルニ間沃度仿謨ノ撒布ヲ以テセリ眼内及胸腹内ノ創内ニハ重モニ硼酸水ヲ用非タリ裝創物ニハ昇汞綿紗石炭酸綿紗及脫脂綿ヲ以テシ之ヲ被フニ亞麻仁油紙ト繃帶

トヲ以テセリ副木ニハ孰レモ木板製ノモノヲ用非タリ「ギプス」繃帶ハ戰時艦内ニ在テハ貼用ニ煩ハシキノミナラス孰レモ複雑骨折症ニ用非ルモノナルヲ以テ木板副木ノ簡便ナルニ如カサルヲ認メタリ而シテ制腐液ヲ以テ創部ヲ洗淨スル如キハ各艦ニ於テ大ニ意ヲ用非タル所ナリト雖モ其結果ハ前章已ニ記セシカ如ク化膿ヲ防制スルニ足ラサルモノ多カリシヲ以テ見レハ砲創ニ對シテハ尙更ニ嚴密ノ所置ヲ要スルコト明カナリ砲創ノ性質極メテ化膿シ易キハ自然ニシテ又戰闘中艦内ノ狀況ハ創面ヲ汚シ易ク且ツ治療所ノ如キ孰レモ不適當ノ場所ナリシハ已ムヲ得サルモノナレトモ治療上尙注意ヲ要スルモノト認メラル、點ヲ擧ケンニ衣服ニ被ハル、部ノ砲創ニ於テハ創内ニ不潔ノ衣片ヲ藏スルコト甚タ多シ而シテ負傷後數日ヲ經テ入院セル後始メテ衣片ヲ出セシ例モ亦少カラサレハ是レ化膿ノ一因タリシニ相違ナキヲ以テ當初創内ハ精細ニ指探シテ衣片ノ如キハ勉メテ遺存セサラシムルヲ要ス創孔内甚タ不整ナレハ單ニ制腐液ノ灌漑ニ依リ衣片ヲ盡ク洗ヒ去ルハ期シ難キ所ナリ又創面組織ハ生機頽廢スルヲ以テ僅少ノ黴菌ヲ容ル、モ之ニ抵抗シ能ハサルヘキハ已ニ論セシ所ナリ故ニ創圍皮膚ノ消毒ハ充分ニ

嚴密ナルヲ要シ且ツ裝創物ヲ貼スル面積ヨリ廣ク周圍ニ及ハサルヘカラス創孔内ハ洗淨スト雖モ戰闘中ニハ充分ナルヲ期シ難キコト自ラ之レアルヘキヲ以テ中毒ノ恐レアルカ如キ多量ヲ要スルモノニアラサレバ沃度仿謨ノ如キ固形制腐藥ヲ撒布シ置クヲ便法トス又繃帶材料ハ保存上注意シタルニ相違ナキモ已ニ受領後多數ノ日子ヲ經タルモノナレハ孰レモ盡ク純潔ナルヲ保シ難シ故ニ使用前ニハ再ヒ之ヲ消毒シ得ルカ如キ輕便ノ消毒器具ヲ各艦内ニ備ヘ附クルノ必要アルヲ認ム又手指器械其他創部ニ觸ル、モノ、清潔ナルヘキハ勿論ニシテ特ニ記スルヲ要セサレトモ混雜ノ際ニハ此ノ點ニモ粗漏ナキヲ保シ難ケレハ尙充分ノ注意ヲ要ス而シテ治療上最モ困難ヲ經驗シタルハ身體廣汎火傷ヲ負ヘルモノ、取扱ナリシ其裝創物交換ニ際シ長時間ヲ要スルハ固ヨリ制腐液ノ洗滌ヲ行フニハ負傷者ノ苦痛甚タシク且ツ或ル艦ニ於テハ治療品亡失ノ爲メ充分ノ制腐藥ヲ用非ルコト能ハスシテ速ニ化膿スルニ至レリ是レ亦講究ヲ要スル點ナリ

病院ニ於テ用非シ制腐藥ハ重モニ石炭酸水ニシテ間昇汞水ヲ用非タリ又礮酸水「リゾール」ノ如キモ症ニ應シテ撰用シ沃度仿謨ノ如キモ少レニハ用非タ

ルコトアリ繃帶材料ノ如キハ使用前必ス消毒スルコト、ナシ制腐法ニハ頗ル注意セシモ創面ノ化膿ヲ根治スルハ容易ナラザリキ故ニ創傷ノ經過ハ概シテ緩慢ニシテ比例的甚々多數ノ治療日數ヲ要セリ其受療日數ハ第三章ノ第二十一表ニ示セルカ如ク二百五十四人ノ負傷者ニ對シ艦内治療ト入院治療トヲ通シ一萬五千八百八十日ヲ費セルモノニシテ一負傷者ニ對シ六十二日半ヲ要セシ割合ナリ若シ此負傷者數ヨリ重傷ニシテ三日以内ニ死亡セシモノ二十七名ト輕傷ニシテ三日以内ニ治療セシ者十七名トヲ扣除シ各負傷者ノ治療日數ヲ平均分配スルハ各二ヶ月半ヲ要セシ割合トナリ治療日數ノ頗ル過多ナルヲ見ル是レ畢竟砲創ノ性質治療シ易カラスシテ他ノ創傷ト趣ヲ異ニスルニ由ラスンハアラス澎湖嶋ニ於ケル陸軍兵ノ銃創ヲ負ヘル者十數名佐世保鎮守府病院ニ入院セルヲ以テ彼是相比シテ同様ニ治療シタル經驗ニ徵スルニ銃創ノ治シ易キト砲創ノ治シ難キトハ外形稍似タル創傷ニ於テ尙著キ差アルヲ認メタリ又病院ニ於テハ勉メテ保存的治療法ヲ行ハント欲シ四肢ノ複雑性骨傷ノ如キ將タ關節創傷ノ如キニ於テ可及的切斷術若クハ切除術ヲ行フコトヲ避ケタルニ其結果ハ大抵良好ナルヲ得タリ而シテ

已ムヲ得ス截斷術ヲ行ヒタルモノハ病歴二七〇號ノ左大腿下部截斷ト病歴第二二四號ノ左上膊中部截斷ト病歴二六一號ノ右大腿上部截斷トノ三症ニ止マリ其内右大腿上部截斷ノ一症ハ手術後死亡セリ又火傷面ヲ洗滌スルニハ石炭酸水、硼酸水等ヲ用非時アリ硼酸、沃度仿謨、水楊酸等ノ末或ハ軟膏ヲ用非タルモ創面ヲ清潔ニ保持スルニ難ク且ツ裝創物交換ノ際ニハ毎ニ苦痛ヲ感セシムルコト甚シキニ由リ可成的裝創物ヲ更新スル度數ヲ少クセント試ミタルモ時恰モ炎暑ノ候ニシテ動モスレハ裝創物下ニ蠅蛆ヲ發生スルコトアリテ以テ頻々交換セサルヲ得ザリシ又交換ニ際シ裝創物ノ處々火傷面ニ膠着スルハ剝離ニ困難ナルヲ以テ試ミニ創面ヲ洗淨シタル後消毒シタル有窓蠟紙ヲ貼シ其上ニ綿紗及脫脂綿ヲ貼用セシモ排泄液蠟紙下ニ溜溜スルノ弊アリテ不利益ナルヲ認メタリ

又病院ニ於テハ入院傷病者治療ノ傍一二ノ軍醫ハ諸制腐藥ノ化膿創面ニ對スル効力ノ試験ヲ行ヘリ然レトモ當時職務繁劇ノ際ナリシヲ以テ充分其力ヲ之ニ効スノ暇ナク其試験ノ成績ハ不完全ナルヲ免レサルモ附録トシテ其報告ノ一二節ヲ左ニ録スヘシ

- 一 藥品ハ初メ化學的純品量ヲ檢定シテ試驗用ニ供セシヲ以テ日常使用ノ液ニ比スレハ比較的濃稠ナリトス
- 一 藥品ノ秤量ニハ總テ化學用天秤ヲ用ヒ水計及ビベツトノ類ハ割度正確ナルモノヲ用ヒタリ
- 一 藥液ヲ製スルニハ特別ニ試驗ヲ要スル場合ノ外總テ中性ノ蒸餾水ヲ用ヒ而シテ藥液ハ總テ水九十分中ニ百分ニ對スル藥量ヲ含マシム即チ一%ノ溶液ナレハ藥品一〇ヲ水八九〇ニ溶解シ此液九〇立方珊米中可檢細菌ノ培養液一〇立方珊米ヲ加ヘテ一〇〇立方珊米トナリシトキ正一%トナルノ方法ヲ用ヒタリ
- 一 可檢菌ハ試驗上便宜ノ爲メ肉汁培養基ニ發育セルモノヲ用ヒ偶固形培養基ニ發育セルモノハ豫メ肉汁培養基ニ溶解シテ使用セリ是レ試驗藥液ト速ニ混和セシムルカ爲メナリ
- 一 試驗ノ爲メ移植スルニ總テ肉汁培養基ヲ用ヒタリ蓋シ此試驗當時ハ氣候寒冷ナルヲ以テ扁平培養ハ發育スルニ多クノ時間ヲ要シ又斜面寒天ノ如キ固形基ヲ用フルトキハ移植ノ際ニ尙ホ生存スルモノモ之レニ附着セル藥液ノ爲ニ移植後死滅スルノ恐レアルヲ以テナリ
- 一 試驗ノ方法ハ先ツ前記ノ如ク調製セシ藥液九〇立方珊米ヲ滅菌試驗管ニ盛リ次ニ可檢菌ノ培養液一〇立方珊米ヲ加ヘ迅速ニ振盪シテ好ク混和セシメ次テ三十秒時ヨリ分時ヲ追テ新培養基ニ移植ス而シテ其培養ハ解窺内ニ納メ二十四時間ノ後發育セシヤ否ヲ檢査スルニ在リ

(一) 石炭酸

此試驗ニ供セシ石炭酸ハ其百分中九九・四九ノ化學的純粹石炭酸ヲ含有ス
石炭酸水ハ一・二・三・四・五%ノ五種ニ就キテ試驗セリ

第三表

%	時間		對照	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	分十五	分二十	分二十五	分三十	分三十五	分四十	分四十五	
	數	間																			
一	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
二	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
三	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
四	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
五	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

此試驗ハ數回反復試驗セシニ毎回多少ノ差異ナキ能ハス故ニ此表ニハ其最モ長ク生存セシ時間ヲ掲ク

右ノ如ク同一ノ細菌ニシテ同一ノ藥液ニ對シ毎常同一ノ成績ヲ得サルハ可檢菌ヲ培養スル培養基ノ性質并ニ培養中溫度ノ關係等ニ依リ抵抗力ニ多少ノ差アル可シト雖モ其主ナル原因ハ培養スル時日ノ長短即チ菌發育ノ度ニ關スルコト最モ大ナルコトヲ檢知セリ

(第四表) 一%石炭酸水ヲ用ヒテ可檢菌ノ培養第二日ヨリ第十四日ヲ經タルモノ、比較試驗

試驗藥	培養日數	對照	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	一分十二分	一分十三分	一分十四分	一分十五分	一分二十分	一分三十分	一分三十分
一%石炭酸水	第二日	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
全	第四日	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
全	第六日	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
全	第十四日	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

要スルニ一%石炭酸水ニ對シ化膿性葡萄狀球菌抵抗力ノ差ハ

生存最長三十五分時間 生存最短十三分時間

又通常石炭酸水即チ石炭酸中夾雜物ヲ除却セスシテ調製シタル一%石炭酸水ニ對スル化膿性葡萄狀球菌ノ抵抗力ハ

生存最長四十五分時間 生存最短二十二分時間

試驗藥液ノ溫度ノ差ニ依リテ殺菌力ニ多少ノ差アルカ如シ即チ藥液ニ三十七度ノ溫度ヲ與ヘテ可檢菌ヲ加フルトキハ十二三度ノ室溫ニ比スレハ殺菌力稍強シ

(第五表) 一%石炭酸水ヲ用ヒテ溫度ノ關係試驗

溫度	可檢菌培養日數	對照	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	一分十二分	一分十三分	一分十四分	一分十五分	一分二十分	一分三十分	一分三十分
十二三度	第六日	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
三十七度	第六日	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

以上試驗成績ノ要點ヲ掲クレハ左ノ如シ

- (イ) 創傷傳染病原ノ芽胞ヲ生セサル細菌中制腐藥ニ對シ抵抗力ノ最モ強キハ化膿性葡萄狀球菌ナリ
- (ロ) 化膿性葡萄狀球菌ハ其發生スル色素ノ異ルト其所在ノ異ルトヲ問ハス其制腐藥ニ對スル抵抗力ハ殆ト皆同一ナリ
- (ハ) 化膿性葡萄狀球菌ハ培養基中ニ發育スル時日ノ長短ニ依リテ其抵抗力ニ強弱ノ差アリ即チ同一ノ培養基中ニ於テ長ク培養シテアニリン色素ノ染色力減弱スルニ至ルトキハ制腐藥ニ對シテ抵抗力増加ス
- (ニ) 石炭酸水ハ溫度増加スルトキハ多少其殺菌力ヲ増加ス
- (ホ) 石炭酸水ハ三%以上ナラサレハ化膿性葡萄狀球菌ニ抵觸シテ即時ニ殺滅スルノ力ナシ

(二) 昇汞

此試驗ニ使用セシ昇汞ハ其百分中九九・八六ノ化學的純昇汞ヲ含有ス昇汞水ハ千倍二千倍三千倍ノ三種ニ就キテ試験セリ

試驗ノ方法ハ石炭酸水ト同シ然レトモ此試驗ノ目的ハ其効力ヲ檢定スルト共ニ單純ナル昇汞水ハ化學家ノ云ヘル如ク果シテ速ニ分解シテ其効力ヲ減スルヤ否ヤ其分解ハ之レヲ溶解スル水質ニ如何ノ關係ヲ有スルヤ又分解ヲ防ク爲ニ何等ノ藥劑最モ適當ナルヤ等ノ疑問ヲ確カメムコトヲ企テタリ而シテ昇汞水ノ効力保存ノ爲ニハ通常鹽酸ヲ用フル人多シ蓋シ鹽酸ハ昇汞水ノ効力保存ノ効アルノミナラス蛋白質ノ凝固ヲ防クノ効アルカ故ニ制腐藥及消毒藥等ニハ最モ適當ナリトス故ニ余ハ第一ニ鹽酸ヲ試験セリ(其他諸品ハ未タ着手セスシテ止ミス)今回ノ試驗上單純昇汞水ノ變化ハ實ニ豫想外ニ速ナルコトヲ證セリ即チ調製後暫時ニシテ忽チ其効力ヲ減シ時日ヲ

經ルニ從ヒ著シク減弱シ殊ニ常水ヲ用フルトキハ縮水ヲ用ヒタルトキニ比スレハ一層迅速ニシテ且ツ顯著ナリ而シテ鹽酸ヲ加フルコトニ就キテハ其分量ノ多少ニ依リテ効力保存ノ時日ニ長短ノ差アル等試験成績甚々複雑ナルノミナラス前記ノ如ク葡萄球菌ハ發育ノ度ニ從テ抵抗力ニ強弱ノ差アルヲ以テ其成績表上一層複雑ヲ加ヘ殆ト收拾スヘカラス此複雑ナル關係ヲ一々檢定スルニハ到底短日月ノ許ス所ニ非ス故ニ左ニ其概畧ヲ掲ク

(第六表) 千倍乃至三千倍昇水(中性ノ蒸餾水ヲ以テ製シ直ニ使用ス)効力試験

昇水	藥液製造後時間	可檢菌培養日數	對照																	
			秒三十	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	一分十一	一分十二	一分十三	一分十四	一分十五	一分二十	
三千倍	一時間以内	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二千倍	全	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一千倍	全	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

葡萄球菌ノ抵抗力ハ昇水ニ於テモ石炭酸ニ於ケルカ如ク同一ノ培養基中ニ發育スルノ時間長キニ從テ増加スルコト第七表ニ示スカ如シ

(第七表)

昇水	調製後時間	可檢菌培養日數	對照																	
			秒三十	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	一分十五	一分二十					
三千倍	一時間以内	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全	全	第六日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全	全	第十一日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(第八表) 三千倍昇水効力保存試験(中性蒸餾水ヲ以テ製シ褐色瓶ニ入レ暗所ニ蓄藏ス)

昇水	調製後試験ニ至ル迄ノ時間	可檢菌培養日數	對照																	
			秒三十	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	一分十五	一分二十	一分二十五	一分三十			
三千倍	一時間以内	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全	第二日	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全	第四日	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

即チ藥液調製後一時間以内ニ用フルトキハ生存時間僅ニ五分ナルモ第四日ニ至レハ一時間以上トス

(第九表)

清水ニテ調製セシ三千倍昇水ニテ第八表ト同一ナル目的ニテ試験セリ蒸餾水ニ比スレハ効力ノ減弱一層速ナルヲ知ルヘシ此水ハ乾燥残渣〇・三二四有機物〇・〇二六八六格魯兒〇・〇〇七一硫酸〇・〇八五七五硬度八・〇〇五

昇水	藥液調製後時間	可檢菌培養日數	對照																	
			秒三十	一分	二分	三分	四分	五分	十分	一分十五	一分二十	一分二十五	一分三十	一分四十	一分五十	一分六十				
三千倍	調製直後	第三日	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全	全六時間後	全	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全	全第二日	全	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

千倍昇水モ常水ヲ以テ調製シ五六日間室内ニ放置セシ液中ニハ可檢菌培養第三日ナレハ二分間同第十日ナレハ三十分間生存スルヲ認メタリ

昇水ニ鹽酸ヲ加フルトキハ其効力ヲ保存スルコト之レヲ加ヘサルモノニ比スレハ著シク長シ

リゾール水	可檢菌培養 日數	對照	秒三十	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	分十一	分十二	分十三	分十四	分十五	分二十	分三十
一、〇%水	第十二日	+	+	+																
一、五%水	全	+	+	+																
二、〇%水	全	+	+	+																

(四) 過滿俺酸加留膜

(第十四表) 通常品ヲ用ヒ〇・一—〇・二—〇・五—一・〇%水ヲ試驗セリ

試驗藥	可檢菌培養 日數	對照	秒三十	一分	二分	三分	四分	五分	六分	七分	八分	九分	十分	分十一	分十二	分十三	分十四	分十五	分二十	分三十
〇・一%水	第六日	+	+	+																
〇・二%水	全	+	+	+																
〇・五%水	全	+	+	+																
一、〇%水	全	+	+	+																

(五) 硼酸

硼酸ハ熱湯ニ抱和セシメ十五度ニ冷却シテ其上清ヲ試驗ス此抱和液中ニハ七十二時間(二晝夜)浸漬スルモ尙ホ生活力ヲ失ハス但シ中性ノ培養基中ニ一乃至二%ノ割合ニテ混加スルトキハ其培養基中ニハ發育セス但シ脾脫疽桿菌ノ如キハ此培養基内ニ發育ス

(六) 水楊酸

水楊酸モ亦硼酸ノ如ク抱和液ヲ製シ試驗スルニ二時間ニシテ葡萄狀菌ヲ殺滅ス故ニ前者ニ比ス

レハ其効力稍強シトス

以上試驗成績ニ依レハ六種ノ藥劑中制腐藥トシテハ「リゾール」最モ優等ナリトス蓋シ「リゾール」ハ石炭酸ニ比スレハ其殺菌力強ク刺戟性ハ却テ緩ナレハナリ唯代價稍高キヲ缺點トス

昇汞水ハ分解シ易ク之レニ鹽酸ヲ加フレハ刺戟甚シクシテ創傷洗滌等ニハ不便ナリ但シ食鹽ノ如キ緩和ノ品ヲ以テ効力保存ノ効充分ナレハ使用上大ニ便利ナレトモ未タ之レヲ試驗スルノ機會ヲ得ス故ニ他日詳檢シテ報告スヘシ

過滿俺酸加留膜ハ殺菌力強キモ硼酸、水楊酸ノ二品ハ殆ト制腐藥トシテ使用スルノ價値ナキモノトス

沃度仿謨ノ殺菌力ニ就テ

佐世保鎮守府病院附海軍少軍醫候補生 井上利三郎

沃度仿謨ノ制腐力ニ對シテハ臨床上ノ經驗ト試驗室ノ經驗トハ一致セサル所アリテ其効用ハ從來ノ一疑問タルヲ以テ聊カ其試驗ヲ試ミタリ即チ左ノ如シ

- (イ) 沃度仿謨ノ密閉シテ貯ヘタルモノヲ取り寒天培養基ニ其一部ヲ接種シ攝氏三十七度ノ孵室中ニ二十四時間乃至一週間容レ置キシモ遂ニ微菌ノ發生スルヲ認メサリキ
- (ロ) 常用沃度仿謨即チ平常病室ニ使用スル沃度仿謨ヲ取り同法ヲ以テ攝氏三十七度ノ孵室中ニ二十四時間容レ置キシニ各培養基ハ共ニ集落ヲ發生ス白金線ノ尖端ヲ以テ其一部ヲ取り之ヲ顯

微鏡下ニ檢スルニ一種ノ桿狀菌ヲ認ム但シ予ハ未タ其性質ヲ檢明スル能ハス蓋シ空氣中ノ微菌ナルベシ

(ハ) 沃度仿謨ノ密閉シテ貯ヘラレタルモノヲ取り之ヲ乳鉢中ニ於テ極メテ微細ノ粉末トナシ膠培養基ト共ニ溶解混和シ再ヒ凝固セシメテ之ニ綠色醗菌微菌ノ穿刺培養ヲ施セシニ二十四時間ニシテ穿刺痕ニ沿フテ發育繁殖スルヲ認メ綠色素ヲ發生シ其上部ヲ溶解スルコト通常ノ「ゲラチン」培養基ニ於ケル状態ニ異ラス尙ホ其一部ヲ取り懸滴試驗上ニ檢スレハ活潑ナル運動ヲ營ムコト亦通常ノ綠膿菌ト異ナラス又此綠膿菌ヲ寒天ノ斜面培養基ニ塗植培養ヲ行ヒ十分ニ發育ノ盛ニ色素ヲ發生スルヲ待テ之ニ多量ノ沃度仿謨ヲ撒布セシニ一時色素ノ減褪セルヲ認メタリシモ暫時ニシテ發生故ノ如ク之ヲ鏡下ニ檢スルニ亦前ト異ルコトナシ或ハ尙ホ多量ノ沃度仿謨ヲ膠培養基ノ溶解シタルモノニ混シ凝固セシメテ後再ヒ穿刺培養ヲ試ムルモ綠膿菌其中ニ生育繁殖スルコトヲ得タリ

以上ハ極メテ簡單ナル一二ノ試驗ニ過キスト雖モ沃度仿謨ハ其儘ニテハ決シテ殺菌ノ効ナキノミナラス常用沃度仿謨ノ如キハ已ニ其中ニ微菌ノ混入スルコトアルヲ知ルヘシ故ニ沃度仿謨ハ注意ノ密閉シタル器中ニ貯ヘサルヘカラス是ニ由リテ見レハ或人ノ唱道セシ如ク沃度仿謨ハ微菌中ノ「プロトプラズマ」ト抱合分解シ以テ其効ヲ奏スト云フハ疑ハサルヲ得ス蓋シハノ試驗ニ於ケル如ク此際沃度仿謨ハ確然微菌ト接觸シテ然カモ其發育スルコト此ノ如ク盛ナレハナリ尙ホ沃度仿謨ハ膿汁ニ逢フテ如何ナル作用アルヤヲ試ミント欲シ一膿瘍患者ノ切開ニ際シ直ニ若干ノ膿汁ヲ殺菌シタル「シヤール」ニ受容シ沃度仿謨ノ多量ヲ混シ其乾燥ヲ防カンカ爲ニ殺菌水ノ少量ヲ混シ解窩中ニ容レ置キ體温ト同一ノ温度ヲ與ヘ二十四時間毎ニ其中ノ一滴ヲ顯微鏡下ニ

檢スルニ多量ノ醗菌ヲ見ル其都度「ブリオム」或ハ寒天或ハ「ゲラチン」培養基ノ一二本ニ移植シ同温度ニ放置スレハ速ニ發育繁殖シ加之沃度仿謨膿液中ノ化膿菌ハ三四日ノ後ニ至リテ益増加スルヲ認ム他一二ノ法ヲ試ムルモ膿汁ニ沃度仿謨ヲ混和シテ二十四時間ヲ經過スルモ其内ノ化膿菌ノ死滅スルヲ確ムルコト能ハサリキ

右ハ只膿汁ト沃度仿謨トヲ混和シ體温ト同一ノ温度ヲ附與シテ試ミシ一試驗ニ過キス尙ホ進テ實際人ノ創傷ニ用ヒタランニハ如何ナランカヲ知ラント欲シ左ノ試驗ヲナセリ

一 裂創患者某ノ潰瘍面已ニ治愈セントシテ數法ヲ試ムルモ頑然トシテ未タ治愈スルコト能ハサルモノニ就キ創液ヲ檢シテ醗菌ヲ認ムル部ニ厚ク沃度仿謨末ヲ撒布シ稍効アルカ如キヲ見タレトモ(二)日ヲ經テ綳帶ヲ解キ檢スルニ創面已ニ結痂治愈シタレハナリ畢竟其成績ハ未定ナリト言ハサルヲ得ス蓋シ此創面已ニ治愈ニ垂ントシテ微菌ノ生活力大ニ衰ヘ假令沃度仿謨ヲ用ヒサルモ治愈シタルヤモ知ル可ラサレハナリ尙ホ經驗ヲ重ネテ他日効否ヲ確定スルノ機アルヘシ之ヲ要スルニ沃度仿謨ハ創液或ハ分泌液ニ逢フテ或ル化學的ノ變化ヲ起シ始メテ奏効スルモノナリト雖モ尙ホ深ク其原理ヲ考究セハ大ニ趣味アル問題ナルヘシ但シ其創部ニ於ケル微菌中ノ「プロトプラズマ」ト抱合分解シテ以テ制腐ノ効ヲ奏ストハ疑ハサルヲ得ス

然レトモ沃度仿謨ノ現今ノ如ク汎用セラル、ニハ必スシモ制腐藥トシテノミ用フルノミナラス

創面ニ用ヒテ治愈ヲ促進スルノ効與リテ大ニ力アレバナリ今其効ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 不良ノ肉芽ヲ破壊改良シ其發生ヲ促進ス

(二) 創面ノ分泌ヲ減ス

(三) 疼痛ヲ鎮靜ス

以上述フルカ如ク沃度防護ハ其殺菌力ハ微弱ナルニモ拘ラス毎ニ或ハ撒布料トシ或ハ沃度防護綿紗或ハ沃度防護コロデオン等トシテ汎ク世ニ使用サルヘキモノトス然レトモ之ヲ貯フルニハ極メテ注意シ密閉セル器中案スルニペトリノ「シヤール」適當ナランニ於テシ手指ヲ觸ルヘカラス今尙他ノ制腐藥ニ比シ利益アル點ヲ擧クレハ左ノ如シ

(一) 創面ヲ刺戟セス

(二) 其効長時ニ彌ルコト諸制腐藥中第一ニ居ル是レ水ニ溶解セサルヲ以テ創面ニアリテ吸收セラ
ル、コト極メテ少ク其留マレコト最モ長キカ故ナリ

(三) 沃度防護綿紗ハ其他ノ制腐藥的綿紗ニ優ル即チ石炭酸綿紗ハ揮發性ニシテ久シク其藥力ヲ保有シ難シ又昇秉綿紗ハ石炭酸ノ如ク揮發セサルモ容易ニ液ニ脱去セラレテ藥力ヲ失ヒ易シ之ニ反シテ沃度防護綿紗ハ創部ニ於テハ殺菌力甚タ弱キモ以上二點ニ於テ彼等ニ優ル所アリ且ツ其製法容易ナリトス

日清戰役海軍衛生史第四編 畢

頁	行	誤	正
一九	九	掛ル	架スル
二二	一五	大機關室	大機關土室
二五	一九	ウオターウエ	ウオターウエイ
三三	二	單庫員	彈庫員
四四	九	同令塔	司令塔
五三	二	小口徑ノ	小口徑砲ノ
五八	一八	困難	困難
七二	九	右舷	左舷
八六	六	四番砲側	四番砲側
一一八	二	那那	那那
一二〇	七	連擊	連擊
同	九	連擊	連擊
一二三	五	連擊	連擊
一二四	一	索引	索引
一三五	八	(12) 索引	(125) 索引
一五〇	一七	温布	温布
一六七	一	タレ	撃タレ
一八九	一六	腐具	腐具
一九三	一五	創各	各創
二〇四	七	松島ノ下乗ヲ脱ス	松島ノ下乗ヲ脱ス
頁	行	誤	正
二〇六	一〇	皮膚ノ全ノ下層ヲ脱ス	皮膚ノ全ノ下層ヲ脱ス
二〇八	一三	充血ノ下血ハ衍	充血ノ下血ハ衍
二二一	一一	隨意	隨意
二九〇	一三	見ルニ	見ルニハ
二九一	一三	其モ	モ其
三〇四	二	貽セシモノノ下ノヲ脱ス	貽セシモノノ下ノヲ脱ス
三三一	一七	地ノ	他ノ
三四〇	一四	鐵片	金屬片
三四五	二	少カラスノ下ルハ衍	少カラスノ下ルハ衍
三四八	一五	擦撃	擦撃
三七二	八	金屬片	鐵片
三七三	一三	皮上軟組織	皮下軟組織
三八四	一	金屬片	鐵片
四二二	一五	其口徑	其創口
四二九	一〇	貫通創ト同様	貫通創ナレハ同様
四三二	九	貫通創	貫通創
四六四	六	敷寸	敷册米
四八九	五	治療	治療所
四九五	一三	乃至三%	乃至四%

7526

明治三十一年九月二十日印刷
明治三十一年九月廿五日發行

海軍省醫務局

印刷者 東京市日本橋區兜町二番地
星野 諤次 郎

印刷所 東京市日本橋區兜町二番地
東京印刷株式會社

75

